



現代日本語の反語表現についての研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-06-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 案野, 香子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00002547

現代日本語の反語表現についての研究

博士論文

大阪府立大学大学院

人間社会学研究科

言語文化学専攻

2017年1月6日

案野 香子

目次

第1章	研究の対象・目的・方法	1
1.	研究の対象	1
2.	研究の目的	2
3.	研究の方法	3
4.	論文の構成	5
第2章	先行研究と本研究の立場	7
1.	はじめに	7
2.	先行研究	7
2.1	疑問文の先行研究	7
2.1.1	山口堯二（1990）の疑問文研究	7
2.1.2	安達太郎（1999）の疑問文研究	8
2.1.3	森山卓郎（2000）の疑問文研究	9
2.1.4	宮崎和人（2005）の疑問文研究	10
2.2	反語文の先行研究	12
2.2.1	山口堯二（1990）の反語文研究	12
2.2.2	仁田義雄（1991）の反語文研究	13
2.2.3	グループ・ジャマシイ（1998）の反語文研究	15
2.2.4	森山卓郎（2000）の反語文研究	15
2.2.5	小松光三（2001）の反語文研究	16
2.2.6	安達太郎（2004）の反語文研究	17
3.	本論文の立場	19
4.	まとめ	20
第3章	反語文を疑問文と区別する要因	22
1.	はじめに	22
2.	先行研究	22
3.	研究の方法と構成	23
4.	反語文を疑問文と区別する要因	23
4.1	イントネーション	23
4.2	文脈の支え	25
4.3	語句による反語化	26
4.4	定型的な構文	27
4.4.1	反語文の定型	27

4.4.2	主語のガ格表示	-----	29
4.4.3	ノダ文が疑問文になりやすい場合	-----	29
4.5	疑問語の実質化の困難さ	-----	30
4.6	先行文脈からの妥当性の低さ	-----	31
5.	まとめ	-----	32
第4章	専用形式を用いた反語文	-----	33
1.	はじめに	-----	33
2.	先行研究	-----	33
3.	研究の方法と構成	-----	35
4.	「たまるか」文	-----	36
4.1	構文レベルの議論	-----	36
4.2	意味レベルの議論	-----	37
5.	「ものか」文	-----	39
5.1	構文レベルの議論	-----	39
5.1.1	述語と「ものか」との接続	-----	39
5.1.2	「ものか」文におけるとりたて助詞「なんか」	-----	41
5.2	意味レベルの議論	-----	45
5.3	「ものか」文に生起する疑問語	-----	49
6.	「たまるものか」文	-----	52
6.1	構文レベルの議論	-----	52
6.2	意味レベルの議論	-----	52
7.	「<連体修飾節+ヒト名詞>があるか」文	-----	55
7.1	構文レベルの議論	-----	55
7.2	意味レベルの議論	-----	55
8.	まとめ	-----	57
第5章	疑問語疑問文形式の反語文	-----	58
1.	はじめに	-----	58
2.	先行研究	-----	58
2.1	構文論的側面からの先行研究	-----	58
2.2	語用論的側面からの先行研究	-----	59
3.	研究の方法と構成	-----	61
4.	反語の「誰が」文	-----	62
4.1	「誰が」文における反語文と疑問文の区別	-----	62
4.2	「誰が」文の構文レベルの議論	-----	64

4.2.1	反語の「誰が」文が可能動詞述語をとった場合	64
4.2.2	反語文に見られる程度の甚だしさ	65
4.3	「誰が」文の意味レベルの議論	67
4.4	反語の「誰が」文の語用レベルの議論	69
4.5	反語の「誰が」文のまとめ	71
5.	反語の「どこが」文	71
5.1	「どこが」文における反語文と疑問文の区別	71
5.2	反語の「どこが」文の構文レベルの議論	74
5.3	反語の「どこが」文の意味レベルの議論	78
5.3.1	「動作・行為・事柄に対する評価」を表す場合	78
5.3.2	「呆れ、とまどい」を表す場合	78
5.4	反語の「どこが」文の談話レベルの議論	82
5.5	反語の「どこが」文の語用レベルの議論	88
5.6	反語の「どこが」文のまとめ	89
6.	反語の「何が」文	89
6.1	「何が」文における反語文と疑問文の区別	89
6.2	反語の「何が」文の構文レベルの議論	92
6.3	反語の「何が」文の意味レベルの議論	95
6.4	反語の「何が」文の談話レベルの議論	98
6.4.1	「引用」	98
6.4.2	動作・行為の言語化	101
6.4.3	先行文脈に対する評価の仕方	105
6.5	反語の「何が」文の語用レベルの議論	106
6.6	「何が悪い」と「どこが悪い」の相違	108
6.6.1	構文的相違	108
6.6.1	語用論的相違	109
6.7	反語の「何が」文のまとめ	112
7.	反語の「どうして」文	112
7.1	「どうして」文における反語文と疑問文の区別	112
7.2	反語の「どうして」文の構文レベルの議論	115
7.3	反語の「どうして」文の談話レベルの議論	116
7.4	反語の「どうして」文のまとめ	119
8.	まとめ	119
第6章	肯否疑問文形式の反語文	120
1.	はじめに	120

2. 先行研究	122
3. 研究の方法と構成	124
4. 反語文と疑問文を区別する要因	125
4.1 イントネーション	125
4.2 否定的語句による反語化	126
4.3 非題目化現象	127
4.4 文脈の妥当性	127
5. 反語の「か」文の構文レベルの議論	129
5.1 反語文の命題のスコープ	129
5.2 反語文の階層構造	130
5.3 文脈から見た反語文	131
6. 反語の「か」文の語用レベルの議論	133
7. まとめ	134
第7章 結論	136
1. はじめに	136
2. 専用形式を用いた反語文の全体像	137
3. 疑問詞疑問文形式の反語文の全体像	138
4. 肯否疑問文形式の反語文の全体像	141
5. 本研究における関連研究分野に対する意義と貢献	141
6. 今後の課題	142
用例出典	144
参考文献	147

第 1 章 研究の対象・目的・方法

1. 研究の対象

本論文では、現代日本語の反語表現を研究対象とする。反語表現と言え、例えば次のような文である。

- (1) 彼が泥棒なんかするものか。
- (2) 誰が君の代わりをするなんて言った。
- (3) 初デートで普通女子側がおごったりするか。

いずれも疑問文形式をとる文であるが、話し手にとって不明な点を解消しようとする働きは失せ、話し手の否定の主張がなされる文である。本論文では、この類の文を反語文という。

さらに本論文の反語文は 3 種類ある。一つ目は(1)に代表されるように、疑問文とは混同されず、反語文にしか解釈できない文で、文末に「ものか」あるいは「たまるか」、「たまるものか」が接続する¹。つまり、(1)は、「彼が泥棒なんかするものか」は文末に「ものか」があることによって、「彼は泥棒なんかしない」という含意しか読み取れないのである。この「ものか」、「たまるか」、「たまるものか」を本論文では、「反語表現の専用形式」と呼ぶ。

二つ目は、(2)に見られるように、「誰」「どこ」「何」「どうして」のような、疑問語が現れる文で、疑問語疑問文の形式をとる反語文である。

三つ目は、(3)に見られるような肯否疑問文の形式をとる反語文である。「初デートで普通、女子の側がおごったりしない」という話し手の否定的主張がある。

(1)は上述したように反語にしか解釈できないが、(2)と(3)は、文脈次第では疑問文にも解釈できる。

一方で、疑問文にしか解釈できない文もある。

- (4) さあ、みなさん。箱の中に何がありますか。

¹ この場合の「ものか」は「動詞辞書形・名詞+な・形容詞辞書形・形容詞動詞+な」の述語形態に接続する。「たまるか」「たまるものか」は動詞テ形に接続する。

(4)は、「箱の中に何がありますか」の含意として「箱の中に何もない」という否定的主張があるとは解釈しにくい。つまり、この文においては、箱の中にある物は何かという不明な情報を、話し手が聞き手に働きかけて埋めようとするのである。

このように、反語文にしか解釈できない場合、反語文にも疑問文にも解釈できる場合、疑問文にしか解釈できない場合がある。ただし、本論文では、疑問文にしか解釈できない文がどのように成立するかという分析については深く追究せず、今後の課題とする。

本論文は研究対象を、上記の 3 つの場合、つまり、(1) 専用形式を用いた反語文、(2) 疑問詞疑問文形式の反語文、(3) 肯否疑問文形式の反語文として考察を進めることとする。

2. 研究の目的

従来の反語表現の研究においては、反語表現の定義を簡単に行い、代表的な例をいくつか挙げるにとどまっていた(山口 1990、森山 2000、安達 2004 他)。ここでは量的にも質的にも十分な研究が行われてきたとは言えない。先行研究の中で、前節で述べた「ものか」は必ず挙げられていたが、それは「動詞・形容詞辞書形+ものか」「名詞・形容動詞な+ものか」の接続の場合は反語として揺るぎない形式となり、誰がみても反語解釈が成り立つからであろう。しかし、その他の疑問語疑問文形式の反語表現、肯否疑問文形式の反語表現になると、構文レベルの要素だけでなく、その上に意味レベル、談話レベル、語用レベルの要素も絡むことによって反語解釈が成り立つ。本論文で用いる構文レベルの議論、意味レベルの議論、談話レベルの議論、語用レベルの議論というのは、次のようなものである。構文レベルの議論とは、その反語文がどのような品詞や活用の組み合わせによって成り立っているかという形式的な側面を問題とする。意味レベルの議論とは、その反語文がその文だけでどのような表現効果があるかという問題を扱う。談話レベルの議論とは、ある構造をもった反語文が談話の中において聞き手と話し手の間でどのように現れ、反語解釈されているのかを考察する。語用レベルの議論は、反語表現に言語外要素(聞き手の知識など)がどのようにかかわっているかを考察する。反語研究は、このような広範にわたった分野における分析が必要なため、体系的研究が難しくなり、研

究史においても避けられる傾向にあったのではないかと思われる。

反語表現そのものは、研究史においてもメカニズムは十分明らかにされていないが、それは、日常生活において全く使われない表現だからというわけではない。むしろ、我々が意識していないだけで、他人の話し言葉を聞くと意外とよく使われていることがわかる。また、アニメ、ドラマ、漫画、小説を見ても多く使われている。現代の非日本語母語話者の多くは、アニメ、ドラマ、漫画、小説などから日本語に親しみを覚え、日本語学習の動機付けがなされている。そのような漫画、小説といった文字言語における反語表現を分析することは、日本語研究ひいては日本語教育文法研究に有益であるといえる。事実、「ものか」文は、日本語能力試験（JLPT）の N2 レベルの出題項目である。小説などを読んでも反語表現だということは N2 レベル以上の学習者ならだれでもわかる。しかしながら、彼らにとって単なる理解語彙にとどまっており、実際に使用している日本語学習者はほとんど見られない。

反語表現というところのように「ものか」を用いた文しか学習させない現状があるが、実際には上述の「たまるか」「たまるものか」の形式もあり、また、疑問語疑問文形式の反語文、肯否疑問文形式の反語文など多様である。それらのニュアンスを理解させ、正しい使い方を身につけさせることも日本語教育従事者の役割であり、その結果、日本語学習者の表現の幅を広げることになる。そういう意味で、従来十分になされてこなかった反語表現の研究を本論文で体系的に行うことは、日本語学習者が「反語表現を理解する力」「反語表現を使用する力」を養うことに貢献できるのではないかと思われる。

そこで、本論文では、従来の反語研究を吟味し、その到達点と、残された課題を明らかにする。さらに、従来明確にされてこなかった反語表現の構文レベル、意味レベル、談話レベル、語用レベルの特徴を体系的に分析し、現代日本語の反語表現の全体像を記述することを目的とする。

3. 研究の方法

本論文で扱う反語表現は、現代日本語のものを対象とする。また、反語表現は話し言葉でも多く現れることを前節で示した。そこで、本論文では、反語表現および疑問表現の用例を主に国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（以下 BCCWJ）から『中納言』を用いて検索、収集した。疑問語疑問文形式の反語文など、疑問語といったマーカーがあるものは、BCCWJ から検

索しやすいが、肯否疑問文の中の特に反語マーカがない無標の反語文²については BCCWJ からは検索できなかった。したがって、肯否疑問文形式の反語文については、文末に「か」「かい」というマーカが現れる文に対象を絞り、漫画、ライトノベル、小説から反語文を収集するとともに、不足分は BCCWJ から補った。また、専用形式を用いる反語文は BCCWJ 自体用例が少なかった。そのような場合は、漫画、ライトノベル、小説などから手作業で収集した用例を用いたり補ったりした。つまり、本論文では、大量の用例から法則を記述する帰納主義をとっている。

ところで、反語表現は話し言葉に現れるとしているのにも関わらず、なぜ国立国語研究所『日本語話し言葉コーパス』といった音声コーパスではなく、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』や、漫画、ライトノベルなど、文字言語（書き言葉）を用いたのか説明を加えておく。

書き言葉は常に読者を意識して行われたもので、読み手にターンを譲ることこそしないが、読み手に対する負担と効果のバランスを常に測りながら紡ぎ出されるテキストである（砂川 2005:6）。また、話し言葉と違って、言い淀み、話者同士の会話の重なり、フィラー、文のねじれなどはなく、談話を研究対象とする本研究にとっては、音声言語としての話し言葉を分析対象とするより、書き言葉のほうがまとまっており、研究対象として適していると言える。また、反語表現は話し言葉でもよく用いられると上述したが、本来レトリカルな表現である特徴をもつことから『日本語話し言葉コーパス』などを資料としてもそれほど頻繁に観察される表現ではない。そのような事情から、漫画、ライトノベル、BCCWJ における小説の会話文、ブログ、Yahoo!知恵袋からも話し言葉は十分抽出できると判断した。

同時に、会話文によく出現する反語表現、それに対する心内発話あるいは地の文によく出現する反語表現といった文体の区別も書き言葉を対象としなければわからないことである。

以上の理由によって、本研究では、BCCWJ はじめ、文字言語を研究対象とし、そこから抽出した反語文と疑問文を記述し、帰納的に法則を見出すという方法をとる。

² 例えば「俺がお前に嘘ついたこと、ある？」のような文字マーカのない文。

4. 論文の構成

本論文では、次の構成のもと、論を進めていく。

第1章では、研究の対象・目的・方法を示す。

第2章では、先行研究と本稿の立場を述べる。

先行研究の分析を通して、本論文の根幹をなす疑問文と反語文について吟味する。疑問文は、山口（1990）、安達（1999）、森山（2000）、宮崎（2005）をとりあげ、疑問文とはどのようなものだと述べられているか考察する。反語文は、山口（1990）、仁田（1991）、グループ・ジャマシイ（1998）、森山（2000）、小松（2001）、安達（2004）、の言及をとりあげ、本論文にとって示唆的な部分と問題となる点を明らかにする。これらの考察にのっとり、本論文がどのような立場で疑問文、反語文を捉え、今後、どのように論を進めていくかを述べる。

第3章では、反語文を疑問文と区別する要因について述べる。

反語文は疑問文としばしば同じ文型の場合がある。例えば「誰がそんなことを言った」などである。同じ文型でなくても、ともに疑問文形式をとっていることから、その文を疑問文か反語文のどちらに解釈するか難しい場合がある。そこで反語文を疑問文と区別する目安のようなものが共通してあるのはいか、という観点から第3章を執筆する。

第4章では、専用形式を用いた反語文について述べる。第1章第1節でも述べたが、ある文末マーカ―が接続すると、反語表現にしか解釈できない場合がある。この文末マーカ―を反語表現の専用形式と呼ぶ。「たまるか」「ものか」「たまるものか」がある。「もんか」「たまるもんか」といった異形があるが、ここでは、「たまるか」「ものか」「たまるものか」に統一して記す。さらに次のような例がある。

(5) キョロキョロしながら歩く奴があるか。

このように「<連体修飾節+ヒト名詞>があるか」の形式も、反語解釈を導く。よって本論文では、この形式も反語表現の専用形式と見なし、構文的レベルおよび意味レベルの面から議論を行う。

第5章は、疑問語疑問文形式の反語文の特徴について述べる。反語文を構成する疑問語ごとに構文レベル、意味レベル、談話レベル、語用レベルそれぞれ

れについて議論を行う³。本論文では、文の中で主格成分となる「誰が」文、「どこが」文、「何が」文の3種と、そして「どうして」文をとりあげることとする。その中で、「どこが」文と「何が」文においては類似点もある。例えば「どこが悪い」と「何が悪い」は入れ替えても文法的に論理的である場合がある。第5章では、「どこが悪い」と「何が悪い」の意味的相違点にも触れる。

第6章では、肯否疑問文形式の反語文の特徴について述べる。

肯否疑問文は「ものか」文や疑問語疑問文形式の反語文に対して、特別なマーカがあるわけではないが、それでも反語解釈なされる場合がある。第5章では、文末に「か」が接続する文に対象を絞り、構文レベルおよび語用レベルから議論し、どのような要因があるとき反語解釈なされるかを明らかにする。

第7章では、本論文の考察全体をまとめ、さらに本研究の関連研究分野に対する意義と貢献を考え、今後の課題をあげ、結論とする。

³ 疑問語によって反語文の性質が異なるため、全ての種類の反語文で同じレベルの議論が行われるわけではない。

第 2 章 先行研究と本稿の立場

1. はじめに

疑問表現と反語表現は表裏一体の関係にある。第 2 章では、第 2 節で疑問表現と反語表現に関する主な先行研究を検討し、本研究を進めるための問題点を明らかにする。その上で、第 3 節で本論文における疑問文と反語文の定義を行う。また本研究を進めるにあたっての術語等に対する立場を示す。

2. 先行研究

2. 1 疑問文の先行研究

2. 1. 1 山口堯二（1990）の疑問文研究

山口（1990：5-8）では、疑問表現に「問い」と「疑い」をふくめるのは当然であるとし、「典型的な疑問表現は、少なくとも内面の疑念か、内面の問いかけに発するものであると見てよい」、つまり、「内面の疑念とその解消をめざす問いかけとに基づき、かつ、それを示す表現であると考えてよい」と述べる。さらに次のように述べる。

内面の問いかけは、だれかに解答を要求する解答要求志向となる前に、主体みずから疑念を解消しようとする疑念解消志向であるといつてよい。しかし、重要なことは、その疑念解消志向も、主体みずから疑念の解消をめざす限りにおいてすでに解答を出そうとする志向を内包していると考えなければならないことである。（略）典型的な疑問表現は内面の疑念と問いかけを示すと同時に、それ自体すでに自問自答的な解答の模索を経て提示された主体の解答案でもある。

つまり、山口（1990）においては、疑問表現は内面の疑念と内面の問いかけに発するものであり、だれかに解答を要求する前に、主体みずから疑念を解消しようとする志向を持つものである。そして何よりも山口（1990）の疑問表現の説明の中で強調されているのが、それ自体「主体の自問自答を示す解答案」であるということである。解答案であるということは、主体が対話の相手に向けられた「問い」の表現においても、可能な限り具体的な判断を自ら提示することである。また、個別的な概念が示せない場合は、疑問語の種類によ

ってどのような類の概念を解答として求めているかを示すことができるということである。

このように、疑問表現は「問いかけ」と「疑い」からなると捉え、さらに、そのこと自体、解答案を示していることを指摘したことは、山口（1990）の疑問表現の研究の成果である。しかし、阪倉篤義（1975）『文章と表現』（角川書店）を引用し、受けついでいる概念としての「内面の疑念」と「内面の問いかけ」については、分かりにくさが残る。おそらく主体の自問自答といった言語活動を指すのではないかと思われるのであるが、やはり明確ではない。山口（1990）全体を見渡しても、上述の不明点の解答は述べられていない。

2. 1. 2 安達太郎（1999）の疑問文研究

安達（1999）は、山口（1990）とは違って、疑問文単体そのものを整理、議論するというより、関心の対象を、疑問文における話し手の主観性あるいは「判断」の実現の解明というところにもつ。

その上で、否定疑問文の「傾き（bias）」と呼ばれる現象を示し、それは疑問文において話し手が持つ「判断」の一つの現れであるとする。否定疑問文に加えて、疑問文形式として「だろう」「ではないか」「のではないか」この四つを特に挙げ、話し手の判断、そして情報提供と情報要求について議論を行っている。

その結論として、以下の疑問文の成立条件を設定する。

- (a) 話し手には命題内容の真偽判断、あるいはその命題を構成する情報の一部が欠けている。
- (b1) 話し手は応答可能な存在として聞き手を評価する。
- (b2) 話し手は聞き手に問いかけることによって不確定性を解消すること意図する。

（安達 1999 : 131）

安達（1999）において、否定疑問文を観察することから「傾き」という現象を見出し、追究している点は、本論文で反語研究をする上で、類似した立場をとると思われ、興味深い。「傾き」とは、つまり「ある命題の真偽を聞き手に問いかけるとき、話し手にどちらかの値への見込みが存在すること」（同：

52) とされる。例えば、次のようなものである。

(1) 私に黙ってることない? (安達 1999 : 48 (2))

(2) 私に黙ってることあるんじゃない? (安達 1999 : 49 (2)')

上記 (1) (2) のような否定疑問文を用いて、話し手が「(聞き手は) 私に黙っていることがある」という前提のもとで、肯定の判断を下している現象である。

本論文のテーマは「現代日本語の反語表現についての研究」であり、この「傾き」には強い関心を寄せるが、実は「傾き」とは概念を異にする。(3) はどうだろうか。

(3) こんなひどいことってある?

話し手は「こんなひどいことってない」という前提で聞き手に訴えかける。これも一種の「傾き」であろうが、一方的に訴えている点で、やはり反語と解釈するのが適当である。「傾き」とは、話し手にどちらかの見込みが存在することである。しかし、反語表現はそれがさらに極端になり、話し手の一方の主張を述べることだと思われ、そこに違いがあると思われる。

2. 1. 3 森山卓郎 (2000) の疑問文研究

森山 (2000 : 50-52) では、疑問文のあり方について、選択関係という観点から検討する。ここでいう選択関係とは、yes-no 疑問文であれば、肯定と否定が論理的な意味として中和するという性質を持つことをいう。つまり、次の (4) の二つの文のように、肯定と否定が論理的に同じ意味として使われうるということである。(実際にどちらを取り上げるかという違いはある)。

(4) a. 彼は来るか。

b. 彼は来ないか。

したがって、疑問文に対して、矛盾対立する内容を付加した疑問文、すなわち

(5) という文も可能なのである。

(5)彼は来ますか、あるいは、来ませんか。

このことは、疑問文においては、述べられている内容に矛盾対立する内容は否定されず、そのいずれかが真になるという関係で並立しているということを表す。肯定と否定とが、どちらかが真として選択されねばならないという関係のもとで、競合しているのものであって、情報的に極めて不安定な関係だとする。

また、不定疑問文の「不定」とは、対立する要素どうしの中でいずれが真であるかわからないという状況を表すとする。

以上の森山（2000）は要するに、「yes-no 疑問の場合は肯定と否定、不定疑問の場合はその不定内容というように、矛盾対立する内容が、選択すべき関係のまま併存状態にある、としてまとめることができる」（森山 2000：52）とされる。

このように、森山（2000）では、yes-no 疑問文（いわゆる肯否疑問文）と不定疑問文（いわゆる疑問語疑問文）の基本的な意味を分析するのに、肯定と否定の選択、「不定」の対立する要素の選択といった観点が用いられている。すなわち、肯否疑問文であれば、述べられている内容に矛盾対立する片方の内容が否定されるのではなく、肯定と否定とが「どちらかが真として選択されねばならないという関係のもとで、いわば競合している」（森山 2000：51）という考え方を持っている。どちらが否定されるのではなく、「競合」しているという点で興味深い。

例えば、忘年会のような集まりが開かれるとき、ふとある人物のことが頭をよぎり、

(6)彼は来ますか。

と発話したとすると、話し手が想起しているのは、「彼が来る」という期待であり、あるいは、「来てほしくない」という裏の期待でもある。そうすると、(6)の肯否疑問文は、「彼は来ますか」「彼は来ませんか」という肯定と否定の選択関係となると言える。

一方、不定疑問文（疑問語疑問文）の場合はどうだろうか。森山（2000）

の例のように、仮に夜道での人影に

(7)あなたは誰ですか。

と言う場合、「誰」は「太郎、二郎、三郎… n」という、まさに「不定」であり、要素は対立しているとは言い難い。「学園祭の仮装行列の準備の場」で同じ文を言う場合とは「要素の範囲が違う」(森山 2000 : 51)とは述べられているが、(7)は範囲が無限であり、その中での選択関係というには無理があると思われる。

発話される場面によって異なるが、(7)のような疑問語疑問文の場合はやはり「情報の一部が欠けており」、「不確定性を解消することを意図する」(安達 1999 : 131) 意味・機能があるのであり、必ずしも選択関係において文が成立しているとは言えないと思われる。

2. 1. 4 宮崎和人 (2005) の疑問文研究

宮崎 (2005) では、現代日本語の疑問文の形式と意味・機能について、主にモダリティ研究の文脈から、疑問文をどのように記述するかということが問題とされている。また、宮崎 (2005) は本章で先に挙げた安達 (1999) と共通した問題意識を有しており、しばしば引用もしている。

宮崎 (2005) で考察の対象となる「疑問文」とは、特に「疑いの文」と「確認要求文」であり、話し手と解答案の間の意味が特定の述語形式によって表現されるものである。「彼は来るだろうか?」「彼は来ていますね?」「確か彼も来ていたんじゃないかったですか?」など、話し手の命題の捉え方が、様々な述語形式に託される。このことから、疑問文の意味の違いは、単に聞き手から情報を引き出すのではなく、話し手の認識・判断の在り方に注目することによって説明されるものであると宮崎は述べる。(宮崎 2005 : 2-3)

疑問文の意味は、単に聞き手から情報を引き出すものではない、というモダリティ研究からの結論は、従来の疑問文研究から一歩進んだ視点から出たものと思われる。

しかし、文末形式として「だろうか」と「のだろうか」を区別していない点には疑問が残る。

(8)この娘のどこに惹かれているのだろうか。

(宮崎 2005 : 62(15) 下線宮崎)

上記(8)の例では、文末は「のだろうか」であるが、宮崎は「だろうか」の例として挙げている。仮に(8)の文末形式を「だろうか」にすると、(9)のようになる。

(9)? この娘のどこに惹かれているだろうか。

やはり文として不自然である。「のだ」文であるかないかが文の成立にかかわってくるのである。

ちなみに、田野村(1990)でも、「のだろう」の説明に、「だろう」を用いており、厳密には区別されていない。

些細なことかもしれないが、本論文で反語表現の研究を行う上で、「だろうか」と「のだろうか」の違いは重要であると考ええる。宮崎(2005)では、両者の相違を特に取り上げていないが、本論文の研究の方向性との違いとして、敢えて指摘しておきたい。

2. 2 反語文の先行研究

2. 2. 1 山口堯二(1990)の反語文研究

山口(1990)では、疑問表現の研究から反語表現へも連続して考察を展開している。疑問表現から移行した反語表現については次のように述べている。

主体がすでに正しい判断であることを予想していれば、それだけ一般に疑念は乏しくなるはずであるから、その予想に沿った方向には普通疑問表現はとられない。(略) それに対して、予想された判断の確認に重点をおく意図的な疑念の表明には、(略) 予想された判断の否定態を解答案とするかたちがとられることになるだろう。予想された判断を確認するには、もう一度その予想の正しさを疑ってみることが必要であり、それはとりもなおさず予想とは逆の判断が成り立つかをためしてみることだからである。

そこで、「AはBだ」という判断を予想しながらその正しさを確認するには、おのずから「AはBではないか」というかたちの解答案(確認案)

を提示してみることになるだろう。その場合、「AはBだ」という判断の予想が確かであればあるほど、「AはBではないか」という解答案（確認案）は否定されることになって、表現の意味は反語に傾くわけであるが、もし予想の確かさが乏しければ、「AはBではない」が最終的に正答として確認される可能性も残るだろう。（略）

ただし、確認しようとする判断があらかじめ確かなものであるほど、提示される確認案もそれだけ確実に否定されることになる。だから、確認案がもし「AがBでないものか」という場合なら、その案はおのずからそれを否定した「AはBである」という意味を明らかにすることになる。それとともに、通常は確認を要しないほどの判断をあえて確認しようとするその志向も、もはや本来の確認ということを超えてむしろ一つの判断を確言し、そうすることによって積極的に主張するための手段と見るほうがふさわしいものになる。つまり、確認（要求）志向は、その確認対象の確かさが増大するにつれてより確かな判断の確言・主張志向に転じていくと見てよい。そういう確言・主張志向をあらわに狙って成立するのが、もっとも反語らしい反語の表現といってよいだろう。（山口 1990：16-17 下線引用者）

要するに、話し手が予想した判断を確認するには、否定態の解答案を示すことになる。みずからその案を否定して一つの判断を確言・主張するのが、反語表現であるということになる。

このように山口（1990）は、反語を典型的な疑問表現からのつながりとして捉える。また、疑問表現における情意、疑問表現における推量語などの考察においても、反語表現をその連続するものとして示す。

しかしながら、考察の仕方が疑問表現における情意や推量語の項目において、通時的に用例を示すことが中心となっており、用例の形態ごとの緻密な意味の違いは分析されていないことが問題である。山口（1990）の研究が通時的研究であることが目的であるため、やむを得ないが、例えば次のような例文が挙げられている。

(10)さうでなければ、誰が鳥の暮れにこんな寒いところへ来るものか。

（浄瑠璃『曾根崎心中』）

(11)すべてこれ徒労でなくてなんであらう。

(川端康成『雪国』)

(10)は、「全称否定性の説得—主張の意のみが認められる例」であり、(11)は、「限定性の説得の意が認められる例」である。前者が「その成分に該当しうる概念をすべて否定する」もので、後者は「その成分が主体のすでもつ正答案の中心となる特定概念を限定する」ものとされる。この相違は、不定性の形式の反語文において見られるものであるが、(10)と(11)は結局、「誰が」「なん」に根拠があるのか、「ものか」という強い反語表現性によるのか、「すべてこれ徒労でなくて」という限定的表現によるのか、明確ではない。

意味を先に掲げて分類しているが、その方法が先に述べた緻密さがあるとは言い難いため、反語の全体像がわかりにくくなっている。

2. 2. 2 仁田義雄（1991）の反語文研究

仁田（1991）では、〈反語〉を傾き・予測と連続して捉え、定義を行っている。つまり、傾き・予測に応じた答えへの期待・要求は、話し手の主張、聞き手への確認、同意の要求に繋がることになることから〈反語〉が生じるのだとする。更に仁田（1991：150）でいう〈反語〉は次のように示される。

疑問表現の文形式の表す肯定事態・否定事態とは逆の事態を強く主張し、さらにそれへの確認・同意を聞き手に求める意味合いを含みうる文である。反語表現は、疑問表現の形式を持ちながら、話し手の判断を主張し、さらにそれへの確認・同意を含みうる、一種の疑似疑問文である。そのことから、反語表現の含む判断の主張、確認・同意の要求は、常に一定、絶対であるというのではなく、様々な状況・文脈といった運用論的な条件のあり方によって微妙に変化するものである。

仁田（1991）の場合、傾きと反語の連続を明確にし、反語の定義を行った点が優れている。また、反語表現を成り立たせるには「運用論的な条件」が必要であることを指摘している点も山口（1990）にはなかった観点である。

ただし、そこまで言及しておきながら、例として次の 2 例をあげ、前者は〈判定要求〉の判断の問いかけの形式をとる反語表現であり、後者が〈補充要

求)の判断の問いかけの形式を取る反語表現である、と述べるにとどまり、結局、山口(1990)の域を越えないものにとどまっているところが課題である。

(12)あんな奴と一緒に仕事ができるか。

(仁田 1991 : .150(69))

(13)「～、ガンで助からない体なのだったらあわてて殺す必要がどこにある？」

(仁田 1991 : 150(70))

仁田(1991)という書が、「運用論的条件」まで追究しない性格を持つものであるにしても、(12)は疑問文とも解釈できる一方、反語文とも解釈できる。その区別をするものはイントネーションだけなのか、ほかにもあるのか、今後考察しなければならない。また、(13)は、どのような疑問語の場合、〈補充要求〉の判断の問いかけの形式を取る反語表現になるのかも、考察対象としなければならない。

2. 2. 3 グループ・ジャマシイ(1998)の反語文研究

グループ・ジャマシイ(1998)は、反語表現についてその種類や用法などを体系的に記述しているものではない。日本語学習者、日本語教育従事者のための辞典であり、各文型ごとに接続、例文、意味が記述されている。反語に関する項目は、「ものか」だけが表記されている。「ものか」については、「Naなものか」「Aいものか」「Vるものか」のように承接し、例えば、「あんな人に頼むもんか」といった例が出され、「下降調イントネーションを伴って、強く否定する気持ちを表す。『ものか』は普通は男性が用いるが、丁寧体の『ものですか』は、女性が用いる」(グループ・ジャマシイ 1998 : 593)という解説がなされている。

先も述べたように、日本語学習用の辞典であるから、過剰な解説は却って混乱を招くと言えればそれまでであり、実際の日本語学習者も日本語能力試験 N2 レベル程度になれば、「ものか」が「～ではない」という否定対極の意味を表すことは知っている。しかし、「ものか」の類義語の「たまるか」の記述がないこと、他に反語として「何が」「どこが」「誰が」「どうして」などが文を構成したときにも全量否定の反語になるといった、反語のバリエーションが何

一つ載せられていないのは、日本語教育の限界を自ら定めていると思われる。

したがって、上のグループ・ジャマシイ（1998）の「ものか」の記述は、今後学習者が反語表現を豊富にし、表現力を高めようとしたときに、それ以上の日本語力にはつながらない可能性があると思われる。

2. 2. 4 森山卓郎（2000）の反語文研究

森山（2000）は、「疑問文の基本的な意味」についての言及の中で、反語についても述べている。

(14)彼のような不勉強な学生が検定に合格するものか。

(森山 2000 : 53(215))

(15)あんなに遊んでいる彼がどうして受かるだろうか。

(森山 2000 : 53(216))

前者は、あえて判定型の疑問形式を使うことによって、否定対極にある応答を想定させ、さらに強く主張するという修辞である（「ものか」は反語として定型化した表現と言える）。一方、後者は疑問詞疑問文であり、理由を考えても見あたらないという意味によって、やはりその否定対極にある主張を強くすることになっている」（略）（反語文は）話し手が本当にわからないという意味ではなく、典型的な疑問文とは言えない。（森山 2000 : 53）

森山（2000）のような反語の説明は、研究史の中で最も典型的なものの一つではないかと思われる。判定型の疑問形式といいながら、専用形式として一般的な「ものか」の文をあげる点、また、否定対極にある主張を強くすると述べる点、いずれも他の研究者が指摘している事柄である。しかし、この説明では、判定型の疑問形式文が反語解釈されるというメカニズムの検証にならないと思われる。森山（2000）では、文脈なしで反語解釈できる作例を挙げており、他にどのような反語があるのか、反語とは、強く主張するためだけのものなのか、文脈はかかわらないのか、という疑問が多く残る。

2. 2. 5 小松光三（2001）の反語文研究

小松（2001：668）では、反語について次のように述べる。

話し手が自己の判断に確信を持っているにもかかわらず、肯定判断なら否定の疑問表現で、否定判断なら肯定の疑問表現で問いかけ、話し手と同じ判断を聞き手に要求する表現をいう。（略）話し手と同じ判断をしなければならないという制約があるとはいえ、聞き手も判断に加わるので、話し手と聞き手との間に強い共通認識が成立する。それが、話し手からの強制ともとれる。こうした表現効果を一般に「強調」と呼ぶ。聞き手に独自の判断をさせないという点で、〈疑問〉とは異なる。このように表現意図という点では〈反語〉は〈疑問〉とは異なるが、表現方法という点では〈反語〉は〈疑問〉の範疇に属する。（略）反語と疑問とは、話し手の判断が確定しているかどうかという点では、原理的に対立的な関係にある。しかし、現実には、反語的傾向の強い表現から疑問的傾向の強い表現まで連続的に様々な表現が存在する。「そのようなことがあっていいのか」と反語で一応表現しながらも、「どこか聞き手に尋ねているようでもある」といった表現が存在する。

つまり、小松（2001）では、反語というのは聞き手に「話し手と同じ判断を要求する」という「強調」用法を認めながら、記述の最後には、反語と疑問の連続性を認めており、「どこか聞き手に尋ねているようである」としている。この小松（2001）の記述は、研究者が反語表現を行う際には必ず出現するものと思われ、間違いではないと思われる。

ただ、反語に関する疑問との記述の揺れは「現代語では、終助詞「か」を用いて反語表現を行う」と文末形式「か」に限定しているところからくるのであり、「だろう」「のか」「ものか」など他に反語の文末形式となる単位を見過ごしていることも弱点の一つではないかと思われる。どういう場合に、話し手が聞き手に判断の制約を加え、どういう場合に反語と疑問の連続性が生じるのかが明らかではない。

しかし、本論文では、バラエティに富む反語表現において、反語は疑問と連続するものであり、その中で聞き手に対して強制力のある反語もあることを認めることとする。

2. 2. 6 安達太郎（2004）の反語文研究

安達（2004）は、真偽疑問文、補充疑問文、「だろうか」「と思うか」「というのか」「ものか」について、文の形態、文末表現の双方から反語研究を行っており、さらに文脈依存が強いことも指摘しており、現代日本語反語研究において、管見では最も広く追究したものであると考える。

安達（2004：35）では、反語的な疑問文（〈反語解釈〉がなされる疑問文）とは「話し手が、疑問文の形式をとりながらも、質問に対する答えをすでに知っており、それを聞き手に強く主張するという機能を持つものである」とする。ただ、その一方で、話し手が聞き手に自らの主張を押し付けるだけではない。

(16) 「いったい、今さらどんな仕事について、自分の生活費と、息子の高い留学費用を捻出するだけの収入を得られますか？ボーイ長としては一流でも、私は帳簿一つつけられません。運転免許さえ持っていないのです」

（宮部みゆき『気分は自殺志願』^{スーサイド}下線安達）

例(16)において、話し手は聞き手に問いかけておいて、その問いかけの答えが「それだけの収入を得るのは不可能である」ことを聞き手に想起させようとしている。更に、安達（2004：37）は次のように述べる。

反語的な疑問文においては、〈問いかけ〉という疑問文の基本的な性質が失われているわけではないということである。むしろ、この〈問いかけ〉を媒介にして、断定的な応答を聞き手に想起させるというところに反語的な疑問文の基本的な性質があると考えられることができる。

ここが、疑問文を反語に解釈する際の考え方の分かれるところである。従来の研究のように反語表現を「ものか」形式に限定すると、確かに「話し手の主張を聞き手に強く訴える」という定義になるが、そうでない真偽疑問文形式の反語文、文末の「だろうか」などにおいては、聞き手に問いかけ、話し手の主張を想起させる、という定義もありうるだろう。本論文も、疑問文の反語解釈には、問いかけ性があると考えられる。

しかし、安達（2004）では、確かに実例を挙げて、一つ一つ検証している

が、そのための用例が量的に十分ではないと思われることから、議論の信憑性が欠ける。例えば、真偽疑問文の〈反語解釈〉は、可能動詞や存在動詞を述語としないものはわずかに 2 例のみと述べる。しかし、母集団がどのくらいかは明記していない。そこで、本論文で収集した真偽疑問文（肯否疑問文）形式の反語文の述語の種類と割合を見ると、真偽疑問文形式の反語文全体 586 例（100%）のうち、一般動詞 221 例（37.7%）、可能動詞 193 例（32.9%）、存在動詞 120 例（20.5%）、名詞・形容動詞語幹 46 例（7.8%）、形容詞 6 例（1.0%）であった。つまり、安達（2004）のデータと比べると、一般動詞が最も多いのである。

先の安達の 2 例は「一般性の高い表現への志向が見られる」と述べられているが、果たしてそう結論づけられるものなのか、今後の課題となる。

一方で、補充疑問文においては、疑問語がガ格名詞になっていることはほぼ間違いなく、本論文でも考察を行っている。安達（2004）では、「誰」「何」「どこ」、そして「どうして」の〈反語解釈〉が網羅的に検証されており、他の先行研究にはない丁寧さがあると言える。

しかしながら、「どこが」は形容詞を述語とすることがある、と述べているが、「何が」も同様であることには触れておらず、しかも、「どこが悪い」「何が悪い」という類義表現があることは考察されていない。

本論文では、安達（2004）を考察の基盤とし、更に緻密な研究を行いたいと考える。

3. 本論文の立場

以上、疑問表現、反語表現について、主な先行研究を観察してきた。反語研究については、ほぼこれで網羅されているといっても過言でないほど先行研究は少ない。そこで本節では、これらをもとに、本論文において疑問表現、反語表現をどうとらえるかという立場を明らかにする。

疑問表現は情報要求の機能を有し、安達（1999）にならって、以下の成立条件を持つとする。

- (a) 話し手には命題内容の真偽判断、あるいはその命題を構成する情報の一部が欠けている。
- (b1) 話し手は応答可能な存在として聞き手を評価する。

(b2) 話し手は聞き手に問いかけることによって不確定性を解消することを意図する。

(b1)は、「聞き手」が話し手自身である可能性もあるが、その場合においても、話し手は応答可能な存在として自らを認めることとする。もし、応答可能だと評価しないのであれば、〈疑い〉の表現となり、〈疑問〉にはならないものと考ええる。

反語表現は、先行研究からもわかるように様々な考え方があがるが、本論文では、「話し手が、疑問文の形式をとりながらも、質問に対する答えをすでに知っており、肯定事態・否定事態とは逆の事態を強く主張するという機能を持つもの」と考える。しかし、実例を観察すると、「強く主張する」とは言い切れない、反語表現と疑問表現の中間に位置すると見られるものもあり、いわば母語話者でもどちらの解釈をすればいいのか判断に苦しむ場合もある。「どちらかといえば、反語解釈しやすいのではないか」と判断される文があるのである。そのような現象の場合、「話し手が疑問文の形式をとりながらも、問いかけの機能を持ちつつ、質問に対する答えをすでに知っており、逆の否定的事態を聞き手に想起させる機能をもつもの」と規定する。

また、「疑問表現」「反語表現」「疑問文」「反語文」という術語であるが、基本的には「疑問表現」「反語表現」を用いるが、考察対象があくまでも「文」とであると明確な場合には「疑問文」「反語文」という言い方をする。

本論文では、反語表現を中心に記述研究することを目的とし、反語文それぞれの種類によってその特徴を捉え、構文レベルの議論、意味レベルの議論、談話レベルの議論、語用レベルの議論を行っている。構文レベルの議論は、その反語文がどのような品詞や活用の組み合わせによってなりたっているのかという形式的な側面を問題とする。また、その反語文がその文だけでどういう表現効果があるかという意味レベルの問題も扱う。一方、先行研究でもしばしば述べられていたが、反語表現は文脈依存性が高く、常にその点に目がいくことが多く、談話レベルの範疇では議論することが避けられていた。本論文では、ある構造をもった反語文が、談話の中において聞き手と話し手の間でどのように現れ、反語解釈されているのかを考察する。そして、反語表現には言語外要素（聞き手の知識など）も解釈にかかわってきており、語用レベルの議論も必要であると考えられる。

なお、疑問文の用例収集の際には「のだ」文の文末形式「のだろう（か）」は外した。「のだろうか」は「話し手が文脈から得られた情報や状況などにもとづいて推量しているときに使われる」（グループ・ジャマシイ 1998：469）ものであり、本論文では、上記の疑問の定義とは合致しない「推量」機能と捉えるからである。ちなみに、安達（2004）では、「だろう」の用例群の中に「のだろう」は入っておらず、区別されていると考えられる。

本論文の記号だが、構文的分析において「N」は名詞、「A」は形容詞・形容動詞、「V」は動詞を指す。また、例文の頭の記号が「？」の場合は母語話者から見てやや不自然、「??」はかなり不自然、「*」は文法的にその文が非文であること、そして「#」はその文脈において当該例文は不自然、ということを示す。

4. まとめ

以上、第2章では、「疑問表現」「反語表現」についての先行研究を検討し、その到達点、残された問題点を明らかにし、それらに基づいて、本論文の立場を明らかにした。以下、本論文の疑問表現および反語表現の定義を行う。

まず、疑問表現は以下のように定義する。

- ①話し手には命題内容の真偽判断、あるいはその命題を構成する情報の一部が欠けている。
- ②話し手は応答可能な存在として聞き手を評価する。
- ③話し手は聞き手に問いかけることによって不確定性を解消することを意図する。

次に、反語表現は以下のように定義する。

疑問文の形式をとりながらも、問いかけの機能を持ちつつ、話し手は質問に対する答えをすでに知っており、逆の否定的事態を聞き手に強く主張するあるいは想起させるもの

第3章では、これらの定義に基づいて、反語文を疑問文と区別する要因について考察する。

第3章 反語文を疑問文と区別する要因

1 はじめに

反語文と疑問文は形態的によく似ており、何の文脈もない単文レベルでは両者を区別するのは容易でないことが多々ある。しかし、第4章以降、反語文についての考察を行う際、疑問文と比較する必要性が生ずる場合がある。その前に、反語文が疑問文と区別される要因および反語文が成立する傾向にはどのようなものがあるかということをはっきりさせる。その上で、本論文の考察対象である反語文とはどのようなものかということを確認させておかなければならない。

そこで、本章では、反語文を疑問文と区別する要因について述べる。

2 先行研究

反語文と疑問文を区別する要因について触れた先行研究は、非常に少ない。森川（2009）は(1)の例を挙げ、「修辞疑問文は、通常の疑問文の形式を取っているが、常に下降イントネーションを伴うので、一般的に情報疑問文と誤解されることはない」と述べる。

(1) 誰がそんなものを食べる（カ）？ [↘]

（森川 2009：74 (8)c.）

確かに、下降イントネーションを伴う場合は、疑問形式文は反語文に解釈されやすい。しかし、反語文に解釈される要因はそれだけであろうか。例えば(2)は、下降イントネーションで発話されれば、より反語解釈が可能だが、上昇イントネーションを伴っても反語解釈可能であると考えられる。

(2) あんな藪医者に何がわかる？ [↗]

このように、その文が下降イントネーションを伴うかどうかは重要な要因であるが、その他にも反語文と疑問文を区別する要因はあると思われる。

現に、安達（2004）が、反語解釈は文脈依存性が高いことを指摘している。しかし、(2)は文脈がなくても反語解釈は可能である。

このように、先行研究においてはイントネーションあるいは文脈依存についての指摘はあるが、それ以外に反語文と疑問文を見分ける基準を指摘した研究はない。

ただし、(1)、(2)から推察されるように、一つの反語文に対して一つの要因がその文を疑問文と区別させる、というのではなく、いくつかの要素が複雑に絡み合って反語文が成り立つのだと考えられる。

3 研究の方法と構成

考察にあたっては、実例を使用する。説明のために必要な場合は作例を用いる。そして第4節で、反語文を疑問文と区別する要因を大きく7項目挙げ、用例によって実証していく。

扱う反語文は、本論文で考察対象とする3種類の反語文、つまり専用形式「たまるか」「ものか」「たまるものか」が文末に現れる反語文(第4章)、疑問詞疑問文形式の反語文(第5章)、肯否疑問文形式の反語文(第6章)であるが、本章ではそれら3種類の反語文の全般にわたって共通する要因を見出すことを目的とするが、ある特定の反語文にしか適用されないものがあることも事実である。第4章以降の各論において、当該反語文が本章で挙げた要因のいずれによって疑問文と区別される傾向にあるかを再度確認することとする。

4 反語文を疑問文と区別する要因

4.1 イントネーション

森川(2009)が示したように、確かにイントネーションは音声言語において反語文と疑問文を区別する大きな手がかりとなる。実際に音声で発話された文だけでなく、文字で記された文が反語か否かということを内省によって判断するのにもイントネーションは重要である。

一般的に、反語文か疑問文か判断に迷ったとき、文末が下降イントネーション(↘)を伴えば、その文は反語解釈される傾向にあり、上昇イントネーション(↗)のとき、疑問解釈される傾向にある。ただし、話し手の肯否逆の主張を聞き手に想起させる、問いかけ性の強い反語文の場合は、しばしば上昇イントネーション(↗)を伴う。

- (3) ドラえもん「そろそろはじめる時間だよ」
のび太「なにを？」
ドラえもん「なにをって……？新学期にあたってかたく決心したろ！」
「体をきたえるため、毎日ジョギングする……。」
のび太「そうか……。」
「でもなあ……、あれくたびれるんだよな。来年の新学期からやろう。」
ドラえもん「いくじのない…。きみはしょっちゅういろんな決心をするけど、いっぺんでもやりとげたことがあるか！ [↩]
[↷]
そんなことでこれからの人生を……。」
のび太「いわれてみればぼくは意志が弱い……。」
「強い意志がほしいよオ。」

(藤子・F・不二雄『ドラえもん』)

- (4) 風野はじめじめと衿子を責めている自分に嫌気がさしていた。「帰ってきて、いないんで心配していた」「別に、心配する必要はないでしょう」「女の子が、行先もわからず、こんな遅くまで帰らなければ、誰だって心配するだろう」「…」「大体、お前は勝手だよ」「勝手なのは、あなたのほうだわ」
「俺のどこが勝手だ。 [↷]
俺はちゃんと行先だって帰る日だって、行って出たはずだ」 風野が声を荒らげるのに、衿子は、平然と髪を梳いている。

(渡辺 淳一『愛のごとく(上)』)

- (5) 事務官が立ち去り、二人きりになると三笠宮は、「このような深夜に呼びだして、まことにすまないことをしたが、どうしても相談したいことができたので…」と言葉を切り、また空を見つめる。黒崎は、さきをうながすように問いかけた。「私にできますことでしょうか」
「それはわからない。だが、最善を尽して貰いたいのだ」「いったい、なにが起ったのですか？」 [↩] 「貴官は、津野田少佐を知っているか」「面識はありません。五十期の俊英とは聞いていますが」「われわれは、東條大将の戦争指導は間違っていると思う…」

(吉松 安弘『東条英機暗殺の夏』)

(3)は、上昇イントネーション、下降イントネーションのいずれであっても、反語解釈が可能である。実際はどう発話されているのかは実現されている音声を聞いてみなければわからないが、いずれにせよ、「今までいろいろな決心をやりとげたことがあるか」と聞き手に問いかけ、ないことを想起させる場合には上昇イントネーション、ないだろうと断定し、きめつけてかかっている場合には下降イントネーションで発話される。下降イントネーションのときは明らかに反語表現であるが、上昇イントネーションの場合は、反語表現とも解釈できる一方で、疑問表現とも解釈できる。

(4)は、下降イントネーションで発話される反語文である。

(5)は、上昇イントネーションで発話される疑問文である。

このように、反語文か疑問文かを識別するのに、まず手がかりとなるのはイントネーションである。

4. 2 文脈の支え

次に、文脈の支えについて述べる。その文が、反語文か疑問文かを解釈し分けるのに、文脈は大きな手掛かりとなる。次のように、単文では疑問文解釈が可能であっても、談話レベルの中で解釈を試みれば反語文となる場合が多々ある。

(6) シロート相手にそんなことするか。

(井上雄彦『SLAMDUNK』)

(6)だけ読むと、「シロート相手にそんなことするか？」という疑問文にも解釈可能であるし、一方で「シロート相手にそんなことはしない」という否定的な主張、つまり反語解釈も可能である。このように解釈が分かれる場合は文脈が必要である。そこで、(7)をみると、「柔道二段の青田が、シロート相手にリンチのようなことはしない」ということが読み取れる。つまり、反語解釈が可能ということがわかる。

(7)木暮「みる!!青田の奴柔道着なんか着て… まさか腕づくで桜木を入れるつもりじゃ…!?リンチとか…」

赤木「バカ ああ見えても青田は二段 県下でも名の通った実力者だ
ぞ シロート相手にそんなことするか 心配症だな オマエは」
木暮「つい この前 そのシロート相手にムキになって勝負したバス
ケの実力者はどこのどいつだ…」

(井上雄彦『SLAMDUNK』)

他にも文脈がなければ解釈に迷う例は多くある。

(8)入院？ どこが悪いの？

(西木正明『凍れる瞳』)

「入院」と言っているのだから、体のどこかが悪いはず、という前提があれば、「どこが悪いの？」は単純に聞き手に対して悪い箇所に関する情報を埋めようとしていると考えることもできる。しかし、考え方を換えれば、「入院？」といぶかしがり、「どこが悪いの？どこも悪くないんでしょ？」と意地悪く尋ねることも可能である。前者の場合は疑問文、後者の場合は反語文となる。

このように、文脈がなければどう解釈すればいいかわからない場合があるということが言える。反語文と疑問文を明確に区別する手がかりは、イントネーションと同時に文脈も必要である。

4. 3 語句による反語化

反語文の中には、その語句があることによって、否定的解釈に傾きやすいというものがある。例えば次の(9)である。

(9)あんな藪医者に何がわかる？

(芥川龍之介『夢の跡』)

「あんな」で低評価され、さらに「藪医者」呼ばわりされるような人物には何もわからない、という含意であり、反語文であることがわかる。なぜ、文脈もなしに反語解釈が容易なのかというと、「藪医者」というマイナス評価される意味の語彙があるためであり、「藪医者」に何かプラスのことがわかるという期待を持ちにくいからである。したがって、「何もわからない」という肯否逆

の判断を下しやすい。

(10)あたしのどこが間違ってるのオ的に言い募る。

(東野司『消えた十二支の謎』)

上の(10)では、「間違ってる」というマイナスの意味の語句を用いて聞き手に問うことによって、「間違っている」ことの逆を引き出そうとする期待があり、「どこも間違っていない」という否定的な含意があることがいえる。

反語文の中には、マイナス評価的な意味の語句を用いて問うことによって、何もできない、可能ではないといった含意を表したり、または、マイナス評価的な語句の意味の逆を想起させて否定的含意をもたせたりすることがあるということが言える。

次の(11)の下線部も、反語解釈に結び付く要因となる。

(11)のび太「お母さん！わが家のアルバムをみてください」

お母さん「アルバムがどうしたの？」

のび太「その中に一枚でも家族そろってお花見してる写真がありますか！」

(藤子F不二雄『ドラえもん』)

(11)の「一枚でも」は、花見をしている家族写真が一枚もないのだから、二枚、三枚もない、全くないという解釈に結び付く。

このように、文中に現れる語句の内容によって、話し手の否定的主張を表す反語文になる場合がある。上述したように、一つの反語文に一つの条件があるというのではなく、イントネーション、文脈など複数の要素がかかわって反語文を成立させていると言える。

4. 4 定型的な構文

反語文には、反語文にしか解釈できない定型的な構文がある。4. 4. 1では、代表的な文型を紹介する。また、4. 4. 2では、反語文の人称について、そして4. 4. 3では、逆に疑問文になりやすい文型についてとりあげる。本節であげる文型は全てが必ず反語文、あるいは疑問文として解釈される、とい

うのではなく、あくまでも傾向としてそのような現象が見られるというものである。

4. 4. 1 反語文の定型

本節では、この文型の場合においては反語解釈される傾向にある、という文型を挙げる。上述した通り、ここで全てを取り上げることはできないが、特に第5章「疑問詞疑問文形式の反語文」にて紹介していくこととする。

(12) 「俺のどこが寄生虫だ、おまえと一緒にするなよ」

(東野圭吾『ブルータスの心臓 完全犯罪殺人リレー』)

「N₁のどこが N₂だ」となると、反語文となる。ただし例外として、(13)のように、疑問語が「どこ」で、N₁に場所名詞が入る場合は一概に反語文になるとは言えない。次の(13)は、場所名詞「東京」を N₁に代入した例だが、「東京の桜の名所はどこか」という疑問の意味にも受け取れる。一方、「どこも桜の名所ではない、全然美しくない」という含意の反語文とも解釈できる。

(13) 東京のどこが桜の名所だ。

次の(14)は、「どうして」という疑問語から「など」という低評価のとりたて助詞につながり、さらに可能動詞述語で受ける、という構造である。第5章でも述べるが、「どうして」を用いた構文の場合、述語動詞が可能動詞述語あるいは疑いのモダリティになることが多い。(14)の「どうして～など+可能動詞」も(12)と同様、一種の反語の定型と言えよう。

(14) 「休みなどはいりません。息子が何者かに監禁されているというのに、どうしてのんびりと休んでなどいられますか」

(真保裕一『ホワイトアウト』)

(15)の「教師も生徒もあるか」は、「XもYもあるか」の構文で、「XもYも(関係)ない」と伝えようとする慣用的な定型文である。

- (15)安仁屋「その三球のうち一球でも空振りしたら俺の負けでいいぜ」
 川藤「バカにするな！ 男が一度口にしたことを撤回できるか！ 残り三球すべて空振りさせておまえを野球部に連れ戻す！
 0.000001%でも可能性のあるかぎり！」
 安仁屋「…」「へっ…教師が生徒にナメられるわけにやいかねーか」
 川藤「教師も生徒もあるか！勘違いするな！これは男の勝負だ！」
 (森田まさのり『ROOKIES』)

反語の定型文を用いることによって、自然と疑問文の解釈はされなくなる傾向があるが、やはりこの場合もイントネーション、文脈、用いられている語句などによって、反語文か疑問文か判断が分かれる。

4. 4. 2 主語のガ格表示

肯否疑問文形式の反語文において、次のような例がある。

- (16)「君は直也君のために、復讐したのかと思ってたけど」と私は呟いて
 みた。
「俺がそんなことするか」
 秋月はせせら笑った。「センセイはまだ人を見る眼がないな」
 (森見登美彦『きつねのはなし』)

(16)の下線部は、「俺」が主格であり、ガ格表示されている。なぜ、反語文の主格成分が助詞「は」でとりたてられないかということ、「は」でとりたてると、主格成分が主題として後続に解説を求める構造になり、疑問文になりやすいからである。一方で、主語が「が」で主格表示されると、解説が次に続くといった制約がなくなる。「俺が…」と発話を始めれば必ず反語文になるとは限らないが、「俺は…」と始めれば、自分自身について何かを解説する題目文となる。反語文として表現するには、主語を「が」で表示したほうがより正確に述べたいことが伝わる傾向にあるということが言える。

この問題については、第6章で再度取り上げ、論ずる。

4. 4. 3 ノダ文が疑問文になりやすい場合

ここまでは、反語文になりやすい条件、あるいは傾向について述べた。本節では、逆に疑問文になりやすい傾向のある構文について述べる。

(17)ヒロシ「さあ高速に入るぞ いよいよドライブの本番だ」

姉「…今度は事故ったらホントに死ぬね…」

じいさん「ヒッ ヒロシッもういいから帰ろう」

まるこ「おとうさん帰ろう」

ヒロシ「ばかっ いまさら帰れるかっ」

(さくらももこ『ちびまる子ちゃん』)

(18)ヒロシ「いまさら帰れるのかっ」

(17)は反語文であることは先行文脈からもわかるが、(17)の下線部を(18)のように「のだ」文にしてみると、疑問文として解釈することが可能である。

「のだ」文が疑問文になりやすいのは、「のだ」の有するスコープ(野田 1997)の機能が一つの要因であると考えられる。つまり、「いまさら帰れるのか」であれば、文末に「のだ(のか)」が存在することによって、疑問の範囲が明確になり、「いまさら帰れる」コトが問われていることが明らかになるのである。そのことによって、「いまさら帰れるのか」が疑問解釈しやすくなると言える。

ただし、「のだ」文が必ず疑問文になるというわけではない。

(19) (猟奇殺人鬼である蒲生稔がゲームセンターのレースゲームで失敗して)

苦笑しながら首を振っていると、後ろからくすくすと笑い声が聞こえた。振り向くと、ゲーム機のカプセルにもたれるようにして覗き込んでいる少女と目が合った。(中略)

「こんなのできる人いるの?」と稔が肩をすくめながら言うと、少女は変われという合図か、彼の肩を軽く叩いた。

(我孫子武丸『殺戮にいたる病』)

(19)の「こんなのできる人いるの?」は解釈の仕方によっては、「こんなのできる人いない」という含意が読み取れる反語文となる。

したがって、「のだ」文はときには反語文を構成するが、多くの場合は、疑

問の範囲を定めるスコープの役割をすることによって、疑問文を構成する傾向がある、ということが言える。

4. 5 疑問語の空欄の実質化の困難さ

本論文第5章では、疑問語疑問文形式の反語文について考察を行う。例えば(20)のような文である。

(20)誰がそんなこと言った。(↗)

ここでの疑問語は「誰」であるが、疑問語はいわば「空欄」(尾上 1983)としてその実質を持たないという性質を持つ。「(その物なら物、人なら人、数なら数の)内容が不明、不定である」というところにその性質がある(尾上 1983 : 404-405)。よって、反語文を疑問文と区別する要因は次のように考えることができる。

(21)誰がそんなこと言った？(↖)

(20)は下降イントネーションで発話され、反語文。(21)は上昇イントネーションで発話され、疑問文と見ることができる。それだけでなく、「誰」は「人」という性質を持つ空欄を表す疑問語である。話し手がその空欄を「人」に関する情報で積極的に明確化しようとし、聞き手がそれに応じて明確化できるのが、疑問文である((21))。空欄はあっても「人」に関する情報で明確化できず、その事態は成り立たないと述べたい場合が反語文((20))である。

このように、疑問語の空欄を埋められるかどうかも疑問文か反語文かの区別の要因になる。

4. 6 先行文脈からの妥当性の低さ

本節では、語用レベルの議論になるが、先行文脈からの妥当性が低いと反語文、妥当性が高いと疑問文と解釈できる傾向があることを述べる。

(22)「外は危険です。遺跡の中にいたほうが安全では!？」

「冗談じゃない!こんな不気味な所にいつまでもいられるか!」

(皆川亮二・たかしげ宙『スプリガン』)

(23) 「ビスケット、おいしかった」

「ねえ、ビスケットとクッキーの違いってわかる？」

「あ、わかんない」

(橋本紡『月光スイッチ』)

(22)は、先行文脈の「遺跡の中」のことを「こんな不気味な所」と低評価し、そのようなところに「いられる」ことは妥当性が低い、と述べているのである。つまり、それが反語文として解釈されるのである。一方、(23)は、「ビスケットとクッキーの違い」は先行文脈の「ビスケット、おいしかった」を受けて、自然に話題転換されており、両者のつながりは妥当性が高いということが出来る。この場合、疑問文解釈される。

妥当性の低さによって反語解釈される例については、第 6 章で再度検討することとする。

5 まとめ

以上、反語文を疑問文と区別するにあたって、7 項目の要因と、逆に疑問文解釈されやすい要因を一項目あげた。反語文を成立させやすい要因を、一旦、下の表 1 にレベルごとに整理する。実際にはこれらの要因が複数関係しあって反語解釈、疑問解釈がなされるうえ、反語のタイプによっても反語解釈の要因は異なってくる。どの反語のタイプがどの要因で反語解釈されるかは、第 4 章以降の考察において、一つ一つ明らかにしていくこととする。

表 1 文が反語解釈されやすくなる要因

音韻レベル	下降イントネーション
構文レベル	反語文の定型
構文レベル	主語のガ格表示
意味レベル	語句による反語化
意味レベル	疑問語の空欄の実質化の困難さ
談話レベル	文脈の支え
語用レベル	先行文脈からの妥当性の低さ

第4章 専用形式を用いた反語文

1. はじめに

反語文と疑問文とではその一文だけでは、どちらの解釈をすればよいか明確でない場合がしばしばあり、そのようなときは意味の決定は文脈やイントネーションなどによってなされる。しかし、一方で、どんなときにも疑問文との解釈の混同がなく、その文では反語文にしか解釈されない文を構成するマーカがある。反語文の定型といってもよい。文末マーカでは「たまるか」「ものか」「たまるものか」があり、必ず反語表現に解釈される文型として「<連体修飾節+ヒト名詞>+があるか」がある。本稿では、これらは反語文の定型となる「反語表現の専用形式」と呼ぶ。いずれも下降イントネーションで発話される。

例えば、次のように用いられる。

- (1) 負けてたまるか。
- (2) こんなところで死ぬものか。
- (3) 落第なんかしてたまるものか。
- (4) いつまでも泣いてる奴があるか。

「たまるものか」は「たまるか」に「ものか」が承接したもので、「たまるか」「ものか」の順番に相互承接し、逆行することはない。

本章では、「たまるか」「ものか」「たまるものか」の三形式、および「<連体修飾節+ヒト名詞>+があるか」の形式のそれぞれの構文レベル、意味レベルの議論を行い、用法を記述する。

2. 先行研究

「たまるか」文は、反語表現を表すことは自明であるにもかかわらず、管見では反語表現形式としての「たまるか」に関する研究は見つけられなかった。反語と感嘆は密接な関係にあることは山口（1990）でも既に指摘されている通りであり、小松（2001:197）は「たまるか」は「疑問表現で感動を表現する」とし、次の例を挙げる。

(5) 勝手なことをされてたまるか、たまらないよ。

(小松 2001:197 下線小松)

つまり、(5)のような話し手が肯否逆の主張をしている例を出している一方で、「たまるか」を反語表現の文末マーカーストは認めていないのである。小松(2001:668)は反語表現を「話し手と同じ判断を聞き手に要求する表現」としており、(5)の場合は、文意が話し手に伝達されていることから、反語表現ではなく、疑問表現で感動を表す表し方の一つとされているとする。(5)がなぜ感動になるのか、小松(2001)では反語表現の文末マーカーストがなぜ「か」しか認められていないのか、ここでは議論がなされていない。

「たまるか」に比べると、より一層使用例が多いため、反語表現の専用形式では「ものか」に関する先行研究が多い(山口 1990、グループ・ジャマシイ 1998、森山 2000、小松 2001、安達 2004、山口 2004)。ただし、反語表現の専用形式であることが明らかであるためか、「強く否定する気持ちを表す」(グループ・ジャマシイ 1998:593)、「ものかは反語の定型」(森山 2000)、「問いかけ性を失っており、〈反語解釈〉が固定化した形式として位置づけられる」(安達 2004:237)のように簡潔にまとめられてしまう傾向がある。構文レベルや意味レベルで緻密に記述されているとは言えず、中には山口(2004)のように「ものか」が反語を表す理由の考察を試みた研究もあるが、やはりそこでも明確な結論は出されていない。

「たまるものか」は、『大辞林』(小学館)では「(動詞の連用形に接続助詞「て」の付いた形を受けて)そのようなことが起こるはずがない。そのような状態のままにしておくわけにはいかない」という説明とともに以下の例が挙げられている。

(6) 幽霊などいてたまるものか。

(7) へこたれてたまるものか。

これ以外の先行研究は管見ではない。したがって、相互承接した形式である「たまるものか」が「たまるか」「ものか」とどう意味的に異なるのか、という記述もなされていないと言える。

最後に「〈連体修飾節+ヒト名詞〉+があるか」であるが、これも反語の専

用形式のひとつの形態として研究された例はないと見られる。

いずれにせよ、先行研究では「たまるか」「ものか」「たまるものか」は漠然と詠嘆マーカ、あるいは定型の反語マーカとして認められているだけで、三形式の意味的、構文的相違はほとんど全く記述されていない。さらには、「たまるか」「ものか」が相互承接しうることに触れられていない。

以下、それぞれの形式について記述を試みることにする。

3. 研究の方法と構成

本章では、「たまるか」「ものか」「たまるものか」の三形式および「<連体修飾節+ヒト名詞>+があるか」の形式のそれぞれの構文的、意味的特徴を記述し、考察する。

研究方法としては、用例を大量に収集し、帰納的に分析した。「たまるか」「ものか」「たまるものか」を文末に持つ文（前後の文脈を含む）を、国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（以下、BCCWJ）を『中納言』で検索し、収集した。BCCWJでは、「たまるか」24例、「ものか（「もんか」含む）」571例、「ものですか（「もんですか」）」109例、「たまるものか（「たまるもんか」）」19例であった。しかし、これだけでは記述するには数が十分ではないと判断した。そこで、小説、漫画からも「たまるか」「ものか」「たまるものか」を文末に持つ反語文を追加で収集し、それらを総合して記述、考察を行った。後者の出現数は「たまるか」198例、「ものか（「もんか」）」1,081例、「たまるものか（「たまるもんか」）」56例であった。BCCWJの用例とその他の用例の合計は2,058例である⁴。そして加えて「<連体修飾節+ヒト名詞>+があるか」が12例（BCCWJでは検出されず）であった。本章では基本的に実例を用いるが、説明のために便宜的に作例を用いることもある。

本章の構造は、「たまるか」文、「ものか」文、「たまるものか」文のそれぞれの形式の順に考察を行い、構文レベルの議論、次いで意味レベルの議論を行う。

第5章、第6章は反語表現の構文レベル、意味レベル、談話レベル、語用レベルの議論をし、記述する。しかし、この第4章は、専用形式を用いた反語文であるから、主に問題となるのは、構文レベルの議論と、その文がどのよ

⁴ 「たまるか」222例、「ものか（もんか、もんですか）」1,761例、「たまるものか（たまるもんか）」75例

うな意味なのかということの問題とする意味レベルの議論が中心となる。語用レベルの議論は話し手がどのような文脈（言語的文脈、非言語的文脈）で発話を行うかを取り扱う議論で、談話レベルの議論はひとまとまりになった言語の集まりの中で、その文がどのようにふるまうかの問題とする。専用形式を用いた反語文は、その文だけで反語解釈できる定型文であるため、談話レベル、語用レベルの議論は特に行わなかった。もちろん、専用形式を用いた反語文に文の前後関係が全く関係ないと言っているわけではない。意味解釈には文脈が支えになる場合もあるが、談話レベルの議論として取り上げるものではないと判断した。「たまるか」文、「ものか」文、「たまるものか」文、「<連体修飾節＋ヒト名詞>＋があるか」文は、このような背景があるため、本章の検証は談話レベル、語用レベルの議論は行わないことを述べておく。

4. 「たまるか」文

4. 1 構文レベルの議論

「たまるか」は、命題の述語動詞のテ形に接続する。次の例(8)のように、受け身動詞テ形に接続する場合は、222例中89例（40%）あった。この数は圧倒的多数とは言えないが、全体の約半数を占めている。

では、「たまるか」がこのような多数の受け身動詞テ形に接続するというのは何を意味するのか。

(8) ママ「まんがはぜんぶすてます!!」

（ドラえもん、のび太を呼びに行く）

のび太「ママひどい!!」

ドラえもん「いそがないとまにあわないよ」

のび太「あっ！もうちり紙こうかんにだしてる!!」

「すてられてたまるか!!」

（道具を操作する）

（ズシン まんがの束が急に重くなる）

ちり紙交換屋「おもしろい!! おくさん、こんなのいらぬ。」

（藤子・F・不二雄『ドラえもん』）

上の例(8)「すてられてたまるか!!」は、その前に発話される「ママ」の「まん

がはぜんぶすてます!!」を受けての発話である。このように、話し手（一人称）が不快あるいは迷惑な行為を被りかけ、その行為を阻止しようとする様子を「たまるか」文は表すのである。「たまるか」文の約半数が受け身動詞に接続するというのは、「たまるか」が一般的に上記の意味をもつという理由による。では、いわゆる迷惑受け身のみ「たまるか」は接続するのだろうか。

(9)雨に降られる。(自動詞の迷惑受け身)

(10)?雨に降られてたまるか。

(11)親に死なれる。(自動詞の迷惑受け身)

(12)今ここで親に死なれてたまるか。

上記(9)(11)は自動詞が受け身形となった場合の迷惑受け身であるが、(9)は「たまるか」の文(10)にすると不自然である。ただし、(10)は(12)と同様、雨に降られては困るという祈るような気持ちであれば文として成立可能である。文脈があれば、「たまるか」文は成立すると思われる。以上、「たまるか」文が自動詞の迷惑受け身に接続した場合について述べた。

ところで、迷惑受け身は間接受け身が表すと言われているが（日本語教育学会 2005）、「たまるか」文においてはどうかだろうか。

(13)カラスにゴミを荒らされた。(間接受け身文)

(14)カラスにゴミを荒らされてたまるか。

(15)うちの子供が犬にかまれた。(直接受け身文)

(16)うちの子供が犬にかまれてたまるか。

(17)ビールは麦から作られる。(直接受け身文)

(18)ワインが麦から作られてたまるか。

つまり、間接受け身文による迷惑受け身だけでなく、(18)のように直接受け身文も「たまるか」の文に埋め込むことができる。いわゆる迷惑受け身文だけが「たまるか」文に出現し、全体で迷惑を表すというわけではないということがわかる。(18)「ワインが麦から作られる」コトそのものは迷惑を表さないが、そのような場合は「たまるか」が付与されることによって、全体で話し手の不本意や不快感を表すと考えられる。

4. 2 意味レベルの議論

次に本節では、前節を踏まえて「たまるか」文の意味レベルの議論を行う。

前節の用例(9)の「雨に降られる」はそのままでは「たまるか」文になりにくかった。なぜかという、「雨が降る」コトは自然現象であり、拒否すること、阻止することが不可能だからである。しかし、雨が降ってほしくないと強く願う気持ちがそこに現れれば、文法的な文になり得た。(12)の「親が死ぬ」こともある意味不可抗力であるが、親に対して「あともう少しこらえてほしい、耐えてほしい」と延命治療などを施すことができる。不幸をある程度阻止することができるのである。

以上でわかるのは、「たまるか」文は、抵抗可能なことに対して迷惑に感じたり不信感を覚えたりしたことについて、拒否したり阻止したりしようとする話し手の意思の表れであるということである。

次の例はどうだろうか。

(19) (バスケットボールの試合。流川^{るかわ}は桜木のライバル)

晴子「流川君!!」

彩子「ホーラ 気合い入ってる!!」

桜木 (心内発話)

「野郎!!」

「ハルコさんの前でヤツにいいかっこされてたまるか!!」

「負けすぎらいかなんかしらねーが!! オレだって負け

すぎらいさじゃ負けねーぞ!？」

(井上雄彦『SLAM DUNK』)

上の(19)は、話し手(桜木)があこがれている「晴子」の前で「ヤツ」(強烈なライバルの流川)にいい恰好をされることが迷惑でそれを話し手は不本意に思い、阻止しようとしている。換言すれば、話し手が相手の行動を阻止することは可能だという自信を持っていることが読み取れる。

ところで、ここで話し手が迷惑や不快に思っているのは、「いい恰好をする」といった「たまるか」の直前の表現内容だけではない。「たまるか」が否定しているのは、直前の動詞というより、命題全体に及ぶ。つまり、ここでは、「ハ

ルコさんの前でヤツにいいかっこされる」コトという命題が話し手にとって迷惑なのである。

「たまるか」は述語動詞のテ形に接続する。更に心理的に不快で、しかし抵抗可能な事態に対して、あってはならないことだ、という迷惑を阻止する、あるいは拒否する意味合いを加える用法がある。

上記の議論は、動詞が受け身形でない他の例にも応用できる。

(20) (行動を開始した仏軍や米軍に触発されたどこかの軍人の会話)

「我々はどうしますか」

「バカもの！我々も後れをとるな！他国にインディアンの儀式の秘密を渡してたまるか！」

(皆川亮二・たかしげ宙『スプリガン』)

(21) ドラえもん「しょうがないな。ばかなこといってないで、家にかえろ
う。」

のび太「ほっといてくれ。ぼくの気もちがきみなんかにわかってたまるか。」

(藤子・F・不二雄『ドラえもん』)

(20)は「他国にインディアンの儀式の秘密を渡す」コトが話し手の不本意なことで、それを「たまるか」で阻止しようとする文意である。

(21)は「ぼく（話し手）の気もちがきみ（聞き手）にわかる」コトは望ましいことではあるが、文末に「たまるか」があることによって、実は話し手にとっては積極的に望んではおらず、求めていることを表している。

「たまるか」は、抵抗可能でしかも迷惑、不本意、不快なことを示す命題の述語動詞テ形に接続し、そのことを話し手が阻止したり、拒絶したりする文を構成する。命題内容を阻止、拒絶という形で常に否定する形式であり、反語表現を担う専用形式と言える。

5. 「ものか」文

5. 1 構文的特徴

5. 1. 1 述語と「ものか」との接続

「ものか」は、名詞、形容詞、形容動詞、動詞（補助動詞含む）に次のよう

に接続する。

名詞+な
形容動詞+な
形容詞辞書形
動詞辞書形

ものか

収集した用例の中では、モダリティ形式の中で唯一「～ていい」に接続する。

(22)「畑を手に入れることができたじゃないか。それにまだ、ねがいごとだってできるよ。」すると、おかみさんがいいました。「めすの牛を一頭と、馬を一頭おねがいしたらいいと思うけど。」「おまえ。」と、残ったお金を、ズボンのポケットの中でジャラジャラいわせながら、農夫はいいました。「そんなつまらないもののために、せっかくのねがいごとを、ふいにしてしまっていていいものか。牛も馬も、自分たちで手に入れることができるさ。」そして一年後には、牛も馬も、ちゃんと買うことができました。農夫は喜んで、手をもみながらいいました。「また一年、ねがいごとをとっておけたぞ。でも欲しいものは、みんな手に入れたんだよ。なんてしあわせなんだろう。」でもおかみさんは、ねがいごとをあきらめきれずに、おこっっていました。

(リヒャルト・レアンダー(著)/山本 文子(訳)『ゆめのぶらんこ』)

また、「ものか」のもう一つの特徴として、文末が「～てなるものか」の形態になることができる。この文型は BCCWJ で 7 例見られた。「～てなるものか」は、「ものか」文ではなく、「か」のみを文末に有する文では「～てなるか」という形式にはならない。少なくとも BCCWJ ではなかった現象である。

(23)女王陛下の接遇で、机に向かって電話番をしていられるわけがない。

もう一度交換手へ。「正門の衛士詰所につないで下さい」「はい、こちら正門。国賓の到着ですので、手短にどうぞ」「いやそのことで。私は国旗の専門家ですが、今立っている英国旗は逆さまです」「英国旗に上下なんかあるわけがないじゃないですか。忙しいのでこれで切ります」ガチャン。これでめげてなるものか。英国人なら必ず

気付くはず、と再度ダイヤル。「緊急の用事です。衛士長につないでください。衛士長さんですね？ なにかの資料で見比べてください。英国旗が逆さまです」「手もとの儀典資料と比較してみましよう。お待ちください。あっ！」私の耳元には今もあの悲痛な声が残っている。

(竹中敬明『知っておきたい国旗・旗の基礎知識』)

(24) これでめげてなるものか。

(25)* これでめげてなるか。

「たまるか」と異なっているのは、慣用句にも接続する例が複数見られるということである。

(26) そうは問屋が卸すものか。

(平岩弓枝『^{ワインロード}葡萄街道の殺人』)

(27) その手に乗るものか。

(井上ひさし『ブンとフン』)

(28) 万事ぬかりがあるものですか。

(安部公房『人間そっくり』)

以上、「ものか」の文中における接続関係を示した。「ものか」が名詞に接続した場合、また動詞に接続した場合は、意味的に特別な様相を見せたり、他の「ものか」文とは文意の異なりを見せたりすることがある。このことは、5. 2節に改めて述べる。

5. 1. 2 「ものか」文におけるとりたて助詞「なんか」

本節では、「ものか」文に多く現れるとりたて助詞「なんか」を主に取り上げ、まず、文のどの階層に係るかという観点から考察する。次に、「ものか」文における「なんか」の「分布の自由化」「任意性」について考察する。

反語文には、「ものか」文のような専用形式の反語文だけでなく、肯否疑問文形式の反語文にも「なんか」は多く出現する。実際には「なんか」「なんて」

「なんぞ」は用法の差はあるが⁵、本論文では、便宜的に「なんか」でまとめて表示する。

ただし、「ものか」文において「なんて」のみが使われる場合を最初に紹介しておく必要がある。

(29) 関口 「がんばれ藤木 言うなよっ」

永沢 「そうだ 卑怯者の底力を見せてやれっ」

前田 「ふんっ 藤木が悪くないなんてわかるもんかっ ホントは知ってるかも知れないんだから謝らないよっ」

藤木 ザーッ

大野 「おまえ まだそんなこと言うのかっ」

杉山 「クラスメートを信用しろよっ」

前田 「なにがクラスメートだっ バカな男子なんて信用するもんか」

大野 「なんだとっ」

杉山 「もう許さねえぞ」

大野 「男子をなめるなっ」

(さくらももこ『ちびまる子ちゃん』)

「藤木が悪くないなんてわかるもんかっ」の「なんて」は引用標識(藤田 2000)と考えられる「なんて」である。発話動詞、思考動詞、ここでは「わかるもんか」「信用するもんか」が続く。

では、「なんか」の文中における位置づけを文の階層構造から考える。

(30) しかし、不愉快なことに変わりはない。あんな講師に、二度とお茶なんか出してやるもんか! (場面転換)

(赤川次郎『三毛猫ホームズの追跡』)

(31)*あんな講師に、お茶なんか出してやる。

(31)の「お茶なんか」は肯定の「出してやる」とは呼応しないが、(32)のよう

⁵ 中西久美子 (2012) 参照。

になると否定の「ない」と呼応することがわかる。

(32) あんな講師に、お茶なんか出してやらない。

ただし、この場合の(32)は、(33)のような前後関係があった場合、「行かない」は話し手の意思の表出のモダリティを持つとも解釈できる。

(33) 俺は大学になんか行かない。高校出たら就職するんだ。

(34) この地域の人間は、大学になんか行かない。高校出たら就職するのだ。

一方、(34)のように「この地域の人間は」と主語を一般化すると、「行かない」は「行く」という事實的行為の否定と解釈できる。(33)も(34)も、話し手の否定的主張を表すことには変わりはない。つまり、いずれにせよ、「なんか」は、肯否の階層に位置し、否定的主張の「ものか」文の中に入ることが言える。

次に、「なんか」の用法を見てみよう。

沼田(1986)はとりたて詞(本論文ではとりたて助詞と呼ぶ)の構文的特徴として、「分布の自由性」「任意性」「連体文内性」「非名詞性」の四つを挙げる。その中で、「ものか」文にかかわる前者2つの特徴について検討してみる。

「分布の自由性」というように確かに「ものか」文においては、「なんか」は自由に補語をとりたてることができる。述語そのものをとりたてる場合は、「たり」と補助動詞「する」の間に位置し、次の(35)のような「たりなんかするものか」のような形態になる。

(35) ひとの答案をみたりなんかするものか。

しかし、どんな文でも「分布の自由性」が言えるわけではない。例えば、「なんか」は、次の(36)(37)の文のような場合、とりたての機能を発揮できない。

(36) *リサさんがイギリスなんかの学生なものか。

(37) *林さんが、楊さんがいつ京都なんかに行くか聞くものか。

(36)は「N₁のN₂なものか」の連体修飾句内の名詞「N₁」をとりたてており、(37)は埋め込み文中の補語をとりたてている。この場合は不自然な「ものか」文になる。

「任意性」についてはどうか。沼田（1986）は「それがなくても、文の成立には支障がない」とするが、次の例文をどう見るか。特に文脈がない場合、(38)よりも(39)のほうが文としては安定性が高い。

(38)？ ゆうれいがいるものか。

(39) ゆうれいなんかいるものか。

このことから、「なんか」の任意性は強いことは強いが、「ものか」文においては、むしろ必須のこともあるということがわかる。

以上、「なんか」の「分布の自由性」「任意性」について紹介したが、実際、「ものか」文のどのような概念を「なんか」でとりたてるのだろうか。

(40)のび太「きょうサケが川に帰ってくるからとりにいこうよ」

ジャイアン「バーカ」

スネ夫「あの川にサケなんかくるもんか」

のび太「ドラえもんがそういうんだもん」

(藤子・F・不二雄『ドラえもん』)

(41)「午前二時のことさ、お化けが出るんだってさ」(略)

小黒が歩き出したが、英治は足が進まない。お化けなんか出るものか、それに、小黒とタローがいるじゃないか。

(宗田理『ぼくらの七日間戦争』)

上記(40)(41)からすると、主格成分をとりたてているが、対話相手の発話を受けて、その中の特に強調したい部分を「なんか」でとりたてるのが典型であるようである。本研究で収集した「ものか」文の用例のうち、「なんか」が現れる用例 64 例中 29 例（45.3%）が先行文脈中の概念をとりたてていた。

対話形式でなくても、次のような例もある。

(42)桜木「フン ルカワめ ナマイキな この天才バスケットマン桜木で

さえちよびとてこずった相手だぞ ゴリは。 てめーなんかかなうもんか バカめ」

(「てめー」は「ルカワ (流川)」を指す)

(井上雄彦『SLAMDUNK』)

話し手の心内発話あるいは独話のなかの先行発話を受けて「なんか」で強調することもある。

寺村秀夫 (1991 : 187) では次のように述べられている。

評価を暗示するナドの現れる文は、先行の対話相手の発話を受けての文であることが多い。その先行発話は、必ずしも言語化された文でなく、話し手が考える相手の思惑、あるいは世間一般の常識であることもある。

上の 45.3%という数字は全体から見れば半数近くである。しかし、いみじくも寺村 (1991) が「多い」と相対的に述べているように、全てが先行文脈中の概念をとりたてるとは限らない。ここでは、「なんか」が現れる「ものか」文にその「傾向がある」というにとどめておくべきであろう。なぜ先行発話を受けて「なんか」で強調する傾向があるかという問題については今後の課題としたい。

5. 2 意味レベルの議論

本節では「ものか」文の意味レベルの働きを考察する。

「ものか」が名詞、形容詞、形容動詞に接続した場合、「ものか」文は談話内での繰り返しとして用いられる。安達 (2004 : 49) は、「直前の相手の発言の一部を取り込んで「ものか」を付加する」と述べている。

(43) 「シマリスちゃん、おっかねえのか?」

(略)

「おっかねえもんか」

一四五センチの宇野は、一七〇センチの安永を、見上げるようにしてにらんだ。

(宗田理『ぼくらの七日間戦争』)

(44)「こちらは火葬場だよ」

と相手は、太い声だが、どこかキンキンした響をもつ調子で言った。

(略)

「失礼ね。火葬場なものですか。詰まらぬことは言わないでください」と言い返した。

(松本清張『顔・白い闇』)

これらの品詞に接続した場合、「ものか」文は聞き手に対して話し手の強い否定の主張を表す。

一方、動詞に接続した場合は、「意志動詞辞書形を述語にもつ命題+ものか」は「話し手の強い否定的意志」を、「無意志動詞辞書形を述語に持つ命題+ものか」は「話し手の強い否定的確信」を表す。意志動詞に接続する例は次の(45)(46)である。

(45)ところで、彼が高校へ行かなかったのは、中学の終わりごろから気持がすさみ勉強を十分にしなかったからでした。両親を恨み、勉強してやるもんか、高校へ行ってやるもんかという気持だったそうです。

(大平健『診察室にきた赤ずき

ん』)

(46)泣くもんか、と私は思った。必死にこらえた。

(狗飼恭子『冷蔵庫を壊す』)

意志動詞といっても、「意志」を有するのは当事者である人物である。したがって、次の(47)の場合は注意を要する。

(47)のび太「きょうサケが川に帰ってくるからとりにいこうよ」

ジャイアン「バーカ！」

スネ夫「あの川にサケなんかくるもんか」

のび太「ドラえもんがそういうんだもん」

(藤子・F・不二雄『ドラえもん』)

動詞「くる(来る)」は単独では意志動詞であるが、「あの川にサケがくる」こ

とは人物の意志ではない。この文脈では事柄を客体的に見ており、「くる」は無意志動詞と見做すことができる。したがって、この場合は「サケはこない」という話し手の強い否定的確信を表すことになる。次の(48)は無意志動詞「驚く」の「ものか」文である。

(48) あいつがめったなことで驚いたりするものか。

(安部公房『人間そっくり』)

この(48)も、話し手の強い否定的確信を表す。

ちなみに「たりする」は(48)からわかるように、「～たりするものか」の形式で「ものか」文では自然である。「たまるか」文で「～たりしてたまるか」というような形態は本研究で収集した用例(BCCWJおよび漫画、小説)の中にはなかった⁶。このように、「たまるか」と異なって、「たりする」に接続可能な点も「ものか」文の特徴である。

(49) 「まあ聞け。しかしな。ああ見えて永野さんも馬鹿ではない。貴様の才覚をきちんと認めている部分はあるだろう」 「まさかつ」 「でなけりゃ、土下座したくらいで司令長官職を留任させたりするものか。 あの人なりに引っ込みのつかぬところもあろうが、きちんと要所は押さえてきているじゃないか」 山本は口をへの字に曲げて押し黙る。

(原田治『朦朧の覇者』)

収集した用例の中に多く出現した「わかるもんか」の「わかる」も無意志動詞であるため、話し手の否定的確信を表すと言える。

(50) しずか「そうだ！出木杉さんにきいてみましょうよ。」

のび太「えー!? あいつにだって、わかるもんか!!」

しずか「出木杉さんにわからないことなんかないわ。」

(藤子・F・不二雄『ドラえもん』)

(51) 「さてL Y Sか。例の『死にぎわの言葉』ってやつかな？」

⁶ 「こんなところで負けたりしてたまるか。」のような作例は可能である。

「なんのことでしょう？」

「分かるもんか、大体死にかけるやつは妙なことばかり考えるもんだ」

(赤川次郎『三毛猫ホームズの追跡』)

(50)の「わかるもんか」は三人称について述べており、「わかるはずがない」という解釈が可能である。(51)の「分かるもんか」は一人称について述べていると考えれば、「知るもんか」という解釈ができ、逆に、一般論として「わからない」という解釈をすれば(50)と同様に、「わかるはずがない」という意味に捉えられる。主語の人称によってニュアンスが若干異なってくるのである。

以上、「ものか」文が意志動詞を述語とする命題に接続すると、話し手の強い否定的意志を、無意志動詞を述語にする命題に接続すると話し手の強い否定的確信を表すことを述べた。

ところで、「ものか」は、助動詞相当語句「ものだ」の疑問形から派生し、それが終助詞的に扱われるようになったと思われる。次の例で説明する。

(53)病人はわがままなものだ。 〈本性〉

(寺村 1984:300 (109) 下線引用者)

(53)は、「ものだ」文の意味・用法の中でも〈本性〉を表すとされる。他に、寺村(1984)では「ものだ」文の意味・用法として、〈当為〉〈解説〉〈感慨〉〈回想〉があると指摘する。

(54)子供は早く寝るものだ。 〈当為〉

(55)このデモは、日米安保条約締結を受けてのものである。

〈解説〉

(56)友達と集まってする花見はいいものだ。 〈感慨〉

(57)学生時代は毎晩酒を飲みながら、仲間と音楽論を語り合ったものだ。

〈回想〉

(53)～(57)の中で、文末を疑問形に変換した場合、上記の〈 〉の中の意味が変わらないものといえば、(53)、(55)ぐらいである。〈本性〉だけではなく、「ものだ」文全体を通してその意味用法を「一般性」とも解釈されることがあ

る（坪根 1994）が、〈解説〉は個別概念的要素が強いため「一般性」とは言えない。「ものか」文が「一般的な認識から〈反語解釈〉を派生する」（安達 2004 : 48-49）ものだと考えると、「ものか」は(53)の〈本性〉から派生したものと考えられる。その〈本性〉を表す文の文末を疑問形にすると、次のような反語文となる。その際、主語はガ格表示される。

(58) 病人がわがままなものか。

ただし、〈本性〉を表す「ものだ」文の主題名詞は、概して総称名詞であることが多く（案野 2008）、一方で「ものか」文の場合それにはこだわらない。

以上、「ものか」文と「ものだ」の一般性について述べた。

5. 3 「ものか」文に生起する疑問語

第 5 章で疑問語疑問文形式の反語文についてその特徴を考察するが、その前に、疑問語疑問文形式の反語文と「ものか」文の反語が結合した場合、どのような意味的融合が見られるか観察する。

本論文のために BCCWJ や漫画や小説で収集した「ものか」文および疑問語疑問文形式の反語文のうち、「ものか」文については、第 5 章で挙げるものと同様の「何」「どこ」「誰」「どうして」が見られた。一方、「いつ」「どんな」「どう」が生起する「ものか」文は見られなかった。このことは疑問語疑問文形式の反語文を構成する疑問語疑問文には「ものか」は接続するが、反語文を構成しない疑問語疑問文には「ものか」は接続しないということを意味する。

5. 2 節でも述べたように、「意志動詞+ものか」の場合、「話し手の強い意志の主張」を表し、「無意志動詞+ものか」の場合、「話し手の強い確信」を表す。また、「名詞・形容動詞+ものか」の場合は、相手の発話の一部、つまり意識せざるを得ない部分を取り入れる。このような「ものか」文の文法及び意味的特徴と、疑問語疑問文形式の反語文の文法的特徴が組み合わさったものが、本節で扱う反語の「ものか」文である。

文末の「ものか」を削除しても反語文が成り立つ場合があるが、疑問解釈可能な場合もある。「ものか」は、反語の専用形式として、疑問解釈できる疑問文形式の文を反語化する。また、反語解釈できる文に更に「ものか」が加えられることによって、疑問語疑問文形式の反語文を強調する。

(59) 「あら、気になりましたわよ。母親ですもの」

「あなたのどこが母親なものか!」

(宮部みゆき『蒲生邸事件』)

例えば、上の(59)では、相手の「母親ですもの」という発言を受けて、「どこが母親なものか」と述べる。名詞に「ものか」が接続した場合の機能と同じ機能をこの「どこが」文は見せる。しかし、「あなたのどこが母親よ!」と言うことも可能であり、「ものか」がなくても反語解釈は可能である。心内発話の場合(60)も同様の様相を見せる。

(60) そもそも猿田大納言は賭け事が好きではない。

(勝つと決まっている賭け事ならば、やらないでもないが、大切な金を取ったり取られたり……。そんなことで一喜一憂し、時間を無駄にする。ふんっ、馬鹿馬鹿しい。賭け事など、何が楽しいものか。人に金を貸せば、必ず、金は増えて戻ってくると決まっている。金を儲けたいのならば、金を貸せばいいのだ。それが利口なやり方というものではないか)

なるほど、猿田大納言の趣味は金儲けということなのであるう。

(富樫倫太郎『妖説 源氏物語 弐』)

「賭け事など、何が楽しい」という反語文も成り立つ。「何が楽しいものか」の「楽しい」は、相手の発話内容を取り入れているわけではない。その意味で、「ものか」文の成立要件に違反している。しかし、(60)の()内の心内発話の中で、「そんなことで一喜一憂し」と自身で発話しており、その発話内で「楽しい」を連想させる「喜ぶ」という意味のことを述べている。形容詞述語の「ものか」文が、必ずしも相手の発話の一部を取り込まなくても、その代替作用は生じている。

また、「ものか」が任意のものではないことは次の例(61)(62)でも明らかである。

(61)「安心するのは早いわよ。私たちが捜しに行く前に、だれかに拾われた可能性があるじゃないの」

「あんな汚れた縫いぐるみを、だれが拾うもんか」

「あなたって、本当に天下太平にできてるのね、私たちを追いかけている人間が拾ったかもしれないのよ」

(森村誠一『人間の証明』)

(62)どうせ桑田伸子の社長など長くは続かない。あんなお茶くみしか能のない娘に、何ができるものか。遠からず、尾島は社長に返り咲き、以前通りの体制に戻ることは間違いない。

(赤川次郎『女社長に乾杯!』)

(61)(62)の下線部は、「ものか」を削除すると、「あんな汚れた縫いぐるみを、だれが拾う。」「あんなお茶くみしか能のない娘に、何ができる。」となり、反語解釈と疑問解釈との揺れが生じる。しかし、この二つの例においては、「ものか」が文末に接続することによって、「(だれが)拾う」「できる」の話し手の無意志性が確信に変わり、反語解釈がより一層確実なものになる。

(63)(64)は、反語文にさらに「ものか」が付与された文である。

(63)「いったいあなたたちは、わたしの描いたものをお読みになったことがあるんですか?」「誰が読むもんですか、あんなもの」

二、三人が面白そうにケタケタと笑った。彼女たちはあきらかに、おれを苛めて快感を覚えていた。楽しそうにしていた。

(筒井康隆『くたばれ PTA』)

(64)「彼を、どう見ました?」

「やつは——そうだな、遠くの空を渡ってきた鶴(たづ)みたいなものだ。泥の中に足とくちばしをつっこんではみたが、心はまだ今までいた雲の上をただよっている。そんなやつに、どうして人をあざむくたくらみかくわだてられるものかね」

(荻原規子『水色勾玉』)

(63)(64)は、いずれも「ものか」を削除すれば「誰が読む、あんなもの。」「どうして人をあざむくたくらみがくわだてられる。」という反語解釈が成り立つ

文となる。そこに反語表現の専用形式「ものか」が接続することによって、話し手の否定的主張が強調される。且つ、「読む」という意志動詞に「ものか」が接続し、話し手の否定的意志が主張され、「くわだてられる」という無意志的動詞（可能動詞）に「ものか」が接続することによって、話し手の否定的確信が強調されることとなると考えられる。

以上見たように、「ものか」はやはり反語表現の専用形式であり、反語文と疑問文との間の解釈が曖昧な文に接続すれば、確固とした反語文を成り立たせる。そして、疑問語疑問文の述語動詞に意志性があるか否かで、反語文による話し手の主張が強調される。疑問文の述語名詞・形容詞に「ものか」が接続すれば、前の文脈の一部を取り込むこととなる。このように、疑問語疑問文形式の反語文と「ものか」文は双方の本来の用法を保ちつつ、結合する。

6. たまるものか

6. 1 構文レベルの議論

本節では、「たまるものか」文について構文レベルの議論を行う。

本論文でとりあげた「たまるか」「ものか」は第1節で述べたように、相互承接する。

- (65) おれは、いささかあきれて、いった。「とうとう頭へきたのかね。いくらソフトボール部にいい打者がいても、女の子をチームに入れるわけにはいかん。せいぜいマネージャーだ。だいいち、女に野球が出来てたまるものか」

(筒井康隆『くたばれ PTA』)

本論文で議論したことを踏まえてこの二形式を承接順に並べると、先にも述べたが「動詞テたまるか→ものか」となる。「たまる」の語源は「こらえる。がまんする」(『大辞林』)という動詞であること、また(65)の例文を話し手の発話の意図まで解釈すると、「女に野球が出来てたまるか(いや、たまらない)」となり、実は「たまるか」は活用することがわかる。動詞の実質的概念が希薄になり、形式的な形態となっているという意味で、動詞から派生した助動詞相当語句といえよう。「たまるか」の拒絶性と「ものか」の否定性、一般性が融合した関係になる。

6. 2 意味レベルの議論

さて、「たまるものか」文は、どのような意味用法を有するか。

そこで、「たまるか」「ものか」「たまるものか」の文が引用文に引用句として埋め込まれた場合の発話行為動詞（今井 2001）や、その文脈の中で当該文がどういう状況で発話されたかという後文脈を見てみる。そこから引用句の発語内行為や発話時の話し手の心的状況を知ることができる。用例では、引用助詞「と」がある場合とない場合がある。

以下の表 1 の用例は、BCCWJ からとった。

【表 1】

専用形式	引用句の後文脈
たまるか	～と意地を張る、～と怒鳴る、～と呟く、～という敵対心を持って、 ～と憤慨する、～とたたきつけるように話した、～と釘を刺す、～と腹が立った、～と肩を怒らせて、～という気迫だ、とことん頑張るで！！、～と思った、～とプライドを剥き出しにする、～と死んだら損するぞと言う気迫
ものか	～と怒る、～と叫ぶ、～と憤る、陽気な気分になっていた、～と頬に薄ら笑いを浮かべておれをじろじろ見た、～と滑稽で仕様がないうように笑いだした、～とわめいた、～とどなる、こう言って得意そうにけらけら笑った、～と身構える、～という思いあがった態度も見てとれる、～という気持だった、歯を食いしばり固く口を閉ざした、王の声音に迷いはない、～と印籠を握りしめたまま、欲しがっているものはわたさない、生きている限り奴らに敵対してやる、～と皮肉な答えをしてから
たまるものか	歯を食いしばり、～と言った、～との気概がある、～という威勢のいい若者、～と思った、負けない気で、固い顔つきで、牙をむいて生きてる、懸命に涙をこらえる、彼女は叫ぶ

それぞれの専用形式を文末に持つ引用句の後続文脈から次のことがわかる。

- ① 「たまるか」文：発語内容も表す。マイナス方向の感情を表す。プラス方面の感情（うれしいとき等）には使わない。
- ② 「ものか」文：発語内容も表す。プラス方面の感情（うれしいとき等）も表す。
- ③ 「たまるものか」文：発語内容も表す。話し手の強い気概が見られる。マイナス方面の感情を表す。

発話行為動詞は「たまるか」「ものか」の場合は多く見られるが、「たまるものか」になるとあまり見られなかった。そうすると、「たまるものか」の解釈は次の(66)(67)のように、文脈に大きく依存すると考えなければならない。

(66)おれは今まで誰にも頭などは下げず、誰の世話にもならず生きてきたのだ。今更、あんな奴らに頭を下げてたまるものか。

(富樫倫太郎『陰陽寮』)

(67)俺はまだ前線へ出てきたばかりなんだ。まだ何もやっていない。戦争は始まったばかりで、本当の戦いはこれからなんだ。ここでやられるなんて馬鹿げている。そんなことがあってたまるものか！俺はまだ二十二歳だぞ！まだまだ死ねないんだ！ 久米と遠藤はうまくかわしたと見えて、しっかり後ろについてきていた。

(武田信行『最強撃墜王 零戦トップエース西澤廣義の生涯』)

(66)は、点線部分を文脈的根拠とし、実線部分の「今更、あんな奴らに頭を下げる」ということが不本意なことであり、そのことを話し手は心の底から拒否する。つまり、発話行為動詞で、「意地を張る」「怒る」のように表示しなくても、「たまるものか」文には、強い心情は込められていることが文脈から判断できるのである。「たまるものか」文は命題の強い否定および拒絶を表すと言える。(67)は、「たまるものか」文の後続文脈（点線部分）から、「ここでやられるなんて馬鹿げている。そんなこと（ここでやられること）があるコト」、つまり「今ここで死ぬ」ことが不本意であることを考えた様子が、点線部の後続文脈「俺はまだ二十二歳だぞ！まだまだ死ねないんだ！」から表されている。そうすると、ここでの「たまるものか」文は、話し手の「死ぬこと」への強い

拒否を表すと解釈できる。

「たまるか」文は、抵抗可能且つ迷惑、不本意、不快なことを示す命題の述語動詞テ形に接続し、そのことを話し手が阻止したり拒絶したりする文であった。「ものか」文は話し手の強い意志、話し手の強い否定的確信を表し、且つ一般化の意味もあった。そのため、「たまるものか」文は、「たまるか」文、「ものか」文以上に、話し手の強い拒否、拒絶の意思表示があると考えられる。「ものか」の一般性が依然残っていると考えると、「たまるものか」は「拒絶したい感情が根強く残っている状態」と考えることができる。

7. 「＜連体修飾節＋ヒト名詞＞があるか」文

7. 1 構文レベルの議論

最後に、反語にしか解釈できない定型文として、「＜連体修飾節＋ヒト名詞＞＋があるか」を挙げておく。

この文型は、改めて言うと次のように公式化できる。

(68) 連体修飾節＋ヒト名詞＋があるか

(68)のヒト名詞に該当する語は、「奴」「馬鹿」「人」などがあげられる。

(69) (ローラースケートを履いたのび太)

ゴロゴロ

のび太「わ、わ、動き出した。」

ドラえもん「そら、バランスをとって。」

ドタ、バリバリ (ふすまを倒す)

ママ「家の中でそんなものにのる人がいますか。」

のび太「おもてのほうがあぶないのにな。」

車の人「ばかやろう！ ひきころされたいのか。」ブブー

のび太「それみろ」

(藤子・F・不二雄『ドラえもん』)

人物なので、述語動詞を「いる」にすると、(69)の下線部は次のように単に存

在を問う疑問文にも解釈される。

(70)家の中でそんなものにのる人がいますか。

「家の中でそんなものにのる人」というのは目の前の「のび太」のことであるが、「ありますか」を「いますか」にすると、その文だけ見ると、文末上昇イントネーションの〈問いかけ〉性の強い疑問文にも解釈できる。しかし、存在動詞を「あるか」にすると、(69)のように、反語にしか解釈できない。

5. 2 意味レベルの議論

次に、意味用法的側面を考えてみる。

(71)ところが己たちはわずか七人しかいねえ。明後日あたり、宮沢と中川が来るだろう。それに汐見と木下と服部と、立花は寝ていやがるな、都合、……指を折りながら変な顔をした。

——馬鹿、自分を忘れる奴があるか、と服部が笑った。

——そうだ、不肖柳井繁雄、キャプテンに選ばれた以上は責任をもってやる。

(福永武彦『草の花』)

上の例(69)(71)からわかるが、「このような人物はいるか、否いない」、というように、この文型は目の前の人物を責めたり、叱責したりするときに用いられる。このように、「<連体修飾節+ヒト名詞>があるか」文は、そんな人物にはいてほしくないという否定的主張をする反語の定型、つまり、反語の専用形式とすることができる。だからこそ、ヒト名詞に該当する言葉には「奴」「馬鹿」「人」という蔑む表現がはいるのである。

最後に、次の例を挙げておきたい。「ばか」が眼前の人物ではなく、話し手自身を指す文である。

(72)いつ、頭上から岩石がふってきても、平然と死ねる工夫をしながら、ひたすらにそのつもりで歩く。岩石を避けず、受け止めず、頭上に来れば平然と迎え、無に帰することができる工夫である。

最初は、襲いかかる岩石を空想し、むしようにこわかった。十五歳から十八歳ごろのあいだ、いつでも竜馬の念頭に、この岩石があった。

しかし十八歳になったころ、これがばかばかしくなった。

(自分でつくった岩石に、自分がおびやかされているばかがあるか)
とやめてしまった。

(司馬遼太郎『竜馬がゆく』)

話し手が自分自身を客観的に見て、責めたり呆れたりしていると解釈することができる。

8. まとめ

本章では、「たまるか」「ものか」「たまるものか」を反語表現の専用形式として、考察を行った。それぞれの文法的、意味的特徴は表2にまとめた通りである。

「たまるか」「たまるものか」は接続如何であれ、用法は変わらない。「ものか」は接続によって、意味用法が異なることがわかる。

【表2】

反語表現の専用形式	接続	用法のまとめ
たまるか	① 動詞受け身 テ形 ② 動詞テ形	① ②迷惑、不本意、不快なことを話し手が我慢できないために阻止したり、拒否したりする。 * マイナス方面の感情を表す。
ものか	① 名詞+な / 形動+な ② 意志動詞辞書形 ③ 無意志動詞辞書形	① 談話内での繰り返し。強い否定的主張を表す。 ② 話し手の強い否定的意志を表す。 ③ 話し手の強い否定的確信を表す。 * マイナス方面だけでなく、プラス方面の感情も表す。
たまるものか	① 動詞受け身 テ形 ② 動詞テ形	① ②話し手の強い気概を表す。不本意なことを心底拒否する。 * マイナス方面の感情を表す。

加えて、「〈連体修飾節＋人名詞〉＋があるか」という構文が、目の前の人物を責めたり叱ったりするときの反語表現となることも述べた。

「ものか」には〈感嘆〉の意味用法もあり、これは〈反語〉と紙一重の用法であるが、どういう場合に〈感嘆〉で、どのような場合に〈反語〉とみなされるかという条件を今後は見出す必要があると思われる。本稿では、この問題について十分議論する準備がないため、今後の課題としたい。

第5章 疑問語疑問文形式の反語文

1 はじめに

いわゆる反語文（修辞疑問文）と呼ばれてきた文の中には、疑問語疑問文の形式をとるものがある。例えば次の(1)(2)のような文である。

(1) 富士山なんか誰が登るか。

(2) そんなことして何になる。

疑問語疑問文形式の反語文は「誰」「何」「どこ」「どうして」などの疑問語によって成り立ち、全量否定、つまり「誰も／何も／どこも／どうしても～ない」という解釈が成り立つ。しかし、疑問語が変わればそれぞれの反語文の構文レベルの特徴や、語用レベルの様相が異なってくることを指摘した研究は案野（2014）しかない。

そこで、本章では、考察対象を疑問語疑問文（以下、「疑問文」）の中でも、「誰が」（以下「誰が」文）、しばしば互いの置き換えが可能となる「どこが」と「何が」（それぞれ以下「どこが」文、「何が」文）、そして、ガ格表示はされないが反語文を構成する「どうして」（以下「どうして」文）に焦点をあてる。その上で、疑問文が反語解釈されるにはどのようなメカニズムがあるかを明らかにするために、構文レベル、意味レベル、談話レベル、語用レベルで議論を行う。ただし、全ての反語文においてこの4つのレベルで議論を行うわけではない。疑問語によって反語文の性格が異なるためである。

疑問語疑問文形式の反語文はいずれも下降イントネーションで発話され、話し手の主張を相手に押し付ける。上昇イントネーションで発話されるときもあるが、話し手の主張を聞き手に想起させる場合である。

2 先行研究

2.1 構文的側面からの先行研究

現代日本語の反語研究において網羅的な研究を行っているのは安達（2004）である。本節では、構文的側面からの先行研究の考察を安達（2004）をもとに行う。

安達（2004：41）は、次のように述べる。

真偽疑問文（引用者注：本論文における肯否疑問文）には、1)可能動詞と存在動詞を述語とする、2)過去形を用いてもよい状況で非過去形が用いられるといった一般性への志向が見られるという特徴がみられる。しかし、補充疑問文（引用者注：本論文における「疑問語疑問文」）の〈反語解釈〉の場合、疑問詞が〈反語解釈〉の派生に関わることによって、この特徴が弱まっていくという傾向が見られる

さらに、「誰が」「何が」「どこが」といったガ格名詞主語の疑問文だけでなく、「どうして」のような主格名詞成分を構成しない疑問詞についても広く言及している点は、他の先行研究と比較して進んだ位置にある。確かに、本論文の収集した反語の「誰が」文の存在動詞述語は 493 例中 9 例のみであり、補充疑問文になると、1)の傾向が弱まるといった安達（2004）の指摘は妥当だと考えられる。

しかし、多くの疑問語の反語文の用法を研究していることから、却って個々の疑問語ごとの反語文の構文的特徴の追究が浅いものとなっていることは否めない。

また、山寺（2010：166）は「何がこの本が面白いの」構文を考察するにあたって、「何が」は「どこが」に置き換えることが可能である」と述べているが、「両者の意味や用法に差異があるかについては別稿で考察したい」と問題提起にとどまっている。

つまり、反語の「どこが」文と「何が」文は、類似していながら差異もあるということは指摘されているが、その相違を詳しく研究したものは管見ではない。疑問語疑問文形式の反語文の研究は未開拓であると言える。

2. 2 語用論的側面からの先行研究

疑問文の反語解釈については、仁田（1991：150）では「常に、一定、絶対であるというものではなく、様々な状況・文脈といった運用論的な条件のあり方によって、微妙に変化する」と述べられており、「運用論的な条件のあり方」があることを指摘している点は示唆的である。しかし、ここで指摘されている「運用論的な条件のあり方」とは何かについては具体的には述べられていない。

安達（2004：37）では「〈反語解釈〉は聞き手の知識や文脈に大きく左右さ

れるという文脈依存的な性質を持つ」と述べ、以下の例を挙げる。

(3) しかし、結婚は、はたしてどの社会でも自由勝手なものなのでしょうか。なるほど、人を好きになるのは自由かもしれませんが。ただし相手がこちらに関心を持ってくれなければ、恋愛は成立しませんし、結婚となると、さらに壁が厚くなります。

(桜井哲夫『〈自己責任〉とは何か』下線安達)

そして、上の例について以下のように述べる。

後続する文脈から、「結婚は自由勝手なものだろうか」という問いかけに対して、話し手が否定的な回答を想定していることがわかる。しかし、問いかけられた段階で〈反語解釈〉が生じていると見るべきか、〈問題提起〉的な機能にとどまっていると見るべきかは判断しづらい。このように、〈反語解釈〉は文脈依存的な性質が強く、聞き手の知識、一般的な通念によりかかりながら、問いかけに対する否定的な回答を断定的に伝えるものだと考えられる。

(安達 2004 : 37-38)

確かに、「結婚は自由勝手なものなのだろうか」という問いかけに対する話し手の意図を正確にくみ取ろうとすれば、後続文脈を読み、理解するのが確実である。しかし、「しかし、結婚は、はたしてどの社会でも自由勝手なものなのだろうか」という文の中の「しかし」「はたして」などの逆接や疑いの表現をもって問いかけていることから、すでに話し手が「結婚が自由勝手なものかどうか」について否定的な意識をもっている可能性がある。したがって、反語解釈は文脈依存性が高いということをこの例から疑いの余地なく判断することはできない。もちろん、この解釈の違いは、「聞き手（読み手）の知識」というものに対する安達と本論文の認識の違いによるものであろう。

「聞き手（読み手）の知識による反語解釈」をどのように設定するかということが残された課題になるが、本論文では次のように考えることとする。「聞き手（読み手）の知識による反語解釈」というのは、聞き手（読み手）の持つ構文的知識によって、誰もが等しくその文を話し手の否定的主張を理解できる

というのではなく、例えば(4)のような、聞き手（読み手）B しか持たない特有の背景を持つ知識によって、話し手 A と発話の理解を共有することを言う
と考える。この観点に則り、疑問語疑問文形式の反語文の語用レベルの議論
を行うこととする。ちなみに、(4)の A の発話は 78 歳になった今でも「若大将」
と呼ばれる、ある俳優を見た若者が発したものである。

(4) A : あの人のどこが若大将なのよ。

B : そんなに変か？

C : だれのこと？

3 研究の方法と構成

考察にあたっては、本章でも主に実例を対象にした。ただし、必要な場合は
便宜的に作例を用いた。用例は、国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コ
ーパス』(BCCWJ) から収集した。「誰が」と「だれが」を含む文（以下「誰
が」文と併せて表記）、「何が」と「なにが」を含む文（以下「何が」文と併せ
て表記）、「どこが」「どうして」を含む文（それぞれ「どこが」文、「どうして」
文）を『中納言』で検索し、そこから入手した疑問語疑問文を前後の文脈を踏
まえて反語文、疑問文に分類した。

用例の合計数は、「誰が」文は、反語文 493 例、疑問文 1,205 例、「どこが」
文は反語文 153 例、疑問文 526 例、「何が」文は反語文 243 例、疑問文 2,611
例、「どうして」文は反語文 191 例、疑問文 5,982 例であった。

ところで、本章は考察対象を「誰」「どこ」「何」がガ格名詞成分となった反
語文に絞る。実際、「どこに」「何に」のようにガ格成分以外の形もないわけ
ではない。しかし「どこに」「何に」というのは次のような特定の述語以外は現
れないのである。

(5) 夏服で冬山に登る人がどこにいる。

(6) そんなことやって何になる。

つまり、「どこに」の場合では述語は「ある」「いる」といった存在動詞に限定
され、「何に」の場合は「何になる」と固定されるのである。したがって、本
章では、述語のバリエーションに限りのあるこの二つの「どこに」「何に」は

考察の対象から外し、ガ格名詞成分となる「誰が」「どこが」「何が」、そして安達（2004）でも取り上げられていた「どうして」を考察の対象とする。その上で、これらの疑問語を含む反語文の用例について、構文レベル、語用レベルなどの議論を行うことによって、各反語文が見せる特徴を記述し、考察を行う。

まず、第4節で反語の「誰が」文、次に第5節で反語の「どこが」文、第6節で反語の「何が」文、第7節で反語の「どうして」文を考察する。そして、それらの反語文の性質に応じて、構文レベルの議論、意味レベルの議論、談話レベルの議論、語用レベルの議論を行う。

4 反語の「誰が」文

4.1 「誰が」文における反語文と疑問文の区別

本節では、「誰が」文における反語文と疑問文の区別について触れる。

第3章でも述べたが、「誰が」文における「誰」は「人」という内容が不明、不定である疑問語、つまり不定語⁷である。その疑問語がいわば空欄で、話し手が不明部分の明確化を求めていくことをする文が疑問文で、不明部分である空欄を明確にしようとしても事態が成り立たないのが反語文である。次の例で説明する⁸。

(7)「どこへ行くんだよ！兄ちゃん、おれも連れてってくれよう！」

わたしは、叫びました。兄につづいて、土手の上に駆け上がりました。
わたしが高い三本杉の近くまで追っていくと、兄は急に立ち止まって言
いました。「だれが、ついてこいといった！おまえは、帰るんだ。ついで、
くんな！」わたしはまたしても立ちすくんでしまいました。

（高史明『生きることの意味』）

(8)今日は昨日より暖かくなります…と、誰が言ったんですか！？めっちゃ！寒いじゃないですか！！

（Yahoo! ブログ）

⁷ 不定語については尾上（1983）が詳しい。

⁸ 反語文の中では、動詞タ形述語の91%が「言った」であった（66例中60例）。

(7)の「だれが、ついてこいといった」は波線部の「わたし」が「追っていくと」に対する発話であり、且つ後続文脈に「ついて、くんない」という拒絶の発話がある。つまり、実線部は「ついてこいとは言っていない」という意味で、「だれが」の「だれ」には特定の人物が当てはまるわけではない。「ついてこいといった人は誰もいない」という解釈が成り立ち、反語文と考えることができる。

一方、(8)の「誰が言ったんですか」は、話し手が提供された情報、つまり先行文脈で述べられている「今日は昨日より暖かくなります」が裏切られて、後続文脈の「めっちゃ！寒い」に続く発話である。つまり、誰がそんないい加減なことを言ったのか、「言った」張本人を明確化しようとする「誰」である。このことから、「誰がいったんですか！？」は、「誰」つまり「人」に関する欠けている情報を特定しようとする機能を持つ疑問文と解釈される。

この事実は、他の述語動詞でも同様のことが言える。

(9)「彼というのは、三条雄介のことなんですね」「ほかに、誰がいるんです。わたくしが愛した人はこの世でただひとり、雄介さんしかいないんです」

(笹沢左保『悪魔岬』)

(10)誰がいて、どんな状況で、近くにどんな設備があるかを調べるんだ。

最後に避難していたのが消防士だったから、まわりには消防士たちだろう。階段を下りるあいだに見たところ、ビルが崩壊したときには、一般市民はすでに避難を終えていた。少なくとも、私はそう願っていた。「私はリッチ・ピッチョートだ。消防局第十一大隊の大隊長だ。ほかに誰がいる？」

私に続いて、一人ひとりが声をあげた。近くにいた者から順番にあげると、こうだ。第十六ポンプ車隊のミッキー・クロス小隊長。第三十九ポンプ車隊のジム・マクグリーン小隊長は部下三人と一緒にいた。ロブ・ベーコンという新入りと、ベテラン消防士のジェフ・ユニグリオとジム・エフディミアデス。

(ダニエル・ペイズナー/リチャード・ピッチョート/春日井晶子(訳)

『9月11日の英雄たち』)

(9)の「ほかに、誰がいるんです」には、後続文脈の「わたくしが愛した人はこの世でただひとり、雄介さんしかいないんです」から判断されるように、「雄介さん以外は他に誰もいない」という反語の否定的含意がある。「誰もいない」というのは、どこを見てもひとりもいないということである。「誰」という空欄に埋まる人物はいない、ということになり、反語解釈が成り立つ。

(10)の「誰が」文は、大隊長が自分以外にまだそこにいる消防士を数える、点呼の発話である。誰がそこにいるかを見出そうとする意味があり、疑問文解釈が可能である。

このように、「誰が」文について言えば、反語解釈が成り立つのは、「人」に関する情報で「誰」という空欄を埋めることができない場合である。疑問解釈がなされるのは、必要な情報が欠けている、つまり実際には存在するはずの動作主体が特定できず、「誰」に入るべき人物を探し、話し手が積極的に特定しようとする場合である。

4. 2 反語の「誰が」文の構文レベルの議論

4. 2. 1 反語の「誰が」文が可能動詞述語をとった場合

4. 2節では、反語の「誰が」文について構文レベルで議論する。

BCCWJの「誰が」文において、可能動詞述語は自動詞・他動詞いずれの場合も、疑問文に比べて反語文の方に偏在している。反語文・疑問文合計 1,698 例中、170 例が可能動詞述語で、それらすべての文が反語解釈できる文であった。反語文に可能動詞述語が多いということは安達（2004）でも指摘されていることであるが、逆に疑問文に可能動詞述語が少ないということは指摘されていなかった。ただし、疑問文の述語に可能動詞が現れないかというところではなく、たまたま BCCWJ に出現しなかっただけだと思われる。例(11)は作例である。

(11)明日の朝練、誰が来られますか？ 挙手してください。

(11)のようにすると、疑問文でも可能動詞述語を用いることは可能である。そして、「誰が来られるか」の「誰」という空欄を話し手が積極的に埋めようとし、聞き手がその空欄を埋められるであろう点で、反語文との解釈の揺れはない。

ここで興味深いのは、BCCWJの「誰が」文の170例の可能動詞述語のうち、147例(87%)の文末形式が疑いのモダリティの「よう(か)」「だろう(か)」であったことである。その他の文末は「か」13例、「のか」4例、動詞辞書形3例、動詞タ形3例であった。

「だろう(か)」「よう(か)」を文末に持つ文は書き言葉(地の文)、あるいは心内発話であり(例(12))、「でしょう(か)」の場合は疑いであるが、聞き手を意識したやわらげの機能を持つ文(例(13))とみる。

(12)「目茶苦茶だ」宗介も船の貨物室には足を踏み入れていたのだから、あの機体を目にしているわれ^{ママ}なのだが一間近で見ても、それがなにかは分からないでいた。ただの大きな機械。そうとしか認識できなかったのだ。彼が間抜けだった、とは言い切れない。普通の五倍以上の身長の機体など、いったいだれが想像できるだろうか？ASというものを知っている人間ならば一いや、知っている人間だからこそ、そんなサイズの機体は、最初から考えようとしな

(賀東招二『疾るワン・ナイト・スタンド』)

(13)たとえばマンション業界。販売員は自分たちをだまそうとしているのではないか、なんとか高く粗悪な物件を売りつけようとしているのではないか、そんな眼で見られがちです。しかし、マンションデベロッパー各社の社員一人ひとりが間違っただけの人ばかりだと、だれがいえるでしょうか。それぞれの立場で、家族のために、会社のために、さまざまな制約のなかで一所懸命仕事をしている人ばかりなのです。

(長嶋修『住宅購入学入門いま、何を買わないか』)

反語の「誰が」文の述語に可能動詞および疑いのモダリティが多く見られることについて、本論文では次のように考える。他の疑問語「どこ」「何」「どうして」に比べると、「誰」は「人」であるから、能力や可能性を有することができる存在である。疑いのモダリティを用いてその可能性を疑うことによって、そのような能力や可能性を持つ人がいることを全否定する働きがあるのである。

以上、本節では、反語の「誰が」文が可能動詞と疑いのモダリティの述語をとるとき、その能力や可能性を持つ人がいないことを強調する機能があること

を述べた。

4. 2. 2 反語文に見られる程度の甚だしさ

反語の「誰が」文は、程度の甚だしく低い、あるいは高い概念をとりあげ、それは無理だ、誰にもできない、というニュアンスを持たせることがある。このときには、とりたて助詞の「なんか」「など」「なんて」が共起する場合がある。

- (14) 幸せな楊一家であったが祖父の死とともに没落した。父は職を失い、親子は江西省へと流れていったが、まもなく父母がなくなった。十四歳の振徳は一人社会に投げ出されてしまった。彼女を救ったのは医学の知識であった。町医者として何とか生活は維持できたが、封建社会の中で小娘の医者など、誰が信用するであろうか。彼女の生活はどん底に近かった。

(西園寺一晃『穎超』)

(14)の下線部は、「封建社会の中」の「小娘の医者」を低評価の「など」でとりたて、そのようなものは普通に考えて人々に信用されないというくだりである。

この用例は、とりたて助詞「など」をはずしても反語文として成立する。

- (15)封建社会の中で小娘の医者を、誰が信用するであろうか。

「など」を「を」に置き換えても、「封建社会の中で小娘の医者を誰も信用しない」コトという命題は変わらない。「封建社会の中で小娘」が信用されないことは周知の事実であるからである。また「小娘」というマイナスイメージの語が反語文成立の要件になっている。つまり、直接程度の甚だしさを表す要因は、「なんか」などの低評価のとりたて助詞の類の存在一つではないことがわかる。

ほかに(15)と同様に、とりたて助詞や指示詞などで程度の甚だしさを表している例を(16)～(19)で示す。

(16) 「シェイクスピアの研究者なら、彼の人生の手がかりを求めて集められるかぎりの資料を検討するはずだ」とぼくは言った。

「シェイクスピアは故人だ。普通、そんな細かいことまでだれが気にする？ところが世間は気にするんだ。大英博物館にシェイクスピアの署名が保存されているが、それが神様の直筆であるかのようにみんな見に行く」

(デイヴィッド・チャクルスキー/立石 光子(訳)『詩神たちの館』)

(17) そのとき私が申し上げるのは、まず、食料安保というんですか、今四十%しかない自給率をだれが保障してくれる、これからどんどん世界じゅうの人口がふえてくるときだれが保障してくれる、やはりこの日本の農業をしっかりと今のうちに守っておかないかぬ。

(国会会議録)

(18) 主役の紹介に単行本二冊分を必要とする小説なぞだれが読もうとするだろうか。

(井上ひさし『吉里吉里人』)

(19) ハドスンと一緒に鳥を見る、こんなすばらしい冒険を、だれがみのがせるだろうか？話はきまり、彼はいついつ出発、私は少しあとを追う、ということだった。

(リチャード・カール(著)/黒田 晶子(訳)『鳥たちをめぐる冒険』)

(16)は「まで」、(17)は「しか」、(18)は「なぞ」といったとりたて助詞がある。(19)はとりたて助詞はないが、指示詞の「こんな」が程度の甚だしさを表していると思われる。(16)～(19)は次のように示すことができ、命題が変わらないことがわかる。

(16')普通、細かいことをだれも気にしないコト

(17')今四十%の自給率をだれも保障してくれないコト

(18')主役の紹介に単行本二冊分を必要とする小説をだれも読もうとしないコト

(19')ハドスンと一緒に鳥を見る素晴らしい冒険を、だれもみのがせないコト

本質は、とりたて助詞や評価を表す指示詞の有無の問題ではなく、目的語の連体修飾概念の程度の甚だしさではないかと思われる。(14)は「封建社会での小娘の(医者)」、(16)は「そんな細かい(こと)」、(17)「四十%の(自給率)」、(18)「主役の紹介に単行本二冊分を必要とする(小説)」、(19)「ハドスンと一緒に鳥を見る素晴らしい(冒険)」、このように連体修飾句の概念が成立することについての蓋然性が著しく低い、あるいは高いために、誰も受け入れられない、誰もそのことを実現できそうにないというニュアンスとなる。連体修飾句の程度の高さ(低さ)を掲げ、それに対する述語成分を全量否定することで、「誰も気にしない」「誰も保障できない」「誰も読もうとしない」といった強い否定や拒否、あるいは逆に「誰も見のがせない」といった強い希望の意味に解釈できる、目的語の程度の高い(低い)概念について実現の難しさを良くも悪くも強調することこそが反語の「誰が」文の特徴であると思われる。

4. 3 「誰が」文の意味レベルの議論

本節では「誰が」文の意味レベルの議論を行う。「誰が」文が文としてどのような意味を発揮するのか、ということ考察する。

本節では、「誰」という疑問語が「人」という性質の空欄であり、その内容を話し手が明確化できないという性質に着目し、その上で、反語の「誰が」文が談話の中で、「限定」の意味を持つということについて述べる。

この「限定」の「他にはいないから、その人しかいない」という用法は反語の「誰が」文のうち 10.3% (493 例中 51 例) あった。ただし、文末述語形式が動詞タ形、「ものか」「か」の場合はこの「限定」用法は現れなかった。

本論文でいう「限定」用法というのは、次の例のようなものである。

(20)「彼というのは、三条雄介のことなんですね」「ほかに、誰がいるんです。わたくしが愛した人はこの世でただひとり、雄介さんしかいないんです」

(笹沢左保『悪魔岬』)

(21)ところが若いプレーヤーの多い三菱は、外から全体を見て的確な判断を下せる人間がどうしても必要だった。それをお前がやらなくて誰がやる、と村田は二宮に迫った。そしてこう付け加えた。それでうまくいったら、オフには東南アジアに遠征しよう。

(平塚晶人『空っぽのスタジアムからの挑戦』)

(22) 私たちが探さなかったら、だれが奥さんの行方を探すのですか。

(森村誠一『人間の証明』)

つまり、(20)「ほかに誰もいない」、(21)「お前がやらなくて誰もやらない」、(22)「私たちが探さなかったら、だれも奥さんの行方を探さない」というように、「お前がやらなくて」「私たちが探さなかったら」といった否定的条件節や、「ほかに」といった「なにもない」という否定的概念を想起させる表現があり、そのような否定的表現があることが、話し手が意図する人物(「三条雄介」「お前」「私たち」)を限定することにつながっているのである。「三条雄介しかない」「お前しかやらない」「私たちしか奥さんの行方を探さない」と限定することになる。

「誰が」文は、「誰が～するのか」という疑問形式文が発せられたときに「誰も～しない」「どんな人も～しない」という否定的含意が生じる。上述のように、他にいなければその人だけに限定されるのだと考えられる。これが「誰が」文の限定の用法である。

4. 4 反語の「誰が」文の語用レベルの議論

本節では、反語の「誰が」文の語用レベルの議論を行う。話し手が言語的文脈・非言語的文脈において、どのように「誰が」文を発話するかを考察する。それには、「聞き手(読み手)の知識による反語解釈」およびそれに関連して「文脈で判断される反語文」について考察する。

聞き手(読み手)の知識による反語解釈というのは、本章2. 2節においても述べたが、誰もが等しくその文が話し手の否定的主張であることを理解するというのではなく、非言語的文脈において聞き手(読み手)しか持たない特有の知識によって、話し手と発話内容を共有することを言う。

しかし、BCCWJがあくまでも書き言葉であるという性質をもつことから、非言語的文脈の例はほぼないといっていいに等しいため、聞き手知識による反語解釈が現れにくいといってよい。

(23)A: 例の件、どうなった?

B: いやあ、なかなか…。

(23)の場合、BがAに対する聞き手となるが、Aの指す「例の件」はBと共通認識されるもので、この談話の中では、AとBにしか理解できないものである。

このような、話し手に対する聞き手（読み手）の知識によって反語解釈が成り立つ例があるだろうか。

(24)『誰が戸塚ヨットスクールを笑えるのか！』

(小浜逸郎『学校の現象学のために』)

(25)A：誰が廃病院に行く？

B：誰も行かないよね。

(24)は書籍名である。今ではもう話題にも上ることはないかもしれないが、青少年に対するスパルタ教育のありかたで物議を醸しだした「戸塚ヨットスクール」を笑えないだろうという題目である。日本社会になじみのない外国人や若い世代の読み手が知らなければ、なかなか理解しがたく、戸塚ヨットスクールを笑えない、という趣旨は伝わらないだろう。

(25)は作例である。廃病院といえば肝試しがよく行われるところだが、Bは廃病院が肝試しに使われる場所で、心霊写真が撮られたり、霊にとりつかれたりすることがあることを知っている。AもBもそのことを共通して認識しており、Bが「誰も行かないよね」で同意していることによって、Aが「廃病院に行く人なんか普通いる？」という「普通いない」という含意をもつ反語の発話意図であることがわかるのである。

(26)A：誰が廃病院に行く？

B：私行かないよー。

(26)は、次のような解釈になる。例えば、仲間うちで夜集まって何か面白いことをしようと相談し、自分たちの中で廃病院に行く人がいるかどうか押し付けあっている場面である。このとき、疑問文となる。

このように、既存の聞き手の知識や話し手との了解によって反語解釈が成り立つ場合があることは皆無ではないだろう。しかし、反語解釈は聞き手の知識

と文脈とは切り離せない関係にある。(25)(26)も、実は聞き手の知識だけでなく、発話の場、つまり文脈から A と B の対話が成り立っていると考えられる。音声言語であれば、イントネーションは区別の手がかりにならない。両者は同じく上昇イントネーションである。

そこで、次に文脈で判断される反語文と疑問文について考えてみる。

(27) 「いい新婚旅行だ」「どこまで行くの」「油津という港。今夜は宮崎で新婚客の仲間入りができる。明日からの旅程はきみにまかせるよ。しかし、こうと知っていたらフルムーンの切符を買っておくべきだった」「あれは二人合わせて八十八歳からでしょ」「われわれだってそれぐらいには見えるさ」「だれが」「わかったよ。わたしが六十八歳できみは二十だ」「だってそうなんだもの」理恵はけろっとした口調で言った。「私、二十になったとき、これ以上年を取るのはやめようと思ったの」

(志水辰夫『裂けて海峡』)

(27)の場合、下線部「だれが」だけとりだしたのでは、疑問文か反語文かは区別できない。しかし、後続文脈「わたしが六十八歳できみは二十だ」から「だれが」には「自分はそんなに年を取っていない」という含意があることがわかる。

(28) 「この間、授業を見に来たよ」
「だれが?」
「ママ。突然にやってきやがった」
「きまぐれなのよ」

(高橋三千綱『九月の空』)

(28)は疑問の「誰が」文である。先行文脈の「この間、授業を見に来たよ」の必須項である動作主体の空欄を埋めようとするものである。疑問文の「誰が」においては、このように先行文脈に動作主体が述べられていない、という談話マーカがあるのが一般的である。「誰が」だけで一文になっている場合は、反語文か疑問文の判別は文脈に左右されることがわかる。

4. 5 反語の「誰が」文のまとめ

以上、疑問語疑問文形式をとる反語文の中で「誰が」が主格成分となる文を構文レベル、意味レベル、語用レベルで議論した。まず、「誰が」文が疑問文に解釈されるのは、「人」に関する情報で疑問語の内容を話し手が積極的に明確化することを聞き手に求める場合である。一方、疑問語の内容を明確化することができず、その事態が成り立たないのが反語文であると考えた。

構文レベルでは、反語の「誰が」文には可能動詞述語および疑いのモダリティ形式が多く見られる。そこには、「人」の能力や可能性に疑いを持ち、全否定するという働きがあることを述べた。また、目的語の概念の程度が甚だしいことを表すことによって、事態の実現が難しくなることを強調する性質があることを示した。

意味レベルでは、反語の「誰が」文は、他に誰もいないという除外の意味が働くため、逆にある人物に限定する働きがでてくることを述べた。

また、語用レベルでは、話し手と聞き手（読み手）の共通理解や、文脈による理解によって、反語文か疑問文かが判別され、特に「誰が」文一文のときはなおのことその傾向が強いことを明らかにした。

5 反語の「どこが」文

5. 1 「どこが」文における反語文と疑問文の区別

「どこが」文の疑問語は「どこ」である。「どこ」は「場所」という性質の疑問語であり、実質が不明、不定である。その不明な空欄に情報を聞き手が入られるかが問われる。聞き手が積極的に情報を入れ、内容を明確化できる場合が疑問文である。一方、空欄の場所性を明確化しようとしても、その事態が成り立たない場合が反語文である。

用例を挙げて、上述の内容を確認する。まず、疑問文として典型的な例が次の(29)で、「とおれなかった場所」を尋ねている。また、上昇イントネーションで発話されると考えられる。

- (29) 「お客さま？」 彼女が問うと、杉迫さんは階段を下りながら、「迷ってこられたんです。引き返そうとしたら、こんどは雪崩ててとおれなかったとか」「まあ大変。どこが？」「つづら折れの手まえだそうです。林の雪が道に流れただけみたいですから、明日じゅうにな

んとか復旧できるでしょう。朝、役場に電話します」「お願いね」
晶世さんは杉迫さんにうなずきかけると、わたしたちの顔を順に見
あげた。

(津原泰水『ようこそ雪の館へ』)

本論文のために収集した「どこが」文の用例全 679 例のうち、「(N₁の) どこ
が V/A/N₂なのか・だ」の文型をとるものは 186 例 (27.4%) あった。これ
は、「どこが」文の多様な文型の中で、最も多く現れる定型的な文型であり、
本節では、この文型において、疑問文と反語文がどのように区別して見られる
かを明らかにする。

(30)は、庸助が「僕のどこが好き？」と述べているが、庸助はこの「どこ」
に、自分に関する情報、つまり長所を代入されることを期待している。聞き手
の柚子が「お箸を持っているときの指」「目がきれい」などと褒めていること
から、話し手の庸助の疑問の意図と柚子の解釈がかみ合い、コミュニケーション
が成立していることがわかる。

(30) 「男がいるから、人生を肯定できるの」柚子は庸助から目を離し、煙
草に火を点けた。「僕がいるからだろ？」庸助が詰め寄る。「ええ」
柚子は短く言い、笑った。

「僕のどこが好き？」庸助がテーブルに片方の腕をのせて、にじり寄
る。

「お箸を持っているときの指」柚子は最初に魅かれた庸助の印象を口
にした。「そんなこと言われたの、初めてだ。他には？」庸助はま
んざらでもない顔をする。「目。穏やかに話をしているときのあなた
の目はきれい」柚子は正直に褒めた。

(左能典代『彼女たちのオフィスで』)

次に反語文について検討する。

次の(31)の下線部「犬のどこが怖いのよ」という発話については、話し手は
犬の場所・部分を「鼻」「口」「牙」「目」などという、犬に関する情報を「ど
こ」で問うており、回答で空欄の内容を明確化できれば、その場合は、下線部
は疑問文である。ただし、この文脈では、「犬のどこが怖いのよ」の「どこ」

が具体的に犬の怖い場所・部分を問うておらず、そのため、場所性を明確にする情報を空欄に与えることができない。聞き手が疑問語の内容を実質化できないのだから、「犬の怖くないところはどこもない」という否定的主張を行う反語文であると解釈できる。この文脈では「せせら笑っ」ているため、反語解釈される文であるとするほうが適切である。

(31) 「やだやだ、コルメラなんか。あいつら怖いんだもん」 「文句はなしのはずですよ」 ようやく素振りを終えたパルが、霊剣を鞘におさめ、額の汗を拭った。「なんなの、コルメラ兄弟って。力自慢のコワイお兄さんたち？」 「違うよ、パル。コルメラ兄弟は庭で飼ってる犬なんだ」 「犬う！？ 犬のどこが怖いよ」 パルはせせら笑った。「犬なら人に売っ払うこともできるし、いざとなったら焼いて食べちゃったっていいじゃない」 「知、知らないよ、パル。そんなこと言ったらどんな目にあうか…」

(麻宮笙『ツインムーンの封印』)

(32)の「どこが愉快だよ」は、「どこ」という場所性を持つ疑問語の内容を実質化することができない。このような場合、反語文であると解釈することができる。そうすると、「愉快なところはどこもない」という全量否定の含意があることがわかる。

(33)の「うちのどこがキツネや」も、「どこ」を場所性を持つ空欄と見立て、その空欄を何らかの情報で明確化することはできない。「うちがキツネであるところはどこもない」という含意となる。(33)も反語文と解釈することができる。

(32) 「…ああ全く、自殺なんて愉快な事してくれたもんだわね、佐奈も」 姉は髪を撫でた。「笑っちゃうわ。愉快愉快」 「どこが愉快だよ」 「黙って頂戴。嫌になるくらい頭に響くのよ、公彦の声って。自覚がないでしょう？」 「姉さんには呆れるね」僕は早口になった。「何だって、いっつもそうなんだ？ 佐奈が死んだんだぞ。愉快なもんかよそれが」

(佐藤友哉『フリッカー式』)

(33)「蘭のタヌキはまだしも、うちみたいな美少女をつかまえて、キツネの化けそこないっていうわけ。どこに目えつけてんねん。」 「けど、タヌキもキツネもかわいいぜ。暗くなると庭にでてきて、えさを待ってた。」 「タヌキとキツネだ！」 留衣は、翠をゆびさしてさげんだ。翠がほおをふくらませる。 「留衣くんまで、うちのどこがキツネや。」 「あっ、いや、ちがう。あの、松吉さん、いまなんていました？」 「え？ ああ、キツネとタヌキが夜になるとでてきてー。」 松吉が、くっことばをのみこんだ。口もとがひきしまる。わかったらしい。 「そうか、タヌキもキツネも夜に動くな。」 「フクロウやミミズクもそうですよね。ガヤヤモリも夜行性だ…。

(あさのあつこ『時を超える SOS』)

以上、「どこが」文における疑問文と反語文の区別について述べた。「どこ」という疑問語は場所を問うものであり、その問いに対して場所性を持つ情報で答えることができるならば疑問文、逆に場所性をもつ情報で答えることができず、事態が成り立たなければ反語文となる。

5. 2 反語の「どこが」文の構文レベルの議論

本節では、反語の「どこが」文を構文レベルで議論し、考察を行う。本節では、名詞述語文、形容詞述語文の文型を整理し、どのような性質の名詞や形容詞が現れるかを見る。

「どこが」文を文型で整理すると、形容詞述語文、名詞述語文、単独の「どこが」に大きく分かれる。動詞述語文がないわけではないが、「(N₁と) N₂とどこが違う」「どこが似てるんや」があるくらいである。これら「違う」「似てる」は動作を表す動詞というより、状態を表す意味論的に形容詞的な動詞である。

では、形容詞述語文⁹、名詞述語文の文型はどのようなものがあるか、以下に列挙する。

(34)形容詞述語文

(N の) どこが A か／だろう／のだ／というのだ／。

⁹ 本章では、用法に違いがないことから形容動詞は形容詞に含めている。(34)で「Aだ」となっているのはそのためである。

Nで/Vて、どこがAだ/だろう/。

(35)名詞述語文

どこがNだ

N₁のどこがN₂だ/なのだ

(36)「どこが」単独文

どこが！/どこがだよ！！/どこが？

(34)の形容詞述語文の形容詞Aに入る語は以下の通りである((37))。

ここでは、述語の特徴を見る。BCCWJでは異なり語数37語で、属性を表すものもあるが、話し手の評価を表すものもある。評価を下すというのは、つまり、話し手が物事に対して、ある価値判断を与えるということである。

(37)悪い、おかしい、怖い、つまらない、やらしい、不思議だ、すごい、えらい、ほのぼの、かわいい、面白い、いい、いけない、曖昧だ、愉快だ、微笑ましい、ポジティブだ、のどかだ、楽しい、ありがたい、失礼だ、いかがわしい、すてきだ、愛らしい、いけない、勝手だ、尊い、ささやかだ、美味しい、弱い、細かい、些細だ、かわいそうだ、平等だ、危ない、完璧だ、無事だ

(38)(39)(40)に形容詞述語文となる「どこが」文の例を挙げる。

(38)いちぶしじゅうをかいつまんで話すと、修験者の一件よりも一人息子に怪我させられたことを伊兵衛は怒って、「けしからん。このまま引っ込んではおられぬ。あやまらせてこよう」血相かえて出て行きかけた。「およしなさい父さん、いい若い者が年寄りに押されたぐらいでころぶなんて、まったく油断でした。こちらもわるいんですから、この上、ことを荒立てないでください」「お前のどこがわるい。取りなしの口をきいてやった親切に、ほんらいなら礼を言うのが当り前だ。よいか、頭は人の軀のうち、どこにも増して大事なところ…。神の宿る場所だぞ。血を出すほど総領の頭にきずを負わされながら、のめめ引っ込んでおってはこの伊兵衛、村方へ顔向けならぬ。しかるべく挨拶させねば腹が癒えぬわ」

(杉本苑子『姿見ずの橋』)

(39)のえるが別の国に向かうまでの付き合いだったが、別れ際に約束を一つしたんだそう。のえるは日本、シャイニィはアルカンタラ王国、それぞれの国をどちらが先に支配するかという勝負をしよう、と。ナレーションをするように、マイクを持つ仕草をしたのえるがつぶやく。「それは乙女の微笑ましい誓い…」 「どこが微笑ましいんだよ！！」 アルカンタラ王国には『獅子の戦い』と呼ばれる、独特の王位継承制度がある。資格を持った王子王女が獅子の御魂と呼ばれる神器を争奪し、王にふさわしい器量を持つ者を選ぶという風習なのだが、要するに国家スケールのバトルロイヤルである。それでシャイニィはのえるとの約束を守り、王位継承権第一位、つまり皇太女の座をゲットしたというわけだ。

(あすか正太『恋する国家権力』)

(40)資格を持った王子王女が獅子の御魂と呼ばれる神器を争奪し、王にふさわしい器量を持つ者を選ぶという風習なのだが、要するに国家スケールのバトルロイヤルである。それでシャイニィはのえるとの約束を守り、王位継承権第一位、つまり皇太女の座をゲットしたというわけだ。「あの時、シャイニィが元気なくしてたから。あたし、ポジティブになってほしくて」「人殺しをそそのかしといて、どこがポジティブなんだよ〜っ！」とまあ健太は怒鳴るのだが、のえるときたら柳に風、耳を右から左の、のれんに腕押しでまったく意に介さず、ひょうひょうとシャイニィに向き直ると、「ニュースで見たわよ。宮殿に乗り込んでの銃撃戦は凄かったわねえ」などと恐ろしい話をし始めた。

(あすか正太『恋する国家権力』)

例(38)は、「お前のどこがわるい」は、「わるい」という属性というより、話し手が「わるくない」という価値判断を下す文である。(39)「どこが微笑ましいんだよ！！」の「微笑ましい」は先行文脈の引用である。引用される形容詞は(39)(40)を見てもわかるように、形容詞、形容動詞の区別はない。「どこが」文の談話における引用・繰り返し用法については、5.4節で後述する。

次に、「どこが」文の述語になる名詞・名詞句は BCCWJ では次の 22 語で

ある。

- (41) 夢、寄生虫、名門校、＜偉大な人＞¹⁰、自分のため、純文学、ナンシー、別、夢判断、ゴールド、トレマーズ、エコロジー、病み上がり、大浴場、世界のトヨタ、囲い、セクハラ、エロトーク、タイ、ニセ物、脅威、裏切り

これらの名詞述語の特徴を見る。(41)であげた名詞・名詞句の概念から共通点を見出すとすれば、「どこが」文の述語になるとはいつても、「場所名詞とはかぎらない」ということである。これらは形容詞述語と同様に、引用・繰り返し用法としても用いられるが、詳しくは5. 4節に後述する。(42)は繰り返し用法である。

ところで、(41)には、場所名詞はないが、あえて言えば「タイ」「大浴場」などが挙げられる。しかし、場所名詞といつても、反語の「どこが」文の述語に用いられると、「場所聞き」にはならない。(43)は「どこがタイ？」であるが、タイという場所を探しているわけではない。タイ料理という名ばかりの料理に失望し、「どこがタイの性質をもっているだろうか、もっていないではないか」、という話し手の発話意図がある。

- (42) 山田　なんか、いろんな変な人が、ファンの人がおってね、金井美恵子さんとか、一物ありげな人が、中島らもさんとか。

関川夏央さんも。

山田　そうでしょう、おそらく。こんど、芥川賞とった人、奥泉とか、光とか、山田風太郎の忍法小説、純文芸だと、書いてあったよ、ふっふっふっふっ。どこが純文芸なのかって、ふっふっ(笑)。

田村　充分、芸だって(笑)。

山田　芸は芸だけど(笑) …。

(山田風太郎/森まゆみ/田村治芳/高橋徹『風々院風々風々居士』)

- (43) 豚めしが一番並んでたかなあ。。ただレイソルのテニスコートのようにテーブルや椅子とか一切置いてないのよ！！(怒) あたしゃタイ料

¹⁰ < >の記号は、文字言語コーパスを用いているためこのようになっているが、実際、< >ごと引用されている。

理のおつまみセットとプーケットラガービールを注文したんだけど
そんなだから灰皿のフチ（！）に置いて食べましたよ。。※奥は友人
が注文したタイラーメン。プーケットラガービールはちょっと甘いラ
ガービールって感じ。おつまみはフツー。エビの春巻揚げ（？）のソ
ース以外はどこがタイ？って感じ（爆）さっさと食べ終え味スタ脇の
カフェ（？）を通ると謎のブロンズ像がw w w意外に巨乳？（爆）
(Yahoo!ブログ)

以上、形容詞述語、名詞述語の反語文の「どこが」文の構文について考察した。
形容詞述語となる形容詞は属性、評価を下す性質を持つものである。名詞述語
となる名詞は、「どこが」文であっても反語文の場合は場所名詞は必ずしも現
れない。引用、繰り返し用法が散見されるため、更に詳しく考察するには、談
話レベルでの議論が必要である。これは5. 4節で述べる。

5. 3 反語の「どこが」文の意味レベルの議論

5. 3. 1 「動作・行為、事柄に対する評価」を表す場合

本節では、5. 2節で示した文型「Nで/Vて、どこがAのだ/のか/だ
ろう/。」について意味レベルで議論を行う。意味レベルの議論というのは、
当該文が文単位でどのような意味を発揮するかということを議論することを
言う。その中で、「動作・行為・事柄に対する評価」を表す反語の「どこが」
文がある。

次のような例がある。

(44)時刻をみはからって、東吾はるいと一緒に日本橋小網町に住んでいる
地主の徳兵衛の家へ出かけた。小網町は、八丁堀の組屋敷とは日本橋
川をはさんで、目と鼻の先で、るいは「大丈夫でしょうか。もし、ど
なたかにみられたら…」東吾と並んで歩くことすら、気がかりな様子
だったが「なにをいってやがる。夫婦が連れ立って歩いて、どこがお
かしい。第一、今日は御用の筋だぜ」それでも八丁堀の側は遠慮して、
湊橋を渡り、川沿いに小網町へ向った。

(平岩弓枝『一両二分の女』)

(45)資格を持った王子王女が獅子の御魂と呼ばれる神器を争奪し、王にふ

さわしい器量を持つ者を選ぶという風習なのだが、要するに国家スケールのバトルロワイヤルである。それでシャイニィはのえるとの約束を守り、王位継承権第一位、つまり皇太女の座をゲットしたというわけだ。「あの時、シャイニィが元気なくしてたから。あたし、ポジティブになってほしくて」「人殺しをそそのかしといて、どこがポジティブなんだよ〜っ!」とまあ健太は怒鳴るのだが、のえるときたら柳に風、耳を右から左の、のれんに腕押しでまったく意に介さず、ひょうひょうとシャイニィに向き直ると、「ニュースで見たわよ。宮殿に乗り込んでの銃撃戦は凄かったわねえ」などと恐ろしい話をし始めた。

((40)再掲)

- (46)D でも、受賞作はプロットもすごく脆弱だったよ。
- B 確かにねえ。人間が描けてないし、とくにヒロインのキャラクターが浅いしね。オレがけなしてちゃいけないか。
- A わたしがいちばん嫌なのは、これ、推理小説というより情報小説みたいでしょう。
- B その情報部分が面白いんじゃないですか。情報小説でどこがいけないんだ、え?
- A 乱歩賞は推理小説の賞だからですよ。
- B …。なんか、反論できないな (笑)。

(実著者不明『このミステリーがすごい!傑作選』)

これらの文は、(44)「夫婦が連れ立って歩くコト」、(45)「人殺しをそそのかすコト」、(46)「情報小説であるコト」という命題について、「おかしくない」「ポジティブではない」「いけないということはない」という評価を話し手が下す。反語文の疑問語「どこ」は内容が明確化できない空欄であるが、その空欄は場所性を持つため、「示された命題でおかしいところがあるか、どこもない」といった場所や部分を取り出して、否定する表現機能がある。

評価される対象はコトであるが、実際にはテ形で表されている。テ形の従属節に「どこが」文の主節が接続し、評価が加えられるのである。この場合のテ形従属節は、主節との関係から、「評価関係にあるテ形」と考えられる。当然ながら、テ形が評価関係を表すのではなく、テ形の前件と後件が評価される側

(コト) と評価する側 (反語) の関係になっているのである。

5. 3. 2 「呆れ・とまどい」を表す場合

次に「どこが N (なの) だ」の文型でどのような意味が生ずるかということを考える。この文型は「呆れ・とまどい」といった感情を表すことができる。

(47) 僕が言いたいのは今までトヨタが、どれだけ儲けたかということだと思う。今まで儲けた分は、世間に還元せず赤字になったら、多くの人の首を切る！！いったい、どこが世界のトヨタだ。呆れかえる。

(Yahoo! ブログ)

(48) 小宮 あっ、そうだ、これ聞こうと思っていたんですけど、なんで「ナンシー」なんですか？

ナンシー 仕事を始めた時、まだ学生だったから、こんな消しゴムを彫って食べていけるとは思わなかったわけですよ。だからふざけてつけたんです。ほらビジュアル系の人ってこういう名前多いですね。「どこがナンシーだ!」って言われるのも、ひとついいかなと思って。

小宮 ペーター佐藤とかいましたもんね。

(ナンシー関/佐藤友紀/小宮悦子『無差別級』)

「どこが N だ」の N に入る名詞・名詞句は、(47)「世界のトヨタ」(48)「ナンシー」となっている。(48)の「ナンシー」は日本人の自分のつけた外国人風の名前 (ペンネーム) である。(47)のような場合、「世界のトヨタ」は話し手 (ここではトヨタと聞いた時の聞き手) の期待感の現れではないかと思われる。実際、「どこが N だ」というとき、N に入る名詞は、話し手や世間一般から見るとどちらかというところ、本物と確信をもたれているもの、名前の知れたもの、価値が高いとみなされたものが入る。換言すれば、談話内においてこれらの属性を持つと認められている内容の語句が名詞 N に入るのである。したがって、実際には世間で価値が低いと思われるものでも、「どこが N だ」の N に話し手によって代入されれば、それは、話し手から見ればそれなりの期待感を持つべきものとなる。

(47)の「どこが世界のトヨタだ」というのは、「トヨタが世界的水準をもつ

という期待感」が裏切られ、呆れる話し手の心情を表すと解される。例えば、次のような例も考えられる。

(49) どこが日本の伝統だ。日本人横綱、全然いないじゃないか。

(49)も、日本の伝統と言われているのに、その期待が裏切られ、やはり呆れたという感情が出現する例である。

(48)は先行文脈にあるように、「ナンシー」という名を「ふざけてつけた」と話し手は述べている。日本人なのに、なぜ外国人の名前がついているのか、という裏切りであるが、「日本人だったら、花子や良子など日本風の名前が付けられているはず」という期待を相手に持たせ、それをかわして外国人の名前「ナンシー」と名乗る。見た目と名前が全く違うというギャップを面白おかしく利用しており、(47)の裏切りによる失望感とは逆の、裏切りによる笑いが期待される。

「どこが世界のトヨタだ」「どこがナンシーだ」という同じ文型でありながら、対極的な意味を表すようであるが、両者に共通して言えるのは次のことである。「どこがNだ」のNは属性を持つものであり、Nに対して話し手がプラスの期待感を持ったり、逆にマイナスの期待感を持ったりする場合もある。両面の期待感を裏切られられたと感じた際に、呆れの感情を生じさせたり、とまどわせたりする意味が発揮される

以上「どこがNだ」の文型について述べたが、「N₁のどこがN₂だ」とは解釈が異なることを最後に付け加えておく。

(50) そしてソファに倒れると、呻き声を漏らし始めた。 康子が苦しむ姿を、拓也はワインを飲みながら見つめていた。不思議に何の恐ろしさもなかった。すべて計算通りなのだ。 二、三分で彼女の動きは止まった。それを確認してからゆっくりと拓也は立ち上がった。手にワイングラスを持ったままだ。彼は康子の身体を足の先で揺すってみた。しかし反応はない。 「俺のどこが寄生虫だ、おまえと一緒にするなよ」 拓也は康子の頭を蹴った。「何が太陽がいっぱいだ。おまえなんか太陽が当たるわけないだろ。うぬぼれるなよ」 康子の留守中に毒を仕掛けておこうと決めたまではよかったが、青酸カリを仕込む

場所には、拓也は頭を悩ませられた。殆どそのことばかり考えていたといってもよかった。

(東野圭吾『ブルータスの心臓』)

話し手は「俺≠寄生虫」であることを述べたいわけで、そこには上述の「どこが N だ」で感じられた期待感の裏切りから生じる呆れ・失望感・とまどいなどの表出はない。仮に「N₁のどこが N₂だ」の N₂に世間で高評価を得ている言葉を入れてみる。

(51) うちの主人のどこがイクメンですか？

やはり「主人≠イクメン」という解釈が成り立つ。「N₁のどこが N₂だ」は「N₁≠N₂」でしかも、多少不快感や怒り、あるいは、とんでもない、といった話し手の感情が読み取れる。

これは、相手から N₁に対して N₂というレッテルを貼られた話し手が、そうではないという含意をもつ否定的主張を行っているからである。その結果、相手に対する不満などが表現されるのである。「どこが N だ」は、世間や相手が主張している価値のある内容 N に対して、話し手は期待感を持たされ、あるときは裏切られ失望する。そして、あるときは裏切られ、あるときはとまどいに転じるという表現効果がある。しかし、「N₁のどこが N₂だ」という形になると、不快感を帯びた「N₁≠N₂」を表すということがわかった。

以上、反語の「どこが」文の意味レベルの議論を行った。

5. 4 反語の「どこが」文の談話レベルの議論

本節では、談話内における反語の「どこが」文の用法について考察する。本章でいう「談話」とは、複数の文章の集合のことを指す。つまり、本章では、まとまったひとまとまりの文章の中で、反語の「どこが」文がどのような表現効果を見せるかということを検討する。

本節では、反語の「どこが」文が談話内で「引用」「言い換え」「連想」の表現効果を発揮することを述べる。まず、「引用」について述べ、続いて「言い換え」「連想」について述べる。

上述したように、「どこが」文は談話において、先行文脈の語句を引用する

場合があるが、それに付け加えて、他の語に言い換えたり、関連する概念を連想させたりし、そういうことはどこもないという含意によって否定的主張を行うことがある。そのような用法に着目し、談話において「どこが」文がどのような表現効果を生み出すのかを考える。

まず、引用について述べる。

例えば、次の(52)のような例がある。「N₁のどこが A/N₂だ」の N₂は先行文脈の一部（波線部）を引用している。

(52)そこで彼女はさらにつづけた。「わたしがいいたいのは、〈猟犬クラブ〉の会合で起きたことに、会見の一人が深い怒りから脅威を感じてたんじゃないかってことです」ようやくダイヤモンドから反応があった。役には立たなかったが。「マイロの本から切手が出てきたことか」うつろな口調でいった。「そのどこが脅威なんだ」ジュリーは頬をかすかにピンクに染めた。ダイヤモンドの不機嫌に対する反応ではなく、ある推理が一説得力のある推理が一頭のなかで形をなしつつあったからだ。

(ピーター・ラヴゼイ/山本やよい(訳)『猟犬クラブ』)

(52)では、先行文脈の話し手（相手）が「脅威」と述べていることを引用して、下線部の話し手が「そのどこが脅威なんだ」と「頬をかすかにピンクに染めて感情的になっている様子が描写されている。

前節で、「N₁のどこが N₂だ」という文型の場合、「N₁ ≠ N₂」という構図ができ、話し手の不快感や怒りなどが表現されると述べた。「その」は正確には名詞ではないが、「そのの」と置き換えて考えると、「それ ≠ 脅威」という関係ができる。そして、話し手が感情的になっていることから、前節で述べたことは妥当であるということがわかる。

ところで、「引用」とは、藤田（2000：15）によると、「所与と見なされるコトバを再現しようとする形で示すもの」とされ、「もっと常識的には『他からコトバを引いてくる表現』といった形でイメージされるもの」と述べられている。

本論文では、先の(52)のように、聞き手が述べた言葉を話し手が「どこが A/Nだ」の A/Nの部分に引くことを「引用」とし、「どこが」文は、その引

用された言葉について意味的に否定的判断を下すことを反語的機能とする。

「繰り返し」と考えることもできるが、「引用」と「繰り返し」との相違は、「引用」が「聞き手（相手）」の言葉を引くのであり、「繰り返し」は話し手が自らの発話をもう一度引いて「どこが」文を用いて述べなおす点にある。

他にも「引用」の用例を挙げる。(53)は、「どこが A/N だ」の例である。

(53)北海道ほどの広さの島に約三百万人が住んでいる。熱帯地域に属してはいるが、北から流れ込んでくる寒流のおかげで年中過ごしやすい。主な産業は、観光および石油などの資源採掘。特にポスト石油エネルギーの筆頭とも言われる天然ガスの埋蔵量は世界一と言われており、その産出で潤った財政により税金は存在しない。国民はのどかで穏やかな暮らしを楽しんでいる。また、世界征服をうたった戦争憲法でも有名である。「どこがのどかなんだよ〜っ！」ただし宗教上の理由で、鉄の船を持ってないため、ここ百年ほど、実際に起こった戦争はない。

(あすか正太『恋する国家権力』)

(53)は、物語の中で、話し手がある国の紹介をガイドブックで立ち読みしており、そこに「のどかで穏やかな暮らしを楽しんでいる」という記述とともに、「世界征服をうたった戦争憲法でも有名」と書いてあったため、「どこがのどかなんだよ〜っ」と発している場面である。ここでは先行文脈の波線部「のどか」が引用されている。

前節で、「どこが A/N だ」の文型の場合、話し手に期待感を持たせ、その期待を裏切ることによって、失望やとまどいなどの感情に結び付くと述べた。

では、(53)の例の場合、どう考えるか。先行文脈の「のどか」の箇所を読んで話し手は文字通り穏やかな気分になり、その国のあり方に期待をもつ。しかし続く「世界征服をうたった戦争憲法でも有名」の箇所を見て期待は裏切られる。「どこがのどかなんだよ〜っ」には、その裏切られた失望感と、一方でその国の矛盾に苦笑したくなる気持ちが込められていると解釈できる。

まとめると、談話内での「N₁のどこが A/N₂だ」「どこが A/N だ」の文型で先行文脈を「引用」しており、「N₁のどこが A/N₂だ」の「N₁≠N₂」は話し手の不快感を表す。また、話し手が期待を裏切られて失望していることを「どこが A/N だ」で表現しているのである。

次に、談話内における「言い換え」「連想」の用法について考察する。

ここでいう「言い換え」は談話に出現する同じ意味の言葉を他の言葉で置き換えることを言い、一方、「連想」というのは談話内で相手の述べた言葉を鸚鵡返しするのではなく、その言葉と強い関連のある他の言葉を用いて述べなおすことをいう。

まず、「言い換え」の例を挙げる。

(54)ある日、山の宿のあるじに電話がかかってきた。「今、近くできのこ採ってたんですけど、マツタケそっくりで。ただ白いんですよ、食べて大丈夫でしょうか?」宿のあるじは電話の鑑定には応じない。それは無理なことだからだ。マツタケそっくりで白っぽいきのこ、何だろう?思いつかない。とにかく見せにくるように言った。やがて持ってこられたのはドクツルタケだった!「どこがマツタケに似てるんや?!」あるじはどっと冷や汗をかいた。これほど無知な人がきのこ採りをしているのだ—。

(小林路子『なにがなんでも!きのこが好き』)

(55)その後、軽く昼寝をしようと思って目を閉じたら、今朝の五時までぐっすり熟睡してしまったこの俺に、まともな社会生活なんて不可能だ。今日見た夢をフロイト的に分析してみようとしたものの、「高校時代の先輩と、狭い部屋で不純異性交遊にふけた」という夢の内容は、「高校時代の先輩と、狭い部屋で不純異性交遊にふけりたかったという無意識を表している」という、そのどこが夢判断だ、そのまんまじゃないかという結果に終わってしまったこの俺に、まともな社会生活なんて不可能だ。

(滝本竜彦『NHKによろこそ!』)

(54)の「どこがマツタケに似てるんや」の「マツタケに似てる」は先行文脈で相手が述べた「マツタケそっくり」を言い換えたものである。また、(55)の「どこが夢判断だ」の「夢判断」は波線部「夢をフロイト的に分析」を言い換えた表現である。相手の発話、自分の心内発話の中の言葉を、再度話し手自身の言葉に置き換える。談話内で先行文脈の表現を引くことは「引用」と同じだが、自分の言葉で言い換えている点異なる。

では、反語の「どこが」文に「言い換え」が用いられると、どのような表現効果が見出されるだろうか。「マツタケそっくり」が談話の中で「どこがマツタケに似てるんや」と言い換えられるが、マツタケにそっくりだと言われた話し手が、「何だろう？」と怪訝に思い、持ってこられるマツタケを心待ちにしている。したがって、この段階においては、話し手は何かしらの期待を抱いているとも解釈できる。「どこがマツタケに似てるんや」は、そのきのこがマツタケに全く似ていないものであったことが明らかになり、話し手の期待が裏切られた発話である。ただし、相手の「マツタケそっくり」を「マツタケに似てる」と言い換えているところに、談話の中に話し手の主観的解釈の介入があるということが言える。

「そのどこが夢判断だ」は、「それ≠夢判断」ということが話し手の伝えたい内容であり、且つ「夢判断」は話し手の自らの表現であり、上述と同様に談話の中への話し手の主観的解釈の介入がある。そして、「それ」は「夢判断」ではない、という否定的主張と同時に話し手の不快感、違和感を表現するのである。

つまり、「言い換え」は談話の先行文脈の表現を話し手が自分の言葉に言い換えて引き、「どこが」文に組み込むことで、期待の裏切り、失望、不快感などを表す用法である。また、話し手が自分の言葉に言い換えることによって、話し手の主観的解釈が介入される。

次に「連想」の例を挙げる。

(56)まるでそこにかま猫がいないようなそぶりで、席につくと仕事をはじめたのです。かま猫はかなしくなって、とうとうしくしくと泣きだしてしまいました。そのときです。ドアがらんぼうにあいて、山猫が事務所のなかにかげこんできました。「おまえらそれでも役人か！そんなこずるくなるために、歴史や地理を習ったのか！みんなのお役にたつのが役人だろう。弱い者いじめして、どこがえらいんだっ！」と山猫はさげんだのです。ところが、事務長は「あわわ…」と目を見ひらいて、かま猫のほうを見えています。山猫もかま猫を見て、あっとおどろきました。みんなの目の前で、かま猫のからだをめらめらと青白いほのおにつつまれました。いかりとかなしみのほのおです。

(鈴木俊介『賢治のトランク』)

(57)「違う」粕谷が真剣な顔で言った。粕谷の真剣な顔を見たのは初めてかもしれない。「お前なら、絶対に採用されるよ」「冗談言わないで」と、言いながら、粕谷は、写真の腕はさほどではないが、モデルを発掘する腕は業界でも認められていることを思い出した。粕谷が見つめてきたモデルは、ほとんどが、その後第一線で活躍している。「私のどこがすごいよ。私は、何も変わってないわ」ついこの間、あなたと南の海で漁船に乗っていたときからと言いたかったが、それを言うと、怒りがぶり返してくるので言わなかった。

(鎌田敏夫『Body & money』)

(56)の実線部「どこがえらいんだっ」の中の「えらい」は談話の先行文脈で述べられている波線部「役人」から連想された表現である。一般的な連想として「役人」から「えらい」というように結び付くと考えてよいであろう。

(57)は、「私のどこがすごいよ」の「すごい」は、モデルを発掘する腕が業界でも認められている男に「お前なら、絶対に採用されるよ」と言われたことから連想され、結び付けられている。「モデルに採用されること」、それが「すごい」のである。

「連想」用法も、「どこがえらいんだ」「私のどこがすごいよ」なので、「どこが A」「N のどこが A のだ」の構文であるが、「連想」されて談話内で全く他の言葉に言い換えられていることから、話し手の価値観が表現されていると言える。そうすると、上述の二つの反語の「どこが」文の文型については次のように考えられよう。「どこがえらいんだ」は、役人というものに対して、庶民の下僕でもなく、生活が安定しているのでもなく、高給取りでもなく、話し手は「えらい」ものだと考えていた。その期待を裏切られて怒りを覚えているのである。どのように期待するかは、話し手の主観による選択による。「どこもえらくない」という含意のもとに否定されているのである。「私のどこがすごいよ」も同様であり、「すごい」と考えるのは話し手の価値観であり、選択である。それについて、「私≠すごい」となり、話し手は怒りを覚えているのである。

以上述べた談話内の「引用」「言い換え」「連想」の用法は、いずれも「どこが A/N だ」「N₁のどこが A/N₂だ」という文型がもととなっており、期待の裏切り、同じではない、結び付かないという解釈の仕方は基本的に同じであ

る。しかし、反語の「どこが」文の含意は、談話の先行文脈の内容をそのまま否定するか、話し手の主観を介入させて否定するか、あるいは話し手の価値観で否定的に述べるかがかわってくると言える。

5. 5 反語の「どこが」文の語用レベルの議論

5. 5節では反語の「どこが」文を語用レベルで議論する。本節では、反語の「どこが」文が、言語的文脈および非言語的文脈において、話し手によってどのように発話されるかを考察する。

本節では、「どこが」文を語用レベルで議論し、そのふるまい方を考察する。

前節までは、話し手が「どこが」文によって「引用」「言い換え」「連想」したり、先行文脈に評価を下したりする場合について述べた。

本節では、話し手が発した「どこが」文を、聞き手が既に有している知識によってどのように反語解釈するかということについて述べる。

「どこが」文の中には、「どこが」だけで一文をなし、その文の反語解釈が聞き手の知識によってなされるものがある。次のような例の場合である。

(58)A : オレンジレンジのジャンルって何なんでしょう？ラップ？ではないし。どうですか？

B : 本人いわくラップらしい・・・・・・・・どこが？

(Yahoo!知恵袋)

(59)A : マーティン・ローレンスとトニー・ブレア首相、どっか似てませんか？

B : どこが！

(Yahoo!知恵袋)

(58)は、Aがオレンジレンジという音楽グループのジャンルは何かと話題にあげ、それに対する回答としてBが「本人いわくラップらしい」と述べ、続けて「どこが？」と発している。Bの「本人いわく…らしい」という揶揄的な表現によって、「オレンジレンジ」は「ラップではないのではないか」という推測がなされる。「どこが？」はBがオレンジレンジの音楽をよく知っていて、本人たちがラップだと主張していることについて、信じがたいという思いの表れである。そのため、「オレンジレンジの音楽のどこがラップなのだろう。ど

こもラップではない」という内容を「どこが？」という意外性を込めた一言で言い表しているのである。Bは今更オレンジレンジについて知りたいわけではない。既に彼らについての知識を有していることから反語の「どこが」文を発することができる。

(59)も同様である。「マーティン・ローレンス」という俳優と「トニー・ブレア首相」がどっか似ているというAの発話に対して、Bが「どこが！」と発する。Bは当該人物2名の背格好、容姿、雰囲気などを知っており、そこから、「その二人のどこが似ているのか。どこも似ていない」と意外性を込めた含意で「どこが」を述べている。聞き手Bが既に有している知識によって、Bの発話が反語表現であると、A、B二人の対話を聞いた聞き手は理解する。

音声言語であれば、Bが上昇イントネーションで発話された場合、Bに知識はなく、情報を集めようとする疑問文であると解釈されるが、Bが下降イントネーションで発話されると、Bに知識があり、Aに反語で反論していると解釈することができる。(59)は実際は文字言語であるので、「どこが！」からしか判断できないが、「！」があることによって、疑問文の可能性が低いことがわかる。

このように、聞き手（読み手）が有している知識によって、「どこが」が反語解釈される場合がある。これは「誰が」文、「どこが」文ともに言えることで、物事のどの属性に焦点を当てるかによって、どの疑問語の反語文にするかが異なってくる。

5. 6 反語の「どこが」文のまとめ

以上、反語の「どこが」文について、疑問文との区別、構文レベル、意味レベル、談話レベル、語用レベルにおいて考察を行った。「どこ」という疑問語は、場所性を有する不定詞つまり空欄であり、そこを積極的に明確化しようとし且つ明確化できる場合が疑問文、明確化しようとしても明確化できない場合が反語文と区別した。また「どこが A/N だ」は期待を裏切られ、失望したり、とまどいに変えたりする文意があり、「N₁のどこが N₂だ」は「N₁ ≠ N₂」ということを伝えるとともに、不快感などを表すことができることも述べた。この二つの文型の原則によって意味レベルにおいても談話レベルにおいても反語文の含意を説明可能にしたのであった。語用レベルでは、聞き手（読み手）の知識によって「どこが」文が意外性を有して反語解釈がなされることが可能

になるということを示した。

6 「何が」文

6.1 「何が」文における反語文と疑問文の区別

「何が」文の「何」も「誰」「どこ」と同様、実質をもたない疑問語である。「何」の場合は、「物体」「事柄」といった性質を持つ空欄であるが、実質的な内容は不明、不定である。空欄の内容に話し手が積極的に物体・事柄性のある情報を入れようとし、聞き手が明確化できる可能性のある「何が」文が疑問文、空欄の事柄性を明確化できない「何が」文が反語文ということになる。また、疑問文の場合は上昇イントネーションで発話され、反語文の場合は下降イントネーションで発話される傾向がある。

以下に例を挙げて観察する。

(60)とはいえ、それと同時にわたしは、なぜ神が、彼自身では果たしかねるある種の任務をさせるために、彼が使とよぶところの天使を必要とするかも理解した。「そん中に何が入ってるんだい?」「何って、何さ、コカインさ」わたしは麻薬の密輸をしたわけだったのだ。わたしは、スティリターノが自分のかかわりにわたしを現行犯として捕まる危険に曝したことについて、彼に少しも蔑みを感じなかった。わたしは思った、「これはしごく当然な成行きだ。彼奴は卑劣漢なんだし、このおれはぼんつくなんだから」

(ジャン・ジュネ/朝吹三吉(訳)「世界の文学」)

(60)の「そん中に何が入ってるんだい?」を発した話し手は、「何」に物体の名称を入れようとしており、その答えとして聞き手の「コカイン」が入る。物体という性質の空欄を埋めることができたわけである。したがって、(60)の「何が」文は疑問文ということになる。本論文の第2章でも述べたが、疑問文は話し手側の情報が欠けており、したがって話し手は欠けている情報を埋めようと聞き手に期待するのである。換言すれば、欠けている情報がいわゆる「空欄」であり、聞き手によって空欄が埋められようとするれば、疑問文ということになる。

(61)「よーし、コーヒーいれるの手伝って！」あたしは、隣にいたトンボに言う。キッチンで、4人ぶんの熱いコーヒーをいれてたら。「キャーッ！ どーしよーッ」すんごいさげび声。あたしとトンボが駆けつけると。優太とテンコが。1枚のカードを持ったまま。ガクゼン…と突っ立ってる。「何が書いてあんの？ねえトンボ、読んで」あたしたちが全員、イスに座ると。コホンとセキばらいをして。トンボは、大声でカードを読みはじめた。

(くれこゆう『恋のおクスリ「ふたりぶん」』)

(61)の「何が書いてあんの」の「何」は「事柄」という性質をもつ空欄であるが、話し手がその空欄を積極的に埋めようとし、実際に「トンボ」という登場人物が、カードに書いてある事柄を読みはじめているため、空欄は埋められると考えられる。したがって、(61)も疑問文であると解釈できる。

しかし、次の例は疑問文とは異なる。

(62)早う家へ帰って、カミさんの顔見て、何が楽しい？—あるビジネスマン 人気企業ベストテンにはいる企業の支店長である某氏はウイークデーは家で夕食をとらない習慣らしい。実際には仕事は午後八時ごろには終わっているが、ストレートに家に帰らない。「あなたは不在亭主なのですね」「そうですよ。十一時より早く帰ったことがないんですワ」とか。彼にはアフター・エイトの男の楽しみが待っているらしく、ぐるーっとそこらを一回りしてから帰る。

(木下明美『女の言葉が男を変える』)

(63)「口を割らなきゃ、レポート書いてくれない気なの？」「そこまで言っていないよ」リサはこの日あったことを話した。三浦半島までのツーリング、彼の実家を見て、彼の母親に会ったこと、浜辺のプロポーズ。そして問題の結婚生活。「最高！」紗織は、いきなりリサの両手を握りしめた。「何がすごいよ…」リサは恨めしげに紗織を見上げた。「電気も水道もろくにない村よ」「そりゃバングラデシュに次ぐ、世界の最貧国だもんね」「カトマンズからオフロードバイクで六時間だつて。かまどでご飯たくのよ。掃除機も洗濯機もないのよ」「うん、家事万能のリサじゃなきゃ、できないよね」「冗談じゃないわ。美容

院もないし、ヴェルサーチのスーツも着ていくところがない」

(篠田節子『女たちのジハード』)

(62)は、「早う家へ帰って、カミさんの顔見て、何が楽しい？」という「何が」文の「何」という事柄性をもつ空欄を話し手は聞き手に明確化を期待していない。「何」は「何」という空欄のまま、「楽しいことは何もない」と述べたいのだと解釈できる。この場合、反語文と考えられる。また、(63)の「何がすごいだよ…」の「何」も、「何」の不定性を明確化しようとしても明確化できない。そのことから、「何もすごいことはない」という全量否定の主張が成り立つ、反語文であると解される。

このように、「何が」文の「何」に物体や事柄を積極的に明確化しようとし、且つ明確化が期待できる場合には疑問文、明確化できない場合には反語文という解釈ができる。

6. 2 反語の「何が」文の構文レベルの議論

6. 2 節および6. 3 節では、他の疑問詞疑問文形式の反語にはなく、「何が」文の定型とされる構文をとりあげ、その構造と表現効果について考察する。6. 2 節では、(64)の構文を扱う。この構文は動作主体の能力否定を表す。本節では、能力主体をニ格表示することによって反語解釈される原因について述べる。

(64) 「<ヒト名詞>に 何が できる／わかる」

BCCWJにおける反語の「何が」文の動詞述語文全 35 例のうち、30 例の動詞が「できる」あるいは「わかる」であった。「ヒト名詞に」つまりニ格成分で表される能力主体は、言表される場合とされない場合がある。(65)(66)はそれぞれ「コリンに」「あんな藪医者に」という能力主体が明示される。述語動詞はそれぞれ「できる」「わかる」である。

(65) 「『ポスト』に出ていたコリンの紹介記事、見た？」電話のジョー・リンの声は低くて、いまにも泣きだしそうだった。つぎのクライアントまでの空き時間に、昼休みになった裁判所からかけてきたのだ。「ま

ちがってることばかり。ほんとよ。報道される半分は不正確なんだから。しかも、それで通ると思っているんだから、頭にくるわよ。たしかにそれで通っちゃうんだもの。だって、コリンに何が出来る？新聞を訴えるの？」わたしは何も言わなかった。返事を期待されていないのはわかっていた。

(ジョイ・フィールディング/吉田 利子(訳)『私のかげらを、見つけて』)

(66)常子はやむを得ず荷造りに使う細引を一束夫へ渡した。すると彼はその細引に長靴の両脚を縛りはじめた。彼女の心に発狂と言う恐怖のきざしたのはこの時である。常子は夫を見つめたまま、震える声に山井博士の来診を請うことを勧め出した。しかし彼は熱心に細引を脚へからげながら、どうしてもその勧めに従わない。「あんな藪医者に何がわかる？あいつは泥棒だ！大詐欺師だ！それよりもお前、ここへ来て俺の体を抑えていてくれ」彼等は互に抱き合ったなり、じっと長椅子に坐っていた。

(芥川龍之介『夢の跡』)

(67)は、能力主体「ヒト名詞に」が言表されていないが、それは話し手と聞き手との間で文脈から自明であるからである。(68)は、一人称が能力主体になり、自らの能力を問う数少ない例である。

(67)相馬は何も知らない。だが、齋木が知らないとは限らない。設楽の話
を聞いたときの齋木の反応が見たくなった。「詳しく話が聞きたい。
部屋まで来てくれないか？」 「それきり僕が行方不明になるという
ようなことはないでしょうね」 「くだらんことは言わなくてくれ」
「僕は真剣ですよ」 「こんな旅館で何が出来る？ 話をする気があ
るのかないのか」 「いいでしょう。だが、こちらの手の内はすべて
明かすわけにはいきませんよ。そして、そちらからも情報が欲しい」
相馬は無言で部屋に向かった。 齋木は、まったく表情を変えずに設
楽の話の話を聞いていた。

(今野敏『レッド』)

(68)「あの野郎どもは根性が捩じ曲がとる。護法隊とかいう屑どもに襲

われたくらいでは、捲き込まれたなどとは思いません。しかしだ、いったい、どうするつもりなのかね？」 「わが国は法治国家だ」 「そう。そして、あんたは、警察の親玉である長官だ」 「まるで他人事だな…」 長官は嘆いてみせた。「警視総監のおれに、何が出来る？」 警察庁長官には政治家としての側面もあると、総監はそういいたかった。 兵衛がどうにかして伊能、中郷を引き出すとする。その際に伊能、中郷をどう遇するかであった。もとの警視正で復職させるわけにはいかない。対テロ要員の臨時雇いなどというのはない。外人部隊ではないから傭兵などというものもない。

(西村寿行『鷲』)

「出来る」「わかる」を述語にもつ文の場合、平叙文、疑問文においては能力主体は「は」でとりたてられる。反語文においては能力主体は二格助詞で表される。次の(69)～(74)を参照されたい。(73)(74)は、能力主体を題目化した文であり、文法的で且つ疑問解釈がなされる。

(69)あの人はテニスができます。

(70)ジェームズさんは日本語がわかりません。

(71)*あの人にテニスができます。

(72)*ジェームズさんに日本語がわかりません。

(73)あの人はテニスができますか。

(74)ジェームズさんは日本語がわかりますか。

(75)(76)も主体にその能力が備わっているかを問う疑問表現と考えられるが、一方で反語解釈も可能である。疑問表現と反語表現の中間的存在であると考えられる。(75)と(76)を正確に解釈するには、文脈やイントネーションなどが必要とされてくる。この場合、反語文と解釈するには、下降イントネーションであることが必要である。

(75)あの人にテニスができますか。

(76)ジェームズさんに日本語がわかりますか。

この点について、「何が」文に当てはめて考えてみる。

(77)コリンは何ができる？

(78)??あんな藪医者は何がわかる？

(79)コリンに何ができる？

(80)あんな藪医者に何がわかる？

(79)(80)は、反語解釈可能である。(77)(78)は、能力主体をとりたて助詞「は」で題目化したものである。(77)の「できる」の場合は疑問表現として成り立つ。しかし(78)は不自然な文となるが、次の例文では、可能である。

(81)あの藪医者は何ができる？

(82)あなたは何がわかる？

(81)は「あんな藪医者」を「あの藪医者」と言い換えることで、人物を特定している。(82)も「あなた」ということで、目の前の人物に特化している。そして、(81)も(82)も「対比」の意味が生じる疑問文である。(79)(80)の反語文は「は」でとりたてていないため、対比性はない。

このことから、以下のようなことが言える。

対比「あなたは何がわかる？」については、次のように考えることができる。例えば「Aさんは desk の意味がわかる」「Bさんは apple の意味がわかる」…と並べられ、「あなた」「Aさん」「Bさん」…が対比される。「何がわかる？」であるから、「desk」「apple」「何？」…として、「何が」文の「何」には明確な事柄が入ることになる。それが6.1節冒頭に述べた疑問文の成立する条件である。

一方、二格助詞で主体が示された場合、つまり「コリンに何ができる？」「あんな藪医者に何がわかる？」であれば、「コリンに」「あんな藪医者に」によって能力主体は明示される。しかし、「コリンに」「あんな藪医者に」には対比性はないため、「何ができる？」「何がわかる？」も不定性は依然として明確化されないままである。明確化しようとしても、明確化する手段がない。そのため、二格主語で能力主体を示した疑問形式文は、反語解釈されるのである。

以上、「(ヒト名詞)に 何が できる／わかる」という文型をとりあげ、能

力主体を二格表示することによって反語解釈がなされる原因について考察を行った。

6. 3 反語の「何が」文の意味レベルの議論

本節では、次の文型の用法について考察する。

(83) 「何が N だ」

6. 4. 1 でも同じ文型を談話レベルで議論するが、ここでは、意味論観点から(83)の構文を見る。「何が N だ」の構文は BCCWJ の反語文全体で異なり語数で 102 語あった。N に入る語句は、以下の通りである。

(84) 革命、やれやれ、けえ、大統領、騙し、マスコミ、旅、剣道、ねえ、GW、学校、投手、医者、文革、女性の日、五輪、東大、どうだろう、男運、勿体ない、夜遅い、祝い、卑怯、相変わらず、さァ、数十人ぶんの血、ひかり、シンデレラ、遅い、アネックス、レオ君、最高学府、泣く泣く、「梨沙をよろしく」、すごい、以後宜しく、大変、おや、愛情、能力、主人、子供、公務執行妨害、幸い、ただ、キャロル、帰る、秀才、モボ、大女優、大丈夫、今まで、『至急です』、永遠の幸せ、引退だけは勘弁、宗教、人権、セレブ、友達、“と言うわけで”、『大事な一人息子』、木っ端役人、短慮、管理、俺のもの、体から教えてやる、駄洒落クイズ、いい取材になりました、“男は顔だ”、『報道と人権委員会』、司法改革、ほっといて、おねえさん、ガキーン、“おれの白鳥”、すばらしいいしょう、艶っぽい、『ヒ・ミ・ツ♡』、「ひょっとして」、投手、プロ、ひひひ、犬、勤王、弱者の自立、民主主義、「理論的」、ピンチ、ISO、人に聞くまでじゃない、公平な詮議、隠居、軍人、我慢の限界、出世、化けもん、以上、嫌、ガンバレ、先生、基地を撤去しろ、〈大学〉、へちま

「何が N だ」の N には「革命」「すばらしいいしょう」といった名詞や名詞句が入る。「やれやれ」といった台詞や、「いい取材になりました」のような文

相当語句も入るが、「何が…だ」の「…」に入る台詞や文相当語句は、いずれも先行文脈から引用された感情や感嘆などを失ったもので、「名詞句（N）扱い」してもよいと判断した。また、『 』などの記号も含まれているが、文字言語コーパスから抜き出したものであるため、その記号を含めたまま N に入る語句を抜き出してある。まずは、「何が N だ」の N の性質は、名詞、名詞句、台詞、文相当語句が入る、という規則が成り立つ。

次に、「何が N だ」は何を表すのか。

5. 3. 2 節で「どこが N だ」を分析したが、例えば「どこが世界のトヨタだ」であれば、「世界のトヨタ」に対して期待感を抱き、それが裏切られた失望やとまどいを表すと述べたのであった。

では、「何が」文においては、「何が N だ」はどのように解釈すればいいだろうか。

6. 4 節の「反語の『何が』文の談話レベルの議論」の項でも触れるが、(85)(86)(87)の文脈を見ると、(85)「コックのくせに…とんでもない」、(86)「ホームの方が至れり尽くせりだ」、(87)「何や、一体これ？」という台詞がある。ここから、「N ではない」、「反論」、「違和感がある」、「不審」という感情が伝わってくる。

(85)彼の怒りは、まず、金村に向けられた。「おい。コックのくせに、こんなところで、酒を飲んでいるなんて、とんでもない…」と、義次郎は怒鳴った。ちょうどこのとき、「一杯だけ」ということで、ビールをコップで飲んでいて、それを見咎めたのだ。「すみません。奥さまの退院祝いというので…」と、金村は小さく言った。「何が祝いだ。こんなときに、のこのこ、邸には入り込んで、酒盛りでもないだろう。こんなことをさせてはダメだ…」義次郎は、芳乃にも向かって言った。彼自身、空腹で、苛々していたときだったのだ。「お祝いの真似ごとよ。…すみません。もうひとつ、コップ出して」と、芳乃は、義次郎にも、ビールを飲ませるべく、たつ子に命じた。

(斎藤栄『鎌倉流鎬馬殺人事件』)

(86)「愛人をつくるようなもんは隔離していたほうがいい」「だけど、おやじは、おじいさんがボケて、女に捨てられて、家にいた頃は面倒みて

いたじゃないか。おやじは出漁を見計らいながら、ちゃんとおじいの面倒をみていたんだよね。だが、いつまでもちゃんとした漁に出ないというわけにはいかないし、泣く泣くホームに入れたんだよね」「何が泣く泣くだ…ホームのほうが至れり尽くせりだ」「おやじはおふくろを大事にしていたからね…だけど、おふくろが亡くなった時は正直助かったね。初七日、ふた七日、み七日と毎週四十九日まで弔問客の接待をしなければならなかったからね。ご馳走つくったり、どういう手順なのか、俺とおやじとおじいだけの男所帯ではどうしようもなかったからね。

(又吉栄喜『陸蟹たちの行進』)

(87)留守番電話が点滅しているのにふと気づいて、入っていたメッセージを聞く。声の主は直哉だった。「あ、どうも、本城です。いままでいろいろありがと…と言うほど、つき合っていないか。俺、旅に出ます。心の旅。じゃ、これから暑くなるから食当たりには気をつけて。あと…、俺、もう関係ないけど、梨沙のことをよろしく」何や、一体これ？ 何が「梨沙をよろしく」や!? 直哉の携帯に電話を試みるがつかない。思いついて、梨沙の携帯にかけてみる。「いま、お前の元彼氏の留守電聞いたんやけどな…。どうなってんのや、お前ら？」「直哉が、飛び込んだの」電話の向こうで、息を切らしながら梨沙が言った。「は？」「隅田川、飛び込んだの」

(山内美香『フレンズ』)

また、「何が」文の「何」という疑問語は、物体、事柄という内容が不明な空欄であった。反語表現では、その空欄の内容を明確にすることができない。

更に、「何がNだ」を、野田(1996)の「君が主役だ」構文、すなわち「[伝えたいこと]が[主題]だ」と考えると、ここでは「不定が主題だ」構文ということである。そうすると、「何が祝いだ」は「祝い」を主題にしてみると、「祝いというものは不明瞭なものだ。実質のないものだ」が直訳となり、「祝いは意味不明だ」「祝いなんて意味がない」という解釈ができる。同様に、「何が泣く泣くだ」は、「泣く泣くなんて不明瞭なものだ」、「何が『梨沙をよろしく』や」は「『梨沙をよろしく』とは内容が不明だ」と考えることができる。このことから、「何がNだ」は「意味がない」「呆れ」「くだらない」というマ

イナスで価値を認識するという含意があると解釈できる。以上のことを考え合わせると、「何が N だ」で表されるのは、話し手が N に対して抱くよく実体のつかめない「不審」の気持ちではあると思われる。

以上、反語の「何が」文の意味レベルの議論を行い、「何が N だ」構文になった場合「不審」の含意が示されるということを明らかにした。

6. 4 反語の「何が」文の談話レベルの議論

6. 4. 1 「引用」

本節では、談話内における反語の「何が」文の用法について考察する。「引用」「動作・行為の言語化」「先行文脈に対する評価の仕方」の 3 種類の用法について考察する。

前節で見たように、「何が」文は「何が N だ」という構文で、談話における先行文脈の名詞句、台詞、文相当語句を引用する場合がある。「引用」というと「どこが」文と類似しているようだが、今述べたように、「どこが」文は名詞を引用したが、「何が」文は名詞だけでなく、台詞、文も引用するところが異なる。引用のしかたも、文字言語から音声言語を類推するしかないが、口調の真似もあると思われる。例えば、『ヒ・ミ・ツ♡』のようなものである。前節で述べたように、「何が N だ」は話し手の抱く「不審」を表すのであった。その他にも、不明瞭からくる怒りや呆れなどのマイナスの感情で話し手自身の語句を繰り返したり、相手の発話を引用したりする。

以下、用例を観察しながら分析を行う。

(88)は、「何が能力だ、ばかもん！(略)いい年こいて！」、(89)は「何が駄洒落クイズよ」「怒らない、怒らない。」「突っ掛かり気味に答えた」という文脈の中で発話されている。ここから、話し手は怒りを込めて相手の発話を引用し、その発話自体を否定的に評価し、打ち消そうとする様子が見られる。

(88)お茶を出すわけでもなし、ゴミ箱のゴミを捨てるわけでもなし、他人が仕事をくれるまでじーっと待っているだけなのである。一体どんな具合かと思って購読者の台帳をチェックしていくとあっちこちにミスがある。単純でつまらない仕事だけれど間違いがあると困るという旨、“ブランドの君”に申し上げると彼女は、「ああ、そうですか。あたし、あなたみたいに能力ないから—」というのだ。 「何が

能力だ、ばかもん！　これから気をつけますくらいいいえんのか、いい年こいて！」とはり倒してこれくらいのことってやりたかったが、悲しいかな私は片頬ひきつらせながら、「あーら、そんなことありませんよ。慣れですよ、慣れ」　などといってしまうのである。

(群ようこ『午前零時の玄米パン』)

(89)元々発達しなかったのか何かで締めつけているのかと、どうでもいいことをつい考えた。　一どんな愛し方を。　更に妄想を広げ、密かに私は呼吸を乱した。　そのとき私の着メロが鳴った。誰からかとバッグを開けて携帯電話を取り出し、耳に当てた。　「ねえ、今テレビで駄洒落クイズやってただけど、いい？」　こずえだった。　「何が駄洒落クイズよ」　「怒らない、怒らない。ねえ、歴史上の人物で最も体が丈夫な人、知ってる？　日本人で」　「そんなことでわざわざ掛けないでよ」　「あ、怒ってる。邪魔しちやった？　早く電話で答えたなら好きなCD貰えるんだけどな」　「わかるわけないでしょ」と私は突っ掛かり気味に答えた。

(岬魅堂『とてものだかな雨日和』)

(90)は「どこが」文の引用では全く見られなかった例で、口調の真似である。敢えて相手を真似することによって、相手の言葉を否定的に捉え、不審からくるマイナス評価を下すと言える。

(90)「ったりめえだろ、殺されちまうなんざマッピラだい」「そりゃそうだけど…どうやって逃げ出すのよ？　なにか名案でもあるの？」「それはヒ・ミ・ツ♡」と俺は答えたが、じつなな一んにも思いついちゃいない。ただ、なんとかせずにはいられない、それだけだ。「なにが『ヒ・ミ・ツ♡』よ」と、ルーベットが俺のバカにしたような口調を真似て言った。「あんたって、ホントにかわいげのない女ねえ」「女じゃねえって言ってるだろ、わかんねえヤツだな」俺はムツとして、彼女のか細い腕を乱暴につかんだ。

(中村うさぎ『極道くん漫遊記』)

(91)は、今までの例とは異なり、対話ではないが「男性」の発話の中で、怒り

で繰り返し述べられた「五輪」について、「吐き捨てるように」「何が五輪だ」と言い切る。発話者である「男性」が「五輪」という事柄自体を否定していることがわかる。

(91) 直後の事件。 中国政府への影響は大きい。ウイグル族の怒りが世界に伝わったはずだと述べた。 街頭や食堂などではテレビで北京五輪での中国人選手の活躍ぶりが映し出されていた。 しかしそれにウイグル族が見入る姿を見かけることはついになかった。 五輪なんか関心ない。 街に五輪のスローガンなんか一つもないだろう。 反感を買うからさ。五輪はウイグル族にとっていいことなんか何も無い。 何が五輪だ。男性はこう吐き捨てるように言い切った。 宣戦布告は犯行声明と矮小かされ自主自衛の行動さえ非難され、あまりにも不憫である。 核実験もしているにもかかわらず、五輪開会式には史上初の参加首脳陣の数。

(Yahoo!ブログ)

以上、本節では、談話内で前後の文脈を観察しながら、「何が N だ」によって、話し手の怒り、呆れによる相手の発話あるいは事柄の否定がなされることを述べた。怒り、呆れ、憤りなど、事柄に対する話し手の否定的な感情が表される。話し手が「何が N だ」と述べるときは、「N は意味がない、不明瞭だ」というマイナスの価値を下すことになり、前節で述べた「不審」があるということが言える。

6. 4. 2 動作・行為の言語化

本節では、「何が」文に特徴的な談話の展開の仕方を考察する。その談話の展開の仕方をここでは「動作・行為の言語化」と称することにした。

まずは、下の例(92)(93)を参照されたい。

(92)それが、俺には、たしかに我が意を得たりといった雰囲気に見てとれて、何かやな予感ってもんがしたのだけれど…。「なるほどたしかに…。で、宅配車とマラソン選手を取り戻したいと思うわけだな」「当然だ！早くしろ！」溜池警部補が叫ぶ。「ふふ」珍しく正倉院が声を

出して笑った。「何がおかしい」余計にいきり立つ警部補。いや、失敬。しかし、今ではもう自明のことと思ってな」「何が自明だ」「宅配便とマラソン選手だ。こうして『産額』が誰にも見えるように掲げられているにもかかわらず、何故、特定の宅配便業者の車とマラソン選手が消えてしまったかということだ。そのへんはわかりきったことだと思うがね」

(東野司『SF バカ本』)

(93)「お前もやってないよな」「そんなこと、実力だけじゃできない。運も必要だ」「今日の俺には運もあるんだよ。お前には負けない」突然、神宮寺が声を上げて笑った。突き抜けるようないつもの馬鹿笑いに、沢崎は思わずぎょっとして一方後ろに下がった。周りにいた選手たちも、何事かと振り向く。沢崎はかすれた声で訊ねた。「何がおかしい」「俺に面と向かって挑戦してきた奴なんて、今までいなかったからな」「それがお前の不幸だ」「不幸？」すっと笑いを引っこめ、神宮寺が首を傾げる。

(堂場瞬一『焰』)

上述の「動作・行為の言語化」というのは、先行文脈の動作・行為、ここでは(92)「声を出して笑った」、(93)「声を上げて笑った。突き抜けるようないつもの馬鹿笑い」という行為について、「おかしい」と言語化することである。文字言語ではわかりにくい、「笑う」という言葉で笑うのではなく、大声を出したり、おなかを抱えたり、顔に笑みを浮かべたり、そのような動作や行為によって実現するのである。その行為からくる感情を、「何が」文において、「何がおかしい」と言語化しているのである。ただし、笑う行為の感情を「おかしい」と言語表現化するだけでなく、(92)「余計にいきり立つ」、(93)「思わずぎょっとして一方後ろに下がった」といった話し手の意外性を表す反応も伴う。

このように談話内で「何がおかしい」と発話される状況を、なぜ取り上げたかということ、BCCWJにおいて、「何が<感情形容詞>」の<感情形容詞>にあてはまる語は「おかしい」しかなかったためである。BCCWJには「何がA/Nだ」のほかにも2例ではあるが「N₁の何がA/N₂だ」の文型がある((94))。

(94) ロリの何が悪い！！！！！！！！！！

(Yahoo!ブログ)

しかし、「何がおかしい」は、「Nの何がおかしい」の用例はない。

以上、「何がおかしい」をめぐって課題が2点あることがわかった。

まず、感情形容詞として「おかしい」しか現れないことについて考えてみる。

(95)?? (女の子がしくしく泣いているのに対して、父親が)

何が悲しい!

(96)?? (選手たちが甲子園で負けて涙を流しているのに対して) 何が悔し

い!

(97)* (子供がピーマンだけ残したのに対して) 何が嫌い!

(98)?? (友人がジェットコースターに乗りたがらないのに対して) 何が怖

い!

(99)?? (子供がマンガばかり読んでいるのに対して)

何が面白い!

「何がおかしい」は言えるが、(95)~(99)の「何が悲しい」「何が悔しい」「何が嫌い」「何が怖い」「何が面白い」は、不自然、あるいは文法的ではない。

「おかしい」という語については、森田(1994:228)には次のような記述がある。

(100)①外面に現れた様子、表情、態度、しぐさ、言葉、口調、

格好などが普通と異なることから生じる、罪のない笑いを誘う感情で、かなり本能的、生理的現象に近い。

「おかしくて、おかしくて、笑いが止まらない」「失礼な!何がおかしい」「父親そっくりの口調が実におかしい」「剽軽な彼の、おどけた仕種がおかしい」

②ある事物が一般の様子と異なるために、常に人々を笑わせる状態である場合、そのおかしさは、その事物の持つ特徴の一つとなる。一時的な個別的な感情ではなく、対象が持つ普遍的なおかしさである。

「とてもおかしい笑い話」「ピエロのおかしい仕種」

しかしながら、森田（1994）の説明は不十分である。例えば「父親そっくりの口調が実におかしい」「剽軽な彼の、おどけた仕種がおかしい」には、「笑いを誘う」という感情以外に、「滑稽な様子を笑う」という意味があると考えられる。

(92)(93)は、相手は突然笑い出しており、それに対して話し手は滑稽さを笑われたと思い、不審を抱く。それが「何が滑稽なのだ」と似た意味で「何がおかしい」という発言なのである。「いきりたつ」「ぎょっとする」という態度も、話し手が不審を抱いたことによる。

ではなぜ「何が悲しい!」「何が悔しい!」「何が嫌い!」「何が怖い!」「何が面白い!」は不自然なのか。

(95)～(99)で示された感情「悲しい」「悔しい」「怖い」「面白い」は一時的な個人的感情であり、これらの感情は対象に向かって発せられるものではない。主観的であり、個人的なものである。したがって、話し手は相手にその感情をもつことを否定する立場にない。もし、否定するのであれば、客観化する段階を経る必要がある。「何が悔しい」であれば、「何を悔しがっているのだ」などと三人称表現にするか「のだ」文にするなど他の表現に直さなければならない。

「何がおかしい!」は、話し手は相手が自分に対して「滑稽さ」を笑ったと感じ、不審を抱く。相手に対して失礼だとも感じるのである。悲しい、悔しい、嫌い、怖い、面白いが主観性が強いことと比較すると、「おかしい」という客観性が強い感情形容詞で、相手の感情を責め立てられる特殊な形容詞なのだと考えられる。

次に、「それの何がおかしい」という「Nの何がおかしい」が現れない理由だが、おそらくたまたま BCCWJ に現れなかった、ということではないかと思われる。

相手は突然笑い出している。例えば「あいつロリだつてさ～」と話題を出して笑い出したとしたら、「ロリの何がおかしい」と答えるだろう。しかし、(92)(93)では、ただ大声で笑い出しただけであるから、不審を表す「何がおかしい」だけで十分である。

他にも BCCWJ には「何がおかしい!」の例があった。例えば(101)のように、教室の生徒たちが騒いでいるところに、教師が突然「何がおかしい!」と

一喝し、黙らせる。(102)では、お冠の様子が描かれている。談話展開のパターンは、(92)(93)と同様、目の前の人物が笑っているところに「何がおかしい」といきなり発する形であるとみられる。

(101)着任した日であった。教壇に立った S 教諭を見た途端、H 君は「鼻」と書いた紙片を順送りに回してきた。それを見た生徒の一人が頓狂な声を上げた。教室は、俄かに騒がしくなってきた。不意を衝かれた教師は、机の上に教科書を叩き付け、声を上げた生徒を睨み付けた。「何が、おかしいッ!」生徒は、気合いの入った教師の一喝に、首をすくめた。この一喝が、だらけようとする教室の雰囲気、引きしめることになった。

(池畑慶蔵『追憶』)

(102)夜中の一時過ぎ、演習を終わり、営庭に整列する。「よーし、よくやった。解散！ ただ今の正確な時刻」と言って、明るい方に腕時計を向けながら、「八時四十分」と言う。無意味と思われた演習後だけに、何人かが笑った。笑ってはいかんといいながら、笑いがこみ上げてくる。下を向いたが、背中が笑ったか。「おれの時計が狂っていたんだ。何がおかしいか。今、笑ったやつは士官室に來い」と、お冠である。演習中のわれわれの対応に不満があったのを感じ取っていたのだろう。兵舎に帰り、巻脚絆を解き、上靴に履き替えようとしているとき、「おまえも笑っただろう。行って謝ってこい」と、見知らぬ男が言う。「余計なお世話だ。人の指図は受けん」と、相手を正視した。

(尾川正二『帝国陸軍の教育と機構』)

以上、先行文脈の動作・行為を「何が」文で言語化する時には客観的な「おかしい」を用いることを述べた。相手を黙らせるために突発的に口にする、慣用的な表現とも考えられる。

6. 4. 3 先行文脈に対する評価の仕方

「何が」文においても、先行文脈に対して話し手の評価を下す場合がある。先行文脈は動詞、形容詞のテ形で表され、そこに「何が」文が承接した形となる。

次の例(103)は、「問題を解くのに、答えを見ながらやるコト」について「何が悪い」と評している。したがって、先行文脈はテ形として従属節となり、後続の主節「何が悪い」と結びつくが、その際の従属節と主節の意味関係は「評価的つながり」と呼んでもよいであろう。

(103)今年から、中学生です。それで、塾を辞めて、本屋などで売っている、月刊の教材にしようかと、思っているんですが、なかなかよいのが、ありません。本屋で、月刊で、教材が売っているのがあったら、教えてください。

あまりいい教材はないと思います。Z会・進研ゼミの類がいいと思いますよ。上の解答に「答えがついているので」とありますが、答えを見ながらやって何が悪い！わからなければ答えを見ながらやらなければ、それは無意味です。時間の無駄。わからんものはわからない。かならず、所定の内容はこなしてくださいね。そうでないとお金の無駄です。塾に行っても勉強しない人はなんの意味もないのと同じように意味がないです。

(Yahoo!知恵袋)

次の(104)の「何が」文は、形容詞述語ではなく、名詞述語文である。「投手」という名詞の中に「球審を敬わず、ジャッジが気に入らぬ時は帽子を地べたにたたきつけ、ホームベースに五、六歩詰め寄るぐらいの意気込みがあるもの」という性格付けがなされている。形容詞に相当する性質だといってもよい。投手がそのような意気込みを示さないということに対して、それでは投手とは言えないという、話し手の主張である。その際、五、六歩詰め寄るぐらいの意気込みを示さない投手に対する「不審」の念が込められている。

(104)その位置にある者の最低限の誇りにかけて、球審にたいするあの無用にも見苦しい表敬意識を即刻かなぐり捨てよ。投手にとって、球審は敬う者ではなく、挑み屈服せしむべき対象であるからだ。ジャッジが気に入らぬ時は、殴り倒せとはいわない。だが、かつてのクライド・ライトのように、ここ一番の判定には、帽子の一つも地べたにたたきつけ、ホームベースに向かい、五、六歩詰め寄るぐらい

「お店がオープンすれば、彼だって、あたしの代りの人間ぐらい、みつけてくるわ」「成功したらいいけどね」 店のことであった。

(平岩弓枝『白い序章』)

(107)「桜くんどうしたの？ キモチわるいの？」 林間学校の熱にうなされて、僕は肝心なコトを忘れていました。「ドクロちゃんは…、こ、怖く…ないの？」 僕は身体を堅く縮こませたまま、小さな声で言いました。「こわい？…なにが？」 首をひねって周りを見て、ドクロちゃんは再び僕をのぞき込みます。

(おかゆまさき『撲殺天使ドクロちゃん』)

「誰が」文も「どこが」文も、「誰が」「どこが」のみで文を成立させることができた。その文が反語解釈できるか、疑問解釈できるかは、文脈に依存するところが大きかった。「何が」文も同様で、「何が」だけで文が成立するが、反語文か疑問文かはやはり文脈による。なお「何が」だけで聞き手の既存の知識で解釈する反語文は **BCCWJ** にはなかった。

ところで、「何がだ」という形もある。次の(108)のように、疑問解釈も反語解釈も可能となる。この場合、文脈に基づいて、聞き手（読み手）の解釈がなされることとなる。「なにがです」は、「なるほど似ているな」という先行文脈の台詞に対する疑問、「何が似ているのですか」という意味にも解釈できる。一方、「何にも似ていない」という含意をもつ反語解釈も可能である。この場合、「細君は見向きもしない」という後続文脈があるため、そっけなく無視を決め込んでいるのである。そう考えると、「なにがです」は反語解釈がなされるほうが自然である¹¹。

(108)細君の禿とはなんらの関係もないようであるが、主人の頭では二つのあいだに密接な連想がある。同じく子供の時分に、浅草へゆくとかならず鳩に豆を買ってやった。豆は一皿が文久二つで、赤い土器へはいついた。その土器が、色といい大きさといい、この禿によく似ている。「なるほど似ているな」と主人が、さも感心したらしくいうと、「なにがです」と細君は見向きもしない。二百十四 文久 文久

¹¹ 音声言語であれば、上昇イントネーションで発話されれば疑問文、下降イントネーションで発話されれば反語文と理解できる。

銭。文久三（千八百六十三）年に江戸幕府が発行した、青銅の穴あき銭。江戸時代は四文、明治になってからも、中ごろまで一厘五毛（当時の貨幣の単位で、一厘は一円の千分の一、一毛はその十分の一）として通用した。「なんだって、おまえの頭にや大きな禿があるぜ。知ってるか。」

（夏目漱石『吾輩は猫である』）

6. 6 「何が悪い」と「どこが悪い」の相違

上に反語の「どこが」文と反語の「何が」文について考察を行い、それぞれ意味・用法に特徴があり、同じものではないことを明らかにした。

しかし、実際には、「どこ」と「何」を入れ替えても論理的に文法的な場合がある。それが顕著に表れているのが「どこが悪い」「何が悪い」という構文である。では、意味論的に全く同じ概念を指すのかという疑問が生じてくる。本節では、この「どこが悪い」「何が悪い」が文脈中でどのように現れているかを考察し、その違いを明らかにする。BCCWJで収集した用例のうち、「どこが悪い」は14例、「何が悪い」は41例であった。

以下、構文的側面、意味的側面から考察を行う。

6. 6. 1 構文的相違

まず、「どこが悪い」と「何が悪い」はそれだけ見れば、「どこ」と「何」の違いであって、構文的相違はないと言える。文中でも、動詞テ形に承接する「評価的つながり」で現れる場合が多い。次の(109)(110)の「どこが悪い」「何が悪い」は(111)(112)のように、双方を入れ替えても文法的に誤りとは言えない。

(109)江藤さん、益々頭にきました。「なんだよ、じゃないだろ。肩が当たったって言ってるんだよ。謝らんかって言ってるんだよ。俺を知らないのか、中日の江藤だよ」「あんたこそ、道のまん中歩いてたじゃないか」男も言いかえます。「なに言ってるんだよ。スタープレイヤーが道のまん中歩いて、どこが悪いんだよ」江藤さん、もうおさまらん。スコーン！！ 殴りにいったんですわ。誰かて、その男がぶっ倒れるところを想像しますやん。ところが江藤さんのパンチを、軽くよけて、その男が構えましてん。

(板東英二『プロ野球知らなきゃ損する』)

(110)顧問格のような人であったし、ともすれば孤立しがちな春嶽にとって、まさに片腕以上の大事な味方であった。その大久保を突然左遷されたのだから、春嶽は大いに立腹して後見職一橋慶喜に抗議した。慶喜曰く「大久保は皆に嫌われているようなので、しばらく他所へ出して、ほとぼりを覚ますのだ」と。皆というのは老中板倉をはじめ政府部内の保守派の俗論家をさす。春嶽は言った。「俗論家に嫌われて何が悪い。そこが大久保の大久保たる所以ではありませんか。この大事な時に大久保をお側から離してどうします。そうした風説などお取り上げになつては困ります」と。

(吉村淑甫『近藤長次郎』)

(111)スタープレイヤーが道の真ん中歩いて、何が悪いんだよ。

(112)俗論家に嫌われてどこが悪い。そこが大久保の大久保たる所以ではありませんか。

「どこが悪い」と「何が悪い」の相違は、構文的分析ではわかりにくいと思われる。6. 6. 2 節で意味的に考察してみる。

6. 6. 2 意味的相違

「どこが悪い」「何が悪い」の用例を観察してみると、発話状況から「何が悪い」のほうが適切だと思われる場合がある。それが次の例である。

(113)警視庁は二十三日、人気アイドルグループの■■■容疑者を公然わいせつ容疑で現行犯逮捕した。同庁幹部によると、■■■容疑者は二十三日午前3時頃、同区赤坂の区立檜町公園内で全裸になった疑い。午前2時五十五分頃、付近に住む男性からの酔っぱらいが公園で騒いでいるとの百十番で駆け付けた赤坂署員が公園の芝生の上で全裸であぐらをかき、大声で叫ぶ同容疑者を発見。同署員に、裸で何が悪いなどと叫んだため、現行犯逮捕したという。

(Yahoo!ブログ)

(113)のような場面では、容疑者は「裸でどこが悪い」と言うより「裸で何が

悪い」と「開き直っている」と解釈できる。

次の例も「何が悪い」のほうが適切である。(114)は「居直る立場」から「何が悪い」を発しているのである。

- (114)「保守」の側では「英米協調」の「保守本流」に根強い発想であり、「進歩派」の側では、欧米の一面的理想化とそれにもとづく日本(政府、社会)批判の風潮がこれにあたる。他方には、ひたすら欧米の傲慢と独善を批判し、その恥部を暴露し、日本の「文化」や「伝統」を強調して、欧米諸国もしている程度の悪いことをわが国がやって何が悪い、と居直る立場がある。これは今日、「保守」勢力のなかのいわゆるナショナリスティックな部分にあらわれるが、その背後には民衆一般の広汎で根強い「外圧」への反発が認められる。

(大沼保昭『倭国と極東のあいだ』)

実際、BCCWJの用例を見ると、「何が悪い」は「叫ぶ」「こう言わんばかりの総理の発言」「主張する」「開き直り」「文句を言う」「食ってかかる」「居直る」といった発話行為動詞(今井 2001)が用いられている。そうすると、「何が悪い」は、話し手の「開き直り」を表すと言ってよいだろう。「どこが悪い」にはこのような発話行為動詞はなかった。発話行為動詞の使われ方は、言語行為上の問題でもある一方で、構文的な問題でもあると思われる。

では、「どこが悪い」「何が悪い」はなぜこのような相違が生じるのであろうか。それには、やはり「どこ」と「何」の二つの疑問語についての基礎的な考えが根底にある。「どこ」という疑問語は場所性をもつ空欄であった。「何」という疑問語は物体・事柄という性質を持つ空欄であった。両者とも疑問語ではあるが、「場所性」「事柄性」という性質を本来持つ。各々に関連する概念がその空欄の内容を明確化するのである。「裸でどこが悪い」というと、裸でいることによって、どこの部分が悪い、どこの部分も悪くないという解釈になる。「裸で何が悪い」とすると、裸でいることによって、事柄自体がどのように悪い、という解釈になる。この場合、「何が悪い」のほうが文脈的にすわりのよい表現となる。

以上をまとめると、「どこが悪い」「何が悪い」の相違は次のように記述できる。

(115) 「どこが悪い」

どこの部分が悪いかを問い、どこの部分も悪くないことを主張する。

「何が悪い」

事柄全体がどのように悪いかを問い、開き直すことで、何も悪くないことを主張する。

応用として、次の例がある。反語表現ではなく疑問表現である。「どこがいいの」と「何がいいの」の違いで、テレビの出演者が言い合いをしている場面である。

(116)嵐の中で櫻井くんが一番のお気に入りだという椿姫さんに、「何がいいんですか！」と一言の後、速攻でリリース。椿姫さん、カスリもせず。得点は0点！そして。

二宮：で、あらためてなんですけど、なにがいいんですか？（すごく紳士的で優しいところだという椿姫さんに、まんざらでもない翔ちゃんでしたが…。）

櫻井：オマエさあ、訊き方はさあ、何がいいの？じゃなくて、どこがいいの？だろ！

松本：そこ、気になってたんだ！

(Yahoo!ブログ)

疑問文においても、事柄に関する概念が「何」に、場所や部分に関連する概念が「どこ」に入る。「何がいいの」はその人全体の事柄の評価をし、「どこがいいの」はその人の部分の評価しようとする。したがって、談話内ではどちらを用いても問題はないが、「どこがいいの」のほうが少しずつその人を知ろうとするという謙虚さがある一方で、「何がいいの」はいきなりその人全体を知ろうとする凶々しさが感じられるため、(116)では、避けられる表現として扱われているのだと考えられる。

6. 6 反語の「何が」文のまとめ

以上、反語の「何が」文について用例を挙げつつ、構文レベル、談話レベル、語用レベルで議論を行い、最後にはまとめとして、反語の「どこが」文との比較も行った。

まず、「何」という疑問語が物体・事柄という性質を持つ空欄であることを考察の前提とした。

構文レベルでは、能力主体をニ格表示することで述語が「できる・わかる」の「何が」文は反語表現となることを明らかにした。

また、談話内で前後の文脈を観察し、「何が N だ」によって、話し手の怒り、呆れによる相手発話あるいは事柄の否定がなされると述べた。「何が N だ」という構文の「何」が、N について実質のない状態を表していることから考えると、話し手の感情の根底にあるのは「不審」ではないかと考えた。

最後に、「どこが悪い」「何が悪い」の相違を考えた。「どこ」という疑問語は場所という性質を持つ空欄であった。「何」は物体・事柄という性質の空欄であった。両者とも空欄ではあるが、「場所性」「事柄性」という性質に関連する概念がその空欄を明確化するのである。「どこが悪い」は、どこの部分が悪い、どこの部分も悪くない、という解釈になり、「何が悪い」とすると、事柄全体がどのように悪い、何も悪くない、という開き直りの解釈ができる。

7 反語の「どうして」文

7. 1 「どうして」文における反語文と疑問文の区別

「どうして」文の「どうして」も疑問語で、「理由」あるいは「方法」という性質の空欄である。「理由・方法」に関する情報が欠けており、(117)のように、話し手が「理由」という概念で積極的に明確化しようとし、結果的に聞き手にとってそれが可能である場合は、疑問文と解釈できる。また、(118)のように「方法」という概念で明確化することができる場合も疑問文である。

(117)子供もまた大時計が十三鳴るところで、ふしぎだとおもう。それはおなじなんです。しかし、子どものもった疑問というのはわたしの疑問とはまったくちがっていました。子どもは、どうして時計は十三鳴らないのか、というんですね。どうして十二で鳴りおわらなくちゃいけないのか。一時から十二時までを打つというのが、わたしたちにとってのいかにも時計らしい時計のありかたですね。しかし、それこ

そ子どもにはふしぎなんですね。トランプだって十三枚で一組じゃないか。時計がたまに十三回ボーン、ボーン鳴ってみたかったとしてもふしぎではない。

(長田弘『読書百遍』)

- (118) 絵梨子はあたりを見廻す。 暗い木立の先に、「ホテル」とか「旅館」のネオンが垣間見える。「ねえ、折角ここまで来たんだから、神社にお参りしていきましょか」「今日は止そう」 参詣なら昨日の昼、妻と娘と来ている。一日経ったいま、神宮の森に近いホテルに絵梨子とくることになるとは、塔野も思っていなかった。「でも、君はどうして、ここが変なところだってわかるんだい」 表通りから小路に入りながら塔野がきく。「千駄ヶ谷って、変なホテルが沢山あるところでしょう。あたし週刊誌でも読んだし、友達からもきいたわ」 塔野はそれで少し安心する。「今日はなにもしないから、とにかく行くだけ行ってみよう」

(渡辺淳一『北都物語』)

「どうして」が「理由」の性質を疑問語であるか、「方法」の性質をもつ疑問語であるか、ということについては、文脈から判断される。

「どうして」という疑問語の空欄を明確化しようとしても具体的な言葉にできない場合が(119)の反語文である。ただし、「理由・方法」としての意味的性質は持ち続けている。

- (119) いや公卿はおろか。天皇后醍醐の退位すらも、今では、時機の問題と、観られているではないか。北条幕府から観て、好ましからぬ皇太子は、皇太子にもなれず、また危険視される天皇は天皇の御座からも追われるというような超権力の存在を、みかどとして、どうして坐視してられようか。一とりわけ、近世の歴代中でも、比類なき英邁な質をもってお生まれあったという今上後醍醐とすれば、切齒のおちかいも、当然なわけで、 天皇御むほんど、聞えるのも、ご無理はなく、その思し召し立ちは、ありうることと拝察される。

(吉川英治『私本太平記』)

このような意味的な分類もできるが、文末の形態的な特徴からも反語文を疑問文と区別することができる。(120)のように、可能動詞、あるいは可能動詞と「ようか」「だろう」「でしょう」などの疑いのモダリティ形式、またはそれらの疑いのモダリティ形式が文末に現れている場合である。このときは、反語文となる。ただし、このような形態的な特徴だけで反語文となるわけではなく、「どうして」が「理由」「方法」という性質を持つ疑問語であり、話し手も聞き手もその疑問語の内容を明確化できないからであるということは変わらない。

(120) ぼくらは知っている。そんな息子にくたくたに疲れた母親はパリで死んでいったのである。貧乏に心底、平気でいられるのは無心な幼児くらいだろう。モーツァルトは幼児にかわらなかつた。死ぬまで。しかも妻をもち子を儲けた。病弱な妻や子のために金の工面をしなければならなかつた。三十五歳は、重ねていう、長すぎる。彼の音楽、その哀しさが長すぎた年月へのうらみを知らずに、どうして理解できよう。ベートーヴェンのように、モーツァルトの音楽それ自体は、貧乏をぼくらに語りかけていない。惨めさのかけらもない。強いて例外を挙げるなら『プロイセン王セット』の寡作ということになる。

(五味康祐『ベートーヴェンと蓄音機』)

逆に、疑問文の場合、(121)のように「のだ」文になりやすい。また(122)のように「どうして？」だけで一文となっている場合も疑問文である、

(121)その時、まだ恋らしい恋をしたことがなかつたあたしは、彼女の言葉をうのみにしてた。でも、今は、“本当にそうかな？”って思う。みんなに美人だつてもてはやされる百合さんの欠点を必死になって探したり。慎吾が百合さんを見つめる熱い眼差しにいいようのない嫉妬を感じたりする。百合さんの前だと、本心から笑えない。(どうして、この人ばかりがモテるの?) 心の中で、いつも叫んでる。こんなこと続けてたら、自分がどんどんブスンなつてくはずだ。恋をするとききれいになったり、素敵になったりできる。

(鎌田絵里『やさしくなりたい』)

(122)ほんの少し前のある夜のこと、この陰鬱な木のそばに火をつけた十字架を立てられていたことがあった。次の日の朝、ボブの小さな娘が遊びに出かけたが、しばらくして戻って来ると、父親にこう言った。「お父さん、きのう、お客さんが来たみたいよ。きっとイエス・キリストだわ」「どうして?」ボブが尋ねた。「芝生に十字架があるもの」ボブはすらりとした、少年のような男だ。ベルを鳴らすとすぐに出て来て、自動車でも尾けて来ていないかと暗闇をじっと見つめ、そのあとで私を中に招き入れた。そっとドアを閉め、書斎へ案内してくれた。壁に緑色のファイル棚が一行に並んでいる。

(ハリソン・E・ソールズベリー/後藤 洋一(訳)『変革の時代』)

以上、「どうして」文がどのように反語文と疑問文が区別できるかを意味レベル、構文レベルで、述べた。

7. 2 反語の「どうして」文の構文レベルの議論

前節でも述べたように、反語の「どうして」文は、ほとんどの文末は可能動詞、あるいは可能動詞+「ようか」「だろう」「でしょう」などの疑いのモダリティ形式の結合、または疑いのモダリティ形式である。

本論文で BCCWJ で収集した反語の「どうして」文の用例 191 例の中では、次のような述語動詞の文末形式の数字が見られた。

(123) 可能動詞+疑いのモダリティ形式	114 例
疑いのモダリティ形式	60 例
可能動詞、能力動詞「わかる」	10 例
のか、あるか、ものか	7 例
合計	191 例

助動詞「う」「よう」は話し手の意志を表すモダリティ形式とも思えるが、思考動詞「思う」の内容節に埋め込むことができない¹²。

¹²仁田(1991: 163)では、「聞き手の存在を前提としないタイプである〈述べ立

(124)それでもまだ足りず、同じ時にフォリ・ドラマティック座がかれに、オペラ・コミック『マダム・ファヴァール』のリハーサルの開始を告げてきた。そのためにもかれは、同じくさらに二、三のミュージック・ナンバーを書かなくてはならなかった。表層のこうした誘惑の声に逆らうなどということが、どうしてできよう？ オッフエンバックは痛風を忘れて、アツという間に所望されたものを作曲し、即座にパリへ行き、そこで大変なスピードで自分を三人に分けたので、関係している三人の劇場支配人の一人一人が、自分だけがオッフエンバックを独占していると思ったほどである。

(ジークフリート・クラカウアー/平井 正(訳)『天国と地獄』)

(125)*表層のこうした誘惑の声に逆らうなどということが、どうしてできようと思う。

このことから、「どうして」文の文末の「う」「よう」は意志のモダリティ形式ではなく、疑いのモダリティとみるほうが妥当であるということがわかる。

では、「どうして」が文末の「う」「よう」「だろう」という形式に呼応したとき、どのような表現効果がでるのか。

「どうして」はそもそも「理由がわからない」「方法がわからない」というときに用いる疑問語である。したがって、反語の「どうして」文の含意としては、「どうしてそのようなことができるだろう、いやできない」という否定的主張がなされる。話題とされている事の可能性や能力に「疑い」を抱いていると解釈できる。

反語の「どうして」文の述語動詞には、(123)で見たように、可能動詞、能力動詞「わかる」、可能動詞+疑いのモダリティ形式、および疑いのモダリティ形式が現れ、物事の実現の可能性に疑いを持つという文意があると考えられる。

7. 3 反語の「どうして」文の談話レベルの議論

前節で、反語の「どうして」文の構文レベルの議論とそこから見出される「ど

て)〈表出〉は、内言系遂行動詞の埋め込み文になる」と述べられている。

うして」文の文意を考察した。

本節では、談話の中で反語の「どうして」文がどのようにふるまうかを考察する。

「どうして」文における文末の疑いのモダリティ形式には二通りある。聞き手存在を意識しない普通体の「だろうか」系、そして丁寧体の「でしょうか」系¹³がある。BCCWJでは、「だろうか」系が133例、「でしょうか」系が41例見られた。反語の「どうして」文は、聞き手を意識しない場合と意識する場合がある。

(126) 垣根のところまで来ると一人の白髪の腰の曲がった老婆に出会った。これこそ娃の母であった。彼はひざまずいて挨拶をし、進み出て申したことには、「ご当家に空部屋があるとお聞きしました。どうか、間借りさせていただきたいのですが、ほんとうでしょうか」と。老婆が言うには、「狭い上にむさくるしい所で、ご身分のある方にお住まいいただくのにはとてもお役に立ちません。どうして間代などいただけましょうか」と。そして彼を来客用の建物に案内したがそこはたいそう立派な建物であった。

(乾一夫/内田泉之助『唐代伝奇』)

(126)は述語が「いただけましょうか」となっており、丁寧体が用いられている。しかし、(128)の「老婆」が「彼」に「間代をいただけるかどうか」を質問しているわけではない。「どうして」文を用いることによって、「間代をいただける」という可能性を確実なものとし、一方で、この場合「間代をいただけるだろうか」よりも丁寧に述べている。そして、話し手の「老婆」は「彼」にこの疑いに対して回答を求めている¹⁴。「間代をいただける」という不可能なことを聞き手に配慮して、丁寧に述べているにすぎない。

¹³ 「だろうか」系には、「う」「よう」「うか」「ようか」「だろう」「だろうか」が含まれる。「でしょうか」系には「ましょう」「ましょうか」「でしょう」「でしょうか」が含まれる。

¹⁴ 安達太郎 (2002 : 190) に疑いのモダリティが丁寧体をとったときの聞き手への配慮についての記述が詳しい。

(127) 「ついておるわ。青沼の娘の目は節穴ではないぞ」 「しかし…」
何か言いかけた源蔵は、途中でがくりと肩を落とした。「お嬢さまのおっしゃるとおりです。この疾風の源蔵は、なさけないことに、くくっ、飛脚の足に歯が立ちませなんだ。くくくっ…あのくるしい修行は何のためだったのでしょうか。くくく…」 「えい、泣くな」
「これが、どうして泣かずにおれましようか。くくくっ」 「汚い奴だな。その水漬を拭け。あっ、何をする気だ」 「こ、こうなったら、腹を切ります。忍びの誇りを失って、おめおめと生きておれましようか」 路上にあぐらをかいた源蔵は、脇差を抜こうとしている。

(高橋和島『遠き雷鳴』)

(127)も、会話体の中での「どうして」文であるが、「これが、どうして泣かずにおれましようか」と述べることによって、「泣かずにはいられない」ことを主張している。「えい、泣くな」という相手の発話に対する返答として発話されているが、この「どうして」文で聞き手の回答を引き出そうとするものではない。ここでも可能性を自ら疑念に思い、そこから「泣かずにはいられない」が含意として生ずるのである。

しかし、やはり用例全体を観察すると、「どうして」文は話し言葉にあっても、文語調の表現として用いられ、もっともらしさ、重々しさ、事の重大さを強調する表現であると思われる。

次の例(128)は、話し言葉の中に文語体の「どうして」文を混入させることによって、その「どうして」文がいかに重大なことを強調する、という文体のギャップを利用した面白味のある文章となっている。

(128)メニュー結構たくさんあるんだけどさ…暗くて見えないの ;
` ; : ` ; ` (; ° ; ж ; ° ;) ブーンずっと同じのぼっかりの
むから、いいんだけどねー。更新間に合うかな?? と思ったけど…
ギリギリ間に合わなかったかw w 酔ってないよー。といいつつ、陽
気に口笛吹きながら帰ってきたあたいが悪いのね。そうなのね。父
がインフルエンザにやられました。同じ家にいて、どうしてあたい

もうつらないと言えようか！！精神力で勝つしかないっす。

(Yahoo!ブログ)

ところで、「誰が」文、「どこが」文においては、聞き手の知識を利用して反語解釈をさせる場合があった。「誰が?」「どこが?」といった一つの成分で反語文を成していた。しかし、「どうして」文の場合、上述したが、「どうして?」だけでは、反語文にならず、疑問文になる。したがって「どうして?」が聞き手の既に有している知識によって理解される文になることはないと言える。

7. 4 反語の「どうして」文のまとめ

以上、疑問の「どうして」文と反語の「どうして」文を意味的、構文的に区別し、さらに、反語の「どうして」文を構文レベル、談話レベルで議論した。

「どうして」は「理由・方法」という性質を持つ空欄で、話し手がその空欄の内容を積極的に明確化しようとし、それが聞き手によって実現できる場合は疑問文、明確化できない場合は反語文と考えた。反語文においては、文末は可能動詞、疑いのモダリティ形式で構成されており、「疑い」を表す文意となることを述べた。普通体の文末に対して丁寧体の文末もあるが、一見聞き手目当てのようではあるが、聞き手からの回答は求めている反語本来の性質を有することが明らかになった。最後に反語の「どうして」文は文語調の文体で用いられることを述べた。

8 まとめ

本章では、疑問語疑問文形式の文が反語解釈される場合について、「誰が」文、「どこが」文、「何が」文、「どうして」文をとりあげ、構文レベル、意味レベル、談話レベル、語用レベルで議論した。各疑問語で議論の内容および構成が異なるのは、その反語文が疑問語によって有する性質が異なる所以である。ただし、共通して言えるのは、疑問語疑問文形式の文というのは、疑問語がそれぞれの概念の性質を持つ空欄であり、話し手が積極的に空欄の内容を明確にしようとし、聞き手がその問いについて明確にできると期待する場合が疑問文、一方、空欄の内容を明確にできない場合が反語文という考え方である。その空欄の内容の性質というのは、「誰が」文であれば「人」、「どこが」文であれば「場所・部分」、「何が」文であれば「物体・事柄」、「どうして」文であれば「理

由・方法」であり、話し手にとって欠けている情報と言える。

反語の「誰が」文には可能動詞述語および疑いのモダリティ形式が多く見られることから、「人」の能力や可能性に疑いを持ち、全量否定するという働きがあることを述べた。また、目的語の概念の程度の甚だしさによって却って事態の実行が難しくなることを強調する性質があることを示した。談話レベルでは、「誰が」文は、他に誰もいないという除外の意味が働くため、逆にある人物に限定する働きがでてくることを述べた。

また、語用レベルの考察では、話し手と聞き手（読み手）の共通理解や、文脈による理解によって、反語文か疑問文かが判別され、特に「誰が」文一文のときはなおのことその傾向が強いことを明らかにした。

反語の「どこが」文については、「どこが N/A だ」は期待を裏切られ、失望したり、逆にとまどいや苦笑に変えたりする文意があり、「N₁のどこが N₂だ」は「N₁ ≠ N₂」ということのを伝えるとともに、不快感などを表すことができることも述べた。この二つの文型の原則によって意味レベルにおいても談話レベルにおいても反語文の含意を説明可能にしたのであった。

反語の「何が」文については、能力主体をニ格表示することで述語が「できる・わかる」の「何が」文は反語表現となることがわかった。また、談話内の前後の文脈から、「何が N だ」によって、話し手の怒り、呆れによる相手発話あるいは事柄の否定がなされることを述べた。「何が N だ」という構文、つまり N について実体のない状態を表していることから考えると、やはりそれらの感情の根底にあるのは「不審」ではないかと考えた。

最後に「何が悪い」と「どこが悪い」の相違を検討した。

「どうして」文は、可能動詞、疑いのモダリティ形式が述語の文末に現れる傾向があり、文に疑いの意味を加えることを述べた。「どうして」文に語用論的な働きはなく、「どうして」と言われればそれは疑問文と解釈されることを明らかにした。

今後は、さらに他の用法はないか探求し、緻密に考察を進めることが課題である。

第6章 肯否疑問文形式の反語文の特徴

1. はじめに

疑問文には、肯否疑問文、疑問語疑問文、選択疑問文があるが、このうち、肯否疑問文、疑問語疑問文は条件がそろえば反語解釈することができる。

反語文とは次のようなものがある。

- (1) 専用形式を用いた反語文
- (2) 疑問語疑問文形式の反語文
- (3) 肯否疑問文形式の反語文

(1)の専用形式を用いた反語文とは、「ものか」「たまるか」「たまるものか」が文末についた反語文で、例えば「ゆうれいなんかいるものか」のような文である。話し手の主張を強く訴えかける文であり、疑問文とは混同されないという特徴がある。この形式の反語文については本論文第4章で述べた。(2)の疑問語疑問文形式の反語文とは、「あいつのどこがすごいんだ」「そんなことやって何になる」のように「誰」「何」「どこ」「どうして」を用いた疑問語疑問文が、ある条件のもとに反語文になったものである。この形式の反語文については本論文第5章にて述べた。本章で扱うのは、(3)の肯否疑問文形式の反語文である。

肯否疑問文とは、Yes-No 疑問文あるいは真偽疑問文とも呼ばれるが、話し手が物事に対する肯定否定の判断を保留しており、聞き手に判断をゆだねるものである。肯否疑問文形式の反語文というのは、肯否疑問文の形式をとり、聞き手に問いかける一方で肯否逆の主張を強く述べるというものである。次の(4)のような例である。反語文と疑問文が形態的に類似している例でもある。

(4) 出木杉「その中に宝が？」

のび太「これが宝だって。」

出木杉「石貨か…。」

のび太「こんな重い物もっていけるか!!」(去る)

出木杉「せっかくだからいちおうもっていこう。」

(藤子・F・不二雄『ドラえもん』)

「こんな重い物もっていけるか」はこの文だけ見ると、疑問文にも解釈できる一方、反語解釈することも可能である。当該発話文が疑問文であるか反語文であるかを区別するには、イントネーション、否定的語句、「は」と「が」の交替、文脈が手がかりとなる。反語解釈の条件を研究するには、音韻レベル、語彙レベル、構文レベル、語用レベルの広範な議論が必要であるが、これら全般にわたった研究はない。反語文は文脈によって解釈が決まることが多いという認識は第 2 節で示すように先行研究でもなされているが、語用レベルでの議論は十分なされているとは言えない。

そこで、本論文では、肯否疑問文形式の反語文を取り上げ、反語文を疑問文と区別する要因を考察する。そして、特に構文レベル、語用レベルに焦点をあて、肯否疑問文形式の文がどういう場合に反語解釈されるかということ明らかにする。

2. 先行研究

現代日本語の反語研究において、反語解釈に語用的要素がかかわってくることを指摘したものが無いわけではない。仁田（1991：150）では、「反語表現の含む判断の主張、確認・同意の要求は、常に、一定、絶対であるというのではなく、様々な状況・文脈といった運用論的な条件のあり方によって、微妙に変化するものである」と述べられており、「運用論的な条件のあり方」の重要性が指摘されている。しかし、仁田（1991）では、反語表現の解釈において、運用論的にどのような条件が必要とされているのかといった具体的な議論はなされていない。

このように、従来の反語研究では、運用論的観点からの分析の必要性は認識されてきていた。しかし、本格的には追究されず、それぞれの反語文の意味を解釈するだけの説明に終わっていた点に限界があった。

この状況の中で、肯否疑問文形式の反語文について、文脈依存性の高さを指摘したのが安達（2004）である¹⁵。

(5) 「ボクシングでわかり難ければ、野球でも、競争でもいい。子供を誘

¹⁵ 本稿の「肯否疑問文形式の反語文」は、安達(2004)では、「真偽疑問文の〈反語解釈〉」と呼ばれる。

拐して、必ずホームランを打て、と脅されれば、ホームランが打てますか？百メートルを九秒で走れ、と脅迫されればそれができますか？」

(岡嶋二人『タイトルマッチ』下線安達)

安達(2004: 38-39)は、(5)について次のように述べている。

話し手は妥当性が低いと思われるある事態を聞き手に問いかけている。(略)このように、聞き手を巻き込んで、ある事態が不可能であり、あり得ないという解釈を得るプロセスを完成するというのが真偽疑問文の〈反語解釈〉の典型的なあり方だと思われる。(略)〈反語解釈〉は文脈依存性が高いため、聞き手がその解釈を当然のものと思わなければ、話し手の意図に反して、通常の〈質問〉として解釈されることもあるので、反語的な疑問文には、先行文脈がその解釈を助ける例が多い。

この場合の「妥当性」とは、先行文脈あるいは話し手の発話が話の場において聞き手にとって適切であるかということの意味すると考えられる。

話し手が「妥当性が低い」と思われる事態を聞き手に問いかけて、ある事態が不可能である、あり得ないという解釈を得るというプロセスは、首肯する。なぜなら、安達(2004)が数少ない例として挙げている次の例(6)も「妥当性の低さ」で説明できるからである。

(6)「貴様も、ご多分にもれず、株の暴落で青色吐息の口か？」

「阿呆いえ！このおれが、こんなデフレの最中に、株に手を出したりする

かい。とうの昔に手仕舞うとるがな！」

(梶山季之『赤いダイヤ(上)』下線安達)

上の(6)は、可能動詞・存在動詞以外の動詞の例である。(6)では、「株で青色吐息か？(株に手を出して、苦勞しているのか)」という先行文脈に対して、「株に手を出す」という妥当性の低いことはとうの昔からしていない、と回答しているのである。

ただし、安達（2004）では、先行文脈に対する反語文の妥当性が低いことについて、反語文の述語が可能動詞である場合の検証しか行っていない。存在動詞述語文、およびその他の動詞述語文についての考察になると、述語のテンスに関心が移り、「過去形を用いてもよい状況で非過去形が用いられ、（略）一般性の高い事態として聞き手に判断を求める表現を選択する傾向」を示している、と述べる（安達 2004：40）。一方で、可能動詞述語以外にも妥当性が適用されるかという問題は取り上げられなくなる。

このように、反語解釈に関わって、妥当性という重要な概念を提示しながら、その概念については未だ議論の余地が残されている。

3. 研究の方法と構成

本研究を実践する方法としては、実例を用い、帰納的に分析を行う。ただし、文法の説明のために便宜的に作例を用いることもある。

肯否疑問文形式の反語文の場合、専用形式を用いた反語文や疑問詞疑問文形式の反語文とは異なり、「ものか」「たまるか」「たまるものか」「誰が」「どこが」「何が」「どうして」といった文字化したマーカーが常にあるとは限らない。

(7)俺がお前に嘘ついたこと、ある？

(江國香織『間宮兄弟』)

(7)は、反語文であることを示す文字化されたマーカーが存在しない。このような反語文を本稿では「無標の反語文」と呼ぶ。無標の反語文があることは、国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（以下、BCCWJ）による反語文の網羅的な用例の収集を難しくする。

そこで、本章では、研究対象を「か」「かい」を文末に持つ肯否疑問形式の反語文および疑問文に絞った。本稿では前者を「反語の『か』文」、後者を「疑問の『か』文」と呼ぶ。

用例は、BCCWJ と漫画、小説から収集した。反語の「か」文の例は合計 586 例であった。文末に「か」を持つ疑問文は BCCWJ では、134,626 例あったが、その中から疑問の「か」文と判断されるものをランダムに 5,300 例のみ抽出した。

本研究の構成は、以下のとおりである。第 4 節で反語文を疑問文と区別す

る要因を考察する。ここでは第 1 節で述べた、イントネーション、否定的語句、主題化と非主題化、文脈それぞれについて考察する。第 5 節では、反語の「か」文の構文レベルの議論を行う。文の主題化と非主題化をとりあげ、反語の「か」文が非主題化している理由を、文の構文レベルから明らかにする。第 6 節では、反語の「か」文の語用レベルの議論を行い、話し手と聞き手のどのような認識のもとで反語解釈がなされるかということ考察する。第 7 節では、まとめを行う。

4. 反語文を疑問文と区別する要因

4.1 イントネーション

反語文は疑問文と形態的に類似している場合が多い。そこで本研究の第 5 節と第 6 節で考察を行うにあたって研究対象を明確にする。そのために、本節では、反語文を疑問文と区別する要因を論じておく。ただし、本節で述べている個々の要因が一つでもあれば、というものではない。それぞれの要因が互いにかかわりあって、反語文が構成される。

反語文というのは、修辞疑問文と言われるようにレトリカルな表現である。つまり、話し手は一旦聞き手に問いかけておきながら、肯否逆の強い主張を行うといういわば矛盾した表現方法である。例えば、(8)の下線部では、話し手は(9)の下線部のように述べた方が聞き手により誤解なく発話意図を伝達することができる。

(8)のび太「つめたくなくて、広くてすいてて、ぜったいおぼれないプールをだしてよ。」

ドラえもん「そんなのあるか。」

「までよ…。あれをつかってみるか。」

『うきわパイプとタバコ!!』

(藤子・F・不二雄『ドラえもん』)

(9)「つめたくなくて、広くてすいてて、ぜったいおぼれないプールをだしてよ。」

「そんなのない!」

にもかかわらず、(8)では「そんなのあるか」と述べているため、聞き手(読

み手) は、この発話を疑問文として解釈し、「あるよ」と回答することも可能である。そうすると、そのあとの談話展開が変化する可能性がある。結局は、(8)は下降イントネーションで発話されるか、上昇イントネーションで発話されるかによって、反語文か疑問文かが分かれてくる。この場合下降イントネーションで発話されれば反語文、上昇イントネーションで発話されれば疑問文であると解釈できる。ただし、(7)のように、上昇イントネーションで発話される反語文もあるため、本論文ではこの現象を原則論で捉える。

文末が「基本的に」上昇イントネーションで発話されるか、「基本的に」下降イントネーションで発話されるかで、文の意味が変わってくる場合がある。イントネーションは文意の理解の手がかりになる。

4. 2 否定的語句による反語化

反語の「か」文は、命題内容を否定的に理解させる語句によって反語解釈が容易になる場合がある。本論文では否定的語句と呼ぶ。否定的語句による反語化というのは、その文の中で否定的表現と呼応する語句や、その言葉自体が否定的表現である場合に反語化が起きる現象のことを言う。例えば次の(10)(11)(12)の「一枚でも」「いまさら」「やられる」がそうである。

(10)のび太「お母さん！わが家のアルバムをみてください。」

お母さん「アルバムがどうかしたの。」

のび太「その中に一枚でも家族そろってお花見してる写真がありますか！」

お母さん「なにもわざわざ人ごみの中へいっておべんとう食べなくても。」

(藤子・F・不二雄『ドラえもん』)

(11)ヒロシ「さあ 高速に入るぞ いよいよドライブの本番だ」

姉「…今度は事故ったらホントに死ぬね…」

じいさん「ヒッ ヒロシッもういいから帰ろう」

まるこ「おとうさん帰ろうっ」

ヒロシ「ばかっ いまさら帰れるかっ」

(さくらももこ『ちびまる子ちゃん』)

(12)御子柴・関川「草ひき!?!」「二人で？」

川藤「二人しか集まらなかったんだからしょうがないだろ」「あとから俺も一緒にやる」

関川「じょ…冗談じゃねーよ！これから他の部の奴も出てくんだぜ！ やっつけられっか、そんな事！」

川藤「朝早くとか夜中にわざわざ来てやりたいか？ どーせやらなきゃならん事ならできる時にやった方がいいだろ」

(森田まさのり『ROOKIES』)

(10)の「一枚でも」と言えば続くのは「ない」という否定の表現で、一枚もないのだから、二枚も三枚も、そして全くないという反語の全否定の解釈が成り立つ。(11)の場合の「いまさら」も今になってはもうだめだ、という意味なので「ない」という否定的表現と呼応する。(12)の「やっつけられっか」は「やっつけられる」という肯定の表現が、「やっつけられっか」という否定的な慣用的表現として用いられる語句である。このような否定的語句があると文は否定的表現に解釈されやすく、文も容易に反語化される。

4. 3 非主題化現象

疑問文では主語を「は」でとりたてて主題化するが、反語文では主語をガ格表示し、非主題化する。次の(13)の「おまえが女も抱かずに寝る男か」を主題化すると、「おまえは女も抱かずに寝る男か」という疑問の「か」文になる。しかし、この疑問の「か」文を非主題化すると反語解釈が成り立つ。

(13)「泊ることはつきあいで泊ったが、おなごとねたりなんぞしやへん、それに誰にきいてみてもわかることや、な、堪忍して、この通りや堪忍して」

「岡場所みたいなどこへ泊って、おまえが女も抱かずに寝る男か」

「ほんまのことやて」文華は云い張った。「自分でもなぜかいなあと
思ったくらいや」

(山本周五郎『ちいさこべ』)

このような、疑問文なら主題化するところを非主題化することによって反語

文となる。それがなぜなのかということは第5節において論ずる。

4. 4 文脈の妥当性

第2節「先行研究」でも指摘したが、妥当性というのは、先行文脈、あるいは話し手の発話が話の場において聞き手にとって適切であるかということの意味する。妥当性が低いと反語文になり、妥当性が高いと疑問文になる。

(14) 「やあ、こりゃ堀田先生！」

と大げさな声を上げる。

「誰だ？」

「<Nタイムス>の浜中です。お忘れですか？」

「記者か。いちいち、記者の顔なんか憶えていられるか」

と、仏頂面。

(赤川次郎『危いハネムーン』)

(14)は、「浜中です。お忘れですか？」という話し手の問いに対して、聞き手は「憶えていられない」と「浜中」を記憶にとどめておくことが難しいことを述べている。この場合、「誰だ？」という先行発話があることから、堀田は相手のことを憶えていないことが明らかである。したがって「記者を憶えていられる」ことは妥当性の低いことである。一方、次の例は妥当性が高い。

(15) 「でも、太田さんと川北さんが知り合いだったなんて、ね」ルリちゃん

が、感心したようにいう。

「太田さんとおっしゃるんですか？」 彼は訊いた。「太田新作です」 中年男は会釈した。「まだ名刺は作っていないんですが…あれから、この近所の工事場で働いています」

(眉村卓『魔性の町』)

「太田さんと川北さんが知り合いだったなんて」というルリちゃんの発話から、聞き手は「太田さんとおっしゃるんですか」という先行文脈にしたがった問いを投げている。ルリちゃんが、話し手の川北さんが太田さんと知り合いだった

ことを示したため、「太田さんとおっしゃるんですか」は先行文脈を確認する問いであり、発話の妥当性が高い、疑問文である。

では、先行文脈からの妥当性の高さ低さを聞き手（読み手）はどのように判定しているのか、ということが問題になる。

その解釈のメカニズムについては、主に第 6 節「反語の『か』文の語用レベルの議論」において明らかにする。第 5 節「反語の『か』文の構文レベルの議論」では反語解釈がなされるための文の構造を考察する。各節の構文レベルで述べることと語用レベルで述べることは複雑にかかわりあっており、両方の要因から反語解釈は成り立つ。

5. 反語の「か」文の構文レベルの議論

5. 1 反語文の命題のスコープ

本節では、反語の「か」文の構文レベルの議論を通して、反語解釈が成り立つとき、なぜその文は非題目化されるのかを明らかにする。

その中で、特に反語解釈成立の要因として重要なのは、疑問文と反語文で最も異なる構文的事象の一つで、「は」と「が」の使い方である。反語文が非主題文になる理由が問題になる。

以降、反語文の命題のスコープ、反語文の階層構造、文脈内で反語文はなぜ非主題文になるかという観点から、考察を行う。本節では、非主題化した文である反語文の命題のスコープという観点から、当該文の性質を考える。

(16) 「君は直也君のために、復讐したのかと思ってたけど」

私は呟いてみた。

「俺がそんなことするか」

秋月はせせら笑った。「センセイはまだ人を見る眼がないな」

(森見登美彦『きつねのはなし』)

「俺がそんなことするか」は反語文であり、主語は「が」を用いて非主題化されている。しかし、含意は(17)のようになる。

(17) 俺 ハ ソンナコトシナイ。

反語文では「が」だったところが、(17)のように含意は「俺ハソンナコトシナイ」となり、(16)の主格の「が」は「は」として現れる。

反語文の非主題化現象は「か」文に限ったことではなく、専用形式を用いた反語文の(18)「ものか」文、(19)「たまるか」文、そして(20)の無標の反語文と、反語文全体にわたって見られる。

(18)俺がそんなことするものか。

(19)俺がそんなことしてたまるものか。

(20)俺がそんなことする？

(16)(18)(19)(20)の構造は、野田（1996：181-188）の「従属的な文」におけるスコープを表す文の「が」と考えることができる。つまり、次のようになる。

(16')俺がそんなことをするトイウコトガアルか。

(18')俺がそんなことするものか。

(19')俺がそんなことしてたまるか。

(20')俺がそんなことするトイウノカ？

(16')はトイウコトガアルという形式を挿入することによってコトでスコープを示し、「俺がそんなことをするコト」を「か」で否定するのである。(18')の「ものか」の「もの」は形骸化した名詞であるが、この「もの」がスコープを示す。(19')は「てたまるか」の「て」は接続助詞としての従属性がなくなっており、「てたまる」が一体化して全体でスコープを表す。(21')は、「トイウノカ」という形式を接続させ、その中の「ノ」が名詞性が強いいため、そこでスコープを表すことができる。

以上のように、ガ格成分が命題「コト」のスコープの中に入っているため、反語文は非主題化しているのだと考えられる。

5. 2 反語文の階層構造

次に、なぜ反語文が非主題化されるかを文の階層構造から分析する。

反語文は非主題文であると上述した。主語が「が」で主格成分となっている

場合、中立叙述¹⁶と考えるか、排他¹⁷の意味と考えるかを考察する。その結果として、肯定と否定の関係と反語文の成立のメカニズムについて述べる。例えば、(16)の「俺がそんなことするか」は「他ガドウカハ問題デハナイ。他デモナイ俺ハソソコトシナイ」という排他的な意味に解釈することができる。「俺がそんなことするか」は疑問文形式の文であるが、表面的には肯定文としての疑問形式の文である。否定文であるのは、含意の「俺ハソソコトシナイ」である。

「排他」の「が」の階層について、野田（1995：18）では例をあげ、次のように述べられる。

(21)電話があったら、知らせてくれ。 (野田 1995：18(55))

(22)こっちの方がきれいだ。 (野田 1995：18(56))

(21)は中立叙述の文である。(22)は排他、総記などと呼ばれる文といえ、肯定の述語とは呼応するが、否定の述語とは呼応しにくい。

(23) *こっちの方がきれいではない。

上述したが、野田(1995)に従うと、反語の場合の「俺がそんなことするか」の「俺が」の「が」は否定には呼応せず肯定に呼応する排他の「が」である。(16)で言えば、「俺が」は述語動詞の「する」と呼応し、「俺がそんなことをするコト」を聞き手に問いかける。一方、含意の「俺は」は「俺ハソソコトシナイ」で、主題は文末の「ナイ」にまで呼応し、否定文を構成する。

王（2003：15）は「否定は肯定に依存しなければ存在しない概念である」と述べる。肯否関係と、反語のメカニズムはどう考えればいいのか。

王の言及をもとに反語文と含意の関係を考える。まず、話し手の脳裏に否定文の含意（本意）が浮かぶ。話し手はその文を強く強調したために、逆の肯定文で発話し、問いかける。その肯定の問いかけが排他の意味の働きによってガ格表示される。そして、聞き手に反語として伝達され、否定文が回答として想起されることによって、話し手の含意（本意）が伝わる、という仕組みが考

¹⁶ 「中立叙述」は久野（1973）の用語。

¹⁷ 「排他」は久野（1973）では「総記」とされている。

えられる。

含意が否定文で主題化され、反語文が肯定文で非主題化される要因と言える。

5. 3 文脈から見た反語文

最後に、反語文の場合はなぜ非主題文になるのかということを文脈から議論する。

まず、野田（1996：121 - 122）は、「主題をもつ文になりやすい主格名詞」として次の名詞(24)を挙げている。

(24) (ケ) 話の現場や前の文脈と関係のある名詞

(コ) いつでも聞き手の意識の中にある名詞

そうすると、(16)の「俺がそんなことするか」の「俺」は先行文脈の「君」と同一であり、前の文脈と関係があるといえる。しかし(16)は「主題をもたない文」であり、野田（1996）の指摘（24）が当てはまらなくなる。

ちなみに、主題をもたない文になりやすい主格名詞は、野田（1996：123）では(25)とされており、やはり（16）に当てはまらない。

(25) (シ) 話の現場や前の文脈にないものを指す名詞

やはり(16)の「俺」は前の文脈で「君」と指されており、(シ)の「前の文脈にないものを指す」には当てはまらない。

では、疑問文ではどうか。疑問文においては、野田（1996）の主題をもつ場合と主題をもたない場合の条件と同様であると考えられる。

(26)は、先行文脈で「足」が話題になっており、したがって下線部の「あなたの足」は、話の現場や文脈に関係のある名詞であり、野田(1996)の述べるように、主題をもつ文に入りやすい主格名詞である。

(26)また、足自体の変形や、皮ふの具合を見ることで足の健康度を知ることができます。(中略)たとえば、足の内側の指が痛む、かかとが痛い、すねの筋肉が疲れやすい、などといったことです。これも、チェックシートに記入してみましよう。 さて、あなたの

足は健康でしたか？足の症状チェック表あてはまるところに○をつけて下さい。

(古藤高良『正しい靴の選び方 足と歩きにこだわる人へ』)

(27)の「それが、ステロイドですか？」の「それ」は(25)にはあてはまらないが、文自体は野田(1996: 96 - 106)の「君が主役だ」構文で、「[伝えたいこと]が[主題]だ」のように、述語が主題になっており、且つ名詞が使われている。主格名詞は「話の現場や前の文脈にあるものを指す名詞」とされる。

(27)主治医に電話をして午前三時に緊急入院しました。レントゲンで肋骨の骨折が判明したのです》

次の会話は、ご主人の規男さんと私とのやりとりです。

「いつも高熱が出て入院となるようですね」「はい、もうありとあらゆる症状が出てこれは我慢ならないなつてところで入院します。そこで、プレドニンっていう副腎皮質ホルモンの治療がはじまるのですね」

「それが、ステロイドですか？」

「そうですね。それを先生が症状によって三十ミリグラムとか四十ミリグラムとか調合するわけです。

(宮本美智子『カラダ革命の本』)

上述のように、疑問文の「は」と「が」の用いられ方は、平叙文と同じであると考えてよい。一方、反語文の場合においては、「は」と「が」の用いられ方が平叙文および疑問文と異なっているということが言える。

すると、反語文において主語が「が」で表示される非主題化文となることについて、次のように考えることができる。

主語の名詞が先行文脈と関係があるにもかかわらず非主題化した文が反語文であり、疑問文の「は」と「が」とは文脈内の用法から見ると異なっている。その違和感からレトリカルな解釈が生じるのである。反語文を述べるときは主語を「が」に変える、という機械的な作文法では反語表現の本質を見たとは言えない。非主題化した疑問文形式の文の場合は反語解釈されやすいという見方をするのである。

以上、非主題化文と主題化文が、それぞれどのような文法的用法を発揮するかという観点から、反語の「か」文の解釈条件について考察を行った。

6. 反語の「か」文の語用レベルの議論

本節では、語用レベルにおいて反語の「か」文を考察し、文の妥当性がどのように判断されるかということをも明らかにする。

(28)その上、おれは彼に何度も殺されかけている。たった一回謝られたくらいで、信頼関係など築けるわけがない。書庫の奥に駆け込むしかなかった。このままでは確実に追い詰められる、そう判ってはいるのだが。

「おい！教えて欲しいだけなんだ、本当だ、傷つけるつもりはない」

「信じられるかっ」

追ってくる影は片脚を引きずり、脇腹を腕で押さえている。だらりと下がった左肩も、正常な状態ではなさそうだ。

(喬林知『地には☉のつく星が降る！』)

(28)は、先行文脈で述べられている点線部「おれは彼に何度も殺されかけている」事実から、「傷つけるつもりはない」と聞き手である「彼」に言われても「信じられる」ことは話し手にとってこの文脈では妥当性の低いことである。つまり、あり得ないことなのである。したがって、「信じられるかっ」の含意は否定の「信ジラレナイ」になる。話し手は、「信じられるかっ」で肯否逆の意味を伝え、情報を提供しているわけであり、聞き手に質問の回答を求めているわけではない。では、どうして「信じられるかっ」が「信ジラレナイ」という意味であることが聞き手である「彼」ならびに読み手に伝わるかということ、話し手と聞き手（読み手）の「経験」による「共有認識」であると考えられる。つまり、「何度も殺されかけている」という経験から、「傷つけるつもりはない」という発話内容は容易に結びつくものではなく、それは話し手側も聞き手側も共通して有する認識である。実際に何度も殺されかけた人間がそういるはずもない。しかし、ここでいう「経験」とは聞き手（読み手）が「こういう場合はこうなる、あるいはこう考えるはず」という「 $P \Rightarrow Q$ 」の論理を必然的に組み立てられる、それまで生きてきて学んだ「常識」にも類するものである。その経験に

基づく概念が話し手と聞き手の間に共有認識されると、反語表現が反語表現として理解されやすくなると言える。

以上、肯否疑問文形式の反語文の「か」文を語用レベルで考察した。話し手と聞き手（読み手）それぞれの経験に基づく概念が共有認識されると、文脈で述べられている発話の妥当性が高いか低いか判断されやすくなり、妥当性が低ければ反語表現として理解されるということが言える。

7. まとめ

以上、現代日本語の肯否疑問文形式の反語文（本稿では反語の「か」文）の、疑問の「か」文との区別のされ方、また、文の構造、文脈内での反語解釈され方を議論した。

反語の「か」文を疑問文と区別する要因として、基本的に下降イントネーションであること、否定的語句があること、非主題化していること、先行文脈の当該発話に対する妥当性が低いことをあげた。

構文レベルでは、反語文が非主題文であるのは、次の3点による。

- ① 主格成分は反語文の命題「コト」のスコープに入る。
- ② 否定は肯定に依存しなければ存在しない概念である。話し手の脳裏の主題化された否定の含意が、肯定文として問いかけられ、非主題化されて反語解釈がなされる。その結果、問いかけに対する回答として、否定文の含意が聞き手の脳裏に伝達されることになる。
- ③ 文に違和感をもたせ、レトリカルな解釈を生じさせるため、反語文の文脈内の「は」と「が」の用法が疑問文の用法とは異なるようになっている。

語用レベルでは、話し手と聞き手（読み手）それぞれの経験に基づく概念が共有認識されると、先行文脈からの発話の妥当性の高さが判断されやすくなることが明らかになった。妥当性が低ければ反語表現として理解されるということが言える。

第7章 結論

1 はじめに

以上、現代日本語の反語表現についての研究を行った。

研究の方法は、実例をもとに記述したが、文法的説明のために便宜的に作例を用いたところもある。用例は主に国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)から収集し、分析のために用例が量的に足りないと思われる場合は、漫画、小説から手作業で用例を収集した。

本研究では、反語表現を、「疑問文の形式をとり、問いかけの機能を持ちながらも、話し手は質問に対する答えを既に知っており、もとの命題とは逆の否定的事態を聞き手に強く主張する、あるいは想起させるもの」と定義した。

この定義のもと、反語表現を形態ごとに、専用形式を用いた反語文、疑問語疑問文形式の反語文、肯否疑問文形式の反語文の3種類に分類した。これらは反語文といってもそれぞれ異なる性質を持っていた。専用形式を用いた反語文は、文末に「たまるか」「ものか」「たまるものか」という専用マーカ―をもち、疑問文と混同されないという特徴がある。また疑問語疑問文形式の反語文では現れる疑問語によって反語文の性格が異なっていた。また、肯否疑問形式の反語文については疑問文との区別が主な問題となっていた。

本論文では、構文レベル、意味レベル、談話レベル、語用レベルの側面から議論を行ったが、上述したように、反語文の性質が形式や、文に現れる疑問語で異なるため、分析のレベルもその反語文の特徴に特化したものとなった。構文レベルの議論では、構文的にどのような特徴があるかということ考察した。意味レベルの議論では、当該文がその文だけでどのような意味を発揮するか、ということ考察した。談話レベルの議論では、複数の文のまとまりという単位の中で、当該文が前後の文脈とどうかかわっているかを考えた。語用レベルの議論では、当該文が話し手と聞き手の間でどのような状況において発話されているかを考察した。

本章では、第6章までに考察した内容を振り返り、現代日本語の反語の全体像をまとめる。

本論文の第1章は、研究の対象・目的・方法を述べた。

第2章は先行研究と本研究の立場を述べた。

第3章では、反語文と疑問文は形態的に類似しているため、両者を区別する

条件を整理した。①イントネーション、②文脈の支え、③語句による反語化、④構文の定型性、⑤疑問語の実質化の困難さ、⑥先行文脈と当該発話内容との妥当性をあげた。

第4章では、専用形式を用いた反語文、第5章は疑問語疑問文形式の反語文、第6章では、肯否疑問文形式の反語文について、それぞれの特徴を述べた。

以下、専用形式を用いた反語文の全体像、疑問語疑問文形式の反語文の全体像、肯否疑問文形式の反語文の全体像をまとめ、最後に本研究における関連分野に対する意義と貢献および今後の課題を述べる。

2 専用形式を用いた反語文の全体像

専用形式を用いた反語文とは、専用形式「(て) たまるか」「ものか」「(て) たまるものか」を文末に持ち、疑問文との解釈の混同がなく、その文では反語文にしか解釈されない文である。「<連体修飾節+ヒト名詞>+があるか」文も同様に反語にしか解釈できない。

「たまるか」文は、動詞テ形に接続し、かつ収集した用例の約半数の動詞が受け身形であった。ただし、迷惑受け身文だけでなく、間接受け身による迷惑受け身文、直接受け身文も「たまるか」文に埋め込むことができる。受け身形に接続しない場合もある。いずれにせよ、意味レベルでは、心理的に不快だが抵抗可能な事態に対して、迷惑を阻止する、あるいは拒否する意味合いを加える用法がある。話し手が積極的に望んでおらず、求めていることを表すという点で、一貫している。そのため、この場合、「たまるか」文はマイナス方向の感情を表すことになる。

「ものか」文は、「名詞+な」「形容動詞+な」「形容詞辞書形」「動詞辞書形」の形態に接続する。名詞、形容詞、形容動詞に接続した場合は、談話内において、直前の先行文脈の一部を繰り返す形になる。動詞に接続した場合は、「意志動詞辞書形を述語にもつ命題+ものか」は「話し手の強い否定的意志」を、「無意志動詞辞書形を述語にもつ命題+ものか」は「話し手の強い否定的確信」を表す。「ものか」文はマイナス方向の感情だけでなく、プラス方面の感情も表す。

「たまるものか」文は、助動詞相当語句の「(て) たまるか」と終助詞相当語句の「ものか」が承接した単位で、意味的には話し手の強い拒否、拒絶の意思表示があると見られ、マイナス方向の感情を表す。

「＜連体修飾節＋ヒト名詞＞があるか」文は、反語文にしか解釈できない定型文である。「ヒト名詞」に該当する語は「奴」「馬鹿」「人」などがある。「このような人物はいるか、いやいない」というように、目の前の人物を責めたり、叱責したりするときに用いられる。

3 疑問語疑問文形式の反語文の全体像

疑問語疑問文形式の反語文は、「誰」「どこ」「何」「どうして」といった疑問語によって成り立ち、全量否定、すなわち「誰も／どこも／何も／どうしても～ない」という解釈ができる。「どこに」では「どこに＜存在動詞＞」「何に」は「何になる」という定型があるため、本論文では、主格成分として用いられ、述語にバラエティのある「誰が」「どこが」「何が」と「どうして」を対象に研究を行った。

疑問語が変わればそれぞれの反語文の構文レベルの特徴や、語用レベルの様相は異なってくる。また、当該反語文を、例えば意味レベルで分析したほうがいいか、談話レベルで分析したほうがいいか、といった問題に一つ一つ直面するのも、疑問語疑問文形式の反語文の特徴だと思われる。それぞれの疑問語が主張の異なる文を構成するため、疑問語によって、分析のしかたが異なってくるのである。

疑問語疑問文形式の反語文は、通常の疑問語疑問文と形態的に類似しているため、第5章でも、それぞれの疑問語による反語文について、反語文と疑問文がいかにして区別されるかを考察した。どの疑問語にも共通して言えるのは、疑問語というのは、内容が不明、不定の不定語である。その疑問語がいわば空欄で、話し手が不明部分の明確化を求めていくのが疑問文で、不明部分である空欄を明確にしようとしてもその事態が成り立たないのが反語文であるということである。

まず、「誰が」文の特徴についてまとめる。

「誰が」文を構文レベルで見ると、述語の可能動詞のうち、収集した用例170例のうち147例(87%)の文末形式が疑いのモダリティであることを指摘した。「誰」は「人」であるから、能力や可能性を有することができる存在である。疑いのモダリティを用いて、その可能性を疑うことによって、当該能力や可能性を持つ人がいることを全否定する働きがあることを明らかにした。また、「誰が」文は、目的語の連体修飾句の概念が甚だしい場合があるが、そ

れは蓋然性が著しく低い、あるいは高いために、誰も受け入れられない、誰もそのことを実現できそうにないという意味が生じることによることを明らかにした。

意味レベルの議論では、「誰が」文は「限定」の文意が生じる。「誰が」文は、「お前がやらなくて」「私たちが探さなかったら」といった否定的条件節や、「ほかに」といった「なにもない」という否定的概念を想起させる表現があり、そういった否定的条件節や表現が話し手が意図する人物を限定することにつながることを明らかにした。他にいなければその人だけに限定されるのだという文意である。

最後に「誰が」一文のときは、話し手と聞き手の共通理解や文脈によって反語文か疑問文かが判別されることがわかった。

次に「どこが」文の特徴についてまとめる。

構文レベルの考察では、形容詞述語文、名詞述語文を構成することがほとんどで、動詞述語文は意味的に形容詞性を持っている動詞しか述語にならないことを指摘した。形容詞述語となる形容詞は属性、評価を下す性質を持つものである。名詞述語となる名詞は、「どこが」文であっても反語文の場合は場所名詞は必ずしも現れない。

意味レベルの考察では、「動作・行為、事柄に対する評価」を表す「どこが」文を示した。そのうち、「どこがN（なの）だ」構文では、話し手がプラスの期待感やマイナスの期待感をもち、それらが裏切られたと感じた際に「呆れ、とまどい」の感情を表す効果を持つことを指摘した。「N₁のどこがN₂だ」の構文になると、「N₁ ≠ N₂」の意味になり、このことが、話し手の不快感や怒りといった感情を表現する効果を持つ結果となることを論じた。例えば、(1)の例である。

(1) うちの主人のどこがイクメンですか。とんでもない！

談話レベルの考察では、先行文脈の語句を引用したり、他の言葉で言い換えたり、その語句から連想される他の語句に置き換えたりする事例を扱った。例えば、次のような例である。話し手は波線部の「役人」から下線部「えらい」を連想して置き換えている。

(2) 「おまえらそれでも役人か！そんなこずるくなるために、歴史や地理を習ったのか！みんなのお役にたつのが役人だろう。弱い者いじめして、どこがえらいんだっ！」

(鈴木俊介『賢治のトランク』)

「N₁のどこがN₂だ」「どこがN/Aだ」のN₂やN/Aに先行文脈の名詞が引用されるため、意味も「N₁≠N₂」で不快感を表す。「どこがNだ」で意外性や呆れなどの感情を表すのは意味レベルで考察したと変わらない。言い換え、連想は、話し手自らの言葉に置き換えるわけであるから、話し手の主観の介入がある。文型は上述の通りの文型であることから基本的な文意は変わらない。話し手が言い換えたり連想したりする言葉が主観的であるということである。

語用レベルの考察では、聞き手（読み手）の知識によって「どこが」文が意外性を伴って反語解釈されることが可能になるということを示した。

次に反語の「何が」文の特徴についてまとめる。

構文レベルの考察では、「<ヒト名詞>に何ができる／わかる」という構文を取り上げ、能力主体をニ格表示することで反語解釈される原因について検証した。「<ヒト名詞>に」には対比性がないため、「何ができる」「何がわかる」も不定性は依然として明確化されないままの状態であり、その結果、この構文の場合、反語解釈されるとした。

意味レベルの考察では、「何がNだ」という構文について、Nにどのような語句が入り、また、「何がNだ」でどのような文の意味を表すか検証した。「N」の部分には、名詞だけでなく、名詞句、台詞、文相当語句というように、幅広い範囲で語句が入るところが、「どこがN」と異なる点である。また、「引用」を行う点も「どこがNだ」と類似しているが、「何がNだ」の場合、話し言葉で相手の口調まで引用する。つまり、口真似を「何がNだ」で行い、相手の発話を否定するところが特徴的である。さらに、「何がNだ」では話し手の対象に対する「呆れ」「無意味」「不審」といった感情を表すことも述べた。

談話レベルの考察では、上述の「引用」で「不審」を表すことを更に詳しく述べた。加えて、「動作・行為の言語化」として、「何が<感情形容詞>」の構文のときには、<感情形容詞>には「おかしい」が慣用的に入り、相手が笑っている様子を受けて、黙らせるためにすかさず発する表現であることを述べた。

語用レベルの考察では、「誰が」文、「どこが」文と異なり、「何が」一文で、確かに反語文にはなることはできるが、しかし、聞き手の既有知識による反語解釈を表すことはできないことを述べた。この現象の原因については、今後の課題である。

あわせて「どこが悪い」「何が悪い」の相違についても考察した。「どこが悪い」は「どこの部分が悪いかを問い、どこの部分も悪くないことを主張する」。「何が悪い」は「事柄全体がどのように悪いかを問い、開き直すことで、何も悪くないことを主張する」とした。

反語の「どうして」文についても考察を行った。

構文レベルの考察では、文末が可能動詞、疑いのモダリティ形式で構成されており、可能性に疑いをもつ文意となることを述べた。普通体の文末に対して丁寧体の文末もあり、後者は一見聞き手目当てのようではあるが、聞き手からの回答は求めている反語文本来の性質を有することを明らかにした。最後に反語の「どうして」文は文語調の文体で用いられることを述べた。

4 肯否疑問文形式の反語文の全体像

肯否疑問文形式の反語文は、文末に反語の文字マーカーをもたない無標の反語文もあり、そういうものを研究の対象に含めると用例の網羅的収集が難しくなるため、文末が「か」「かい」となっている例のみを収集した。反語文は「反語の『か』文」、疑問文を「疑問の『か』文」と呼ぶことにした。

反語の「か」文を疑問の「か」文と区別する要因として、基本的に下降イントネーションであること、否定的語句があること、非主題化していること、先行文脈の当該発話に対する妥当性が低いことを挙げた。

構文レベルの考察では、反語文が非主題化するのには次の3点によることを明らかにした。①主格成分は反語文のコトのスコープに入る。②否定は肯定に依存しなければ存在しない概念である。話し手の脳裏の主題化された否定の含意が、強調のため、肯定文となって問いかけられ、排他的意味の働きで非主題化によって反語解釈される。問いかけに対する回答として、否定文の含意が聞き手の脳裏に伝達されることになる。③文に違和感をもたせ、レトリカルな解釈を生じさせるよう、反語文の文脈内の「は」と「が」の用法が疑問文の用法とは異なるようになっている。

語用レベルの考察では、話し手と聞き手（読み手）それぞれの経験に基づく

概念が共有認識されると、先行文脈からの発話の妥当性の高さが判断されやすくなるということが明らかになった。妥当性が低ければ反語表現として理解される。

5 本研究における関連研究分野に対する意義と貢献

本研究における日本語学および日本語教育学に対する意義と貢献について述べる。

まず、日本語学では、従来、反語研究は確かになされていたが、専用形式を用いた反語文、疑問語疑問文形式の反語文、肯否疑問文形式の反語文の3種類が混在して述べられており、しかも、それぞれの文の意味を解釈する程度に終わっていた。「ものか」文と「たまるか」文の相違はもちろんのこと、「どこが」文と「何が」文の相違など、詳細な検証は行われていなかった。本研究の意義は、このように従来混在して観察されていた反語表現を整理したこと、反語表現と疑問表現の区別を明確にしたこと、構文レベルの特徴はじめ、従来必要性を認識されながらも手を付けてこられなかった意味レベル、談話レベル、語用レベルの特徴を明らかにしたことである。語用レベルの検証はまだ十分とは言えないが、今後反語研究を続けるための布石を打つことになったと思われる。

このように、日本語学においては、従来敬遠されてきたとも言える反語研究に体系的に取り組んだことに本研究の意義がある。

次に、日本語教育分野における意義と貢献を述べる。

本論文で、冒頭でも述べたが、最近の日本語学習者は、日本のアニメやドラマ、漫画、小説に魅力を感じ、学習の動機を高めている。しかし、アニメやドラマ、漫画、小説に反語表現が多く出現しているにもかかわらず、日本語教育界では、上級レベルになっても反語表現の微妙なニュアンスを教授することができず、学習者も質問しようともせず適当に流して理解しているというのが実態である。本研究において、反語表現を可能な限り詳細に検証し、文型とニュアンスの関係も明らかにした点は、日本語教育に貢献したと考えられる。今後、この研究が深まっていけば、日本語教育の幅広い実践に繋がると考えられる。

6 今後の課題

本研究では、①専用形式を用いた反語文、②疑問語疑問文形式の反語文、③肯否疑問文形式の反語文と、反語表現を3種に分けて考察し、①②③それぞれ

れの内部の相互の用法は、明らかにできた。しかし、この①②③の枠を越えた検証は十分ではなかった。例えば、①に属する「知るものか」と③に属する「知るか」の相違は明らかにできていない。日本語学習者も非常に興味を持っている問題であるが、今後の課題としなければならない。

次に、他言語との対照研究である。第6章で明らかにしたが、日本語では、「は」と「が」が交替することによって、疑問文になったり、反語文になったりする場合があった。英語は(1)のように、文の意味レベルで反語文を作る。

(1) Am I always going to have to pick up your clothes?

(私がいつも君の服を片付けないといけないのか。)

(D.ブレイクモア 1994 : 160-161)

中国語は「岂」「莫非～不成」が文中に現れると反語になるなど日本語でいえば「ものか」「どうして～ようか」のような形式がいくつもある。しかし、例えば語順が変わるといような現象はなさそうである。今後、日本語を他言語と比較することによって、日本語の性質を一層明らかにしたい。

7 謝辞

本博士論文を執筆するにあたって、熱心にご指導くださった大阪府立大学の西尾純二先生、審査において有益なご意見をくださった副査の高垣由美先生、山東功先生に心より感謝申し上げます。そして、常に精神的支えとなってくれた夫の尚志なくしては本論文は仕上がらなかったことも感謝とともに書き添えておきます。

用例出典

- 赤川次郎『危いハネムーン』新潮文
赤川次郎『三毛猫ホームズの追跡』光文社文庫
芥川龍之介『夢の蹄』新宿書房
あさのあつこ『時を超える SOS』講談社
麻宮笙『ツインムーンの封印』講談社
あすか正太『恋する国家権力』角川書店
我孫子武丸『殺戮にいたる病』講談社文庫
安部公房『人間そっくり』新潮文庫
池畑慶蔵『追憶』文芸社
乾一夫(著)/内田泉之助(著)『唐代伝奇』明治書院
狗飼恭子『冷蔵庫を壊す』幻冬舎
井上雄彦『SLAM DUNK』集英社
井上ひさし『ブンとフン』新潮文庫
江國香織『間宮兄弟』小学館文庫
大沼保昭『倭国と極東のあいだ』中央公論社
大平健『診察室に来た赤ずきん』新潮文庫
おかゆまさき『撲殺天使ドクロちゃん』メディアワークス;角川書店
尾川正二『帝国陸軍の教育と機構』新風舎
長田弘『読書百遍』岩波書店
賀東招二『疾るワン・ナイト・スタンド』富士見書房
鎌田絵里『やさしくなりたい』講談社
鎌田敏夫(著)『Body & money』新潮社
木下明美『女の言葉が男を変える』講談社
くれこゆう『恋のおクスリ「ふたりぶん」』講談社国会会議録
高史明『生きることの意味』筑摩書房
小浜逸郎『学校の現象学のために』大和書房
小林路子『なにがなんでも！きのこが好き』日本経済新聞社
五味康祐『ベートーヴェンと蓄音機』角川春樹事務所
今野敏『レッド』文藝春秋
西園寺一晃『穎超』潮出版社

斎藤栄『鎌倉流鏑馬殺人事件』光文社
さくらももこ『ちびまる子ちゃん』集英社
笹沢左保『悪魔岬』光文社
佐藤友哉『フリッカー式』講談社
左能典代『彼女たちのオフィスで』新潮社
ジークフリート・クラカウアー(著)/平井正(訳)『天国と地獄』筑摩書房
実著者不明『このミステリーがすごい！傑作選』別冊宝島編集部|編 宝島社
篠田節子『女たちのジハード』集英社
志水辰夫『裂けて海峡』新潮社
ジャン・ジュネ(著)/朝吹三吉(訳)『集英社ギャラリー「世界の文学」』集英社
ジョイ・フィールディング(著)/吉田利子(訳)『私のかげらを、見つけて』文藝春秋
秋
杉本苑子『姿見ずの橋』中央公論社
鈴木俊介『賢治のトランク』角川書店
宗田理『ぼくらの七日間戦争』角川つばさ文庫
高橋和島(著)『遠き雷鳴』桃園書房
喬林知『地には☉のつく星が降る！』角川ビーンズ文庫
滝本竜彦『NHK によろこそ！』角川書店
武田信行『強撃墜王 零戦トップエース西澤廣義の生涯』光人社
竹中敬明『知っておきたい国旗・旗の基礎知識』岐阜新聞社;岐阜新聞情報センター出版室(発売)
ダニエル・ペイズナー(著)/リチャード・ピッチョート(著)/春日井晶子(訳)『9月11日の英雄たち』早川書房
津原泰水『よろこそ雪の館へ』講談社
デイヴィッド・チャクルースキー(著)/立石光子(訳)『詩神たちの館』早川書房
東野司『SF バカ本』メディアファクトリー
東野司『消えた十二支の謎』早川書房
堂場瞬一『焔』実業之日本社
長嶋修『住宅購入学入門いま、何を買わないか』講談社
中村うさぎ『極道くん漫遊記』角川書店
夏目漱石『吾輩は猫である』偕成社
ナンシー関(著)/佐藤友紀(著)/小宮悦子(著)『無差別級』河出書房新社

西木正明『凍れる瞳』 文芸春秋
西村寿行『鷲』 徳間書店
橋本紡『月光スイッチ』 角川文庫
原田治『鱧の覇者』 学習研究社
ハリソン・E・ソールズベリー(著)/後藤洋一(訳)『変革の時代』 時事通信社
板東英二『プロ野球知らなきゃ損する』 青春出版社
東野圭吾『ブルータスの心臓』 光文社
ピーター・ラヴゼイ(著)/山本やよい(訳)『猟犬クラブ』 早川書房
平岩弓枝『一両二分の女』 文芸春秋
平塚晶人『空っぽのスタジアムからの挑戦』 小学館
平岩弓枝『白い序章』 中央公論社
平岩弓枝『葡萄街道(ワインロード)の殺人』 角川文庫
ファトゥ・ディオム(著)/飛幡祐規(訳)『大西洋の海草のように』 河出書房新社
藤子・F・不二雄『ドラえもん』 小学館
分担不明 『正しい靴の選び方』 古藤高良|編著 同文書院
又吉栄喜『陸蟹たちの行進』 新潮社
松本清張『顔・白い闇』 角川文庫
真保裕一『ホワイトアウト』 新潮文庫
眉村卓『魔性の町』 講談社
岬魅堂『とてものどかな雨日和』 リトル・ガリヴァー社
皆川亮二・たかしげ宙『スプリガン』 小学館
宮本美智子『カラダ革命の本』 講談社
群ようこ『午前零時の玄米パン』 角川書店
森田まさのり『ROOKIES』 集英社
森見登美彦『きつねのはなし』 新潮文庫
森村誠一『人間の証明』 角川書店
Yahoo!ブログ
Yahoo!知恵袋
山内美香『フレンズ』 双葉社
山田風太郎(著)/森まゆみ(著)/田村治芳(著)/高橋徹(著)『風々院風々風々居士』 筑摩書房

山本周五郎『ちいさこべ』新潮文庫
吉川英治『私本太平記』講談社
吉松安弘『東条英機暗殺の夏』新潮社
吉村淑甫『近藤長次郎』毎日新聞社
リチャード・カール(著)/黒田 晶子(訳)『鳥たちをめぐる冒険』講談社
リヒャルト・レアンダー(著)/山本 文子(訳)『ゆめのぶらんこ』女子パウロ会
渡部直己『日本プロ野球革命宣言』メタローク
渡辺淳一『愛のごとく』新潮社
渡辺淳一『北都物語』河出書房新社

参考文献

安達太郎 (1999) 『日本語疑問文における判断の諸相』くろしお出版
安達太郎 (2002) 「質問と疑い」宮崎和人他『モダリティ』くろしお出版
安達太郎 (2004) 「疑問文における反語解釈をめぐる覚え書き」『京都橘女子大学
研究紀要』第31号 pp.35-50 京都橘女子大学
案野香子 (2008) 「<反語>のモノカ文の構造と表現機能」『静岡大学国際交流セ
ンター紀要』第2号 pp.13-24
案野香子 (2009) 「単文のモノカ文の構文的特徴」『言語文化学研究(言語情報編)』
第4号 大阪府立大学人間社会学部 言語文化学科
案野香子 (2014) 「反語解釈が優先される「疑問形式」—疑問詞疑問文のケース
を中心に—」『第15回大会日本語文法学会発表予稿集』pp.220-227
案野香子 (2014) 「現代日本語反語の専用形式」『言語文化学研究(言語情報編)』
第9号 大阪府立大学人間社会学部 言語文化学科
案野香子 (2015) 「反語解釈が優先される疑問文—「誰が」文を中心に—」『Ars
Linguistica』vol.22 日本中部言語学会
今井邦彦 (2001) 『語用論への招待』大修館書店
王学群 (2003) 『現代日本語における否定文の研究』日本僑報社
尾上圭介 (1983) 「不定語の語性と用法」渡辺実(編)『副用語の研究』明治書院
鎌田修 (2000) 『日本語の引用』ひつじ書房
久野暲(1973) 『日本文法研究』大修館書店
グループ・ジャマシイ(1998) 『日本語文型辞典』くろしお出版
小松光三 (2001) 「たまるか」『日本語文法大辞典』明治書院仁田義雄 (1991) 『日

- 本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- 小松光三（2001）「反語」 山口秋穂・秋本守英編『日本語文法大辞典』明治書院
- 白川博之（1993）『働きかけ』『問いかけ』の文と終助詞「よ」の機能』『広島大学日本語教育学科紀要』3号 pp.7-14
- 砂川有里子（2005）『文法と談話の接点 日本語の談話における主題展開機能の研究』くろしお出版
- 田野村忠温（1990）『現代日本語の文法Ⅰ「のだ」の意味と用法』和泉選書
- 坪根由香里（1994）「ものだ」に関する一考察 日本語教育 84号 65-77
- 寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 寺村秀夫（1991）『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版
- 中西久美子（2012）『現代日本語のとりたて助詞と習得』ひつじ書房
- 仁田義雄（1991）『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- 仁田義雄（2009）『日本語のモダリティとその周辺』ひつじ書房
- 日本語教育学会（2005）『新版日本語教育事典』大修館書店
- 沼田善子（1986）「とりたて詞」『いわゆる日本語助詞の研究』凡人社
- 野田晴美（1997）『「の（だ）」の機能』くろしお出版
- 野田尚史（1995）「文の階層構造からみた主題ととりたて」益岡隆志・野田尚史・沼田善子（編）『日本語の主題と取り立て』pp.1-35 くろしお出版
- 野田尚史（1996）『「は」と「が」』くろしお出版
- 藤田保幸（2000）『国語引用構文の研究』和泉書院
- 宮崎和人（2005）『現代日本語の疑問表現 疑いと確認要求』ひつじ書房
- 森川正博（2009）『疑問文と「ダ」—統語・音・意味と談話の関係を見据えて』ひつじ書房
- 森田良行（1994）『基礎日本語辞典』角川書店
- 森山卓郎・仁田義雄・工藤浩（2005）『モダリティ』岩波書院
- 山寺由紀（2010）「wh付加詞構文—「何がこの本が面白いの」—」『日本語文法』10巻2号 pp160-176
- 森山卓郎（2000）「基本叙法と選択関係としてのモダリティ」森山卓郎・仁田義雄・工藤浩著『日本語の文法3 モダリティ』岩波書店所収 pp.3-78
- 山口堯二（1990）『日本語疑問表現通史』明治書院

山口佳也（2004）「「ものか」の反語文について」『十文字学園女子大学短期大学
部研究紀要』第 35 集

Blakemore.D.(1988)Understanding Utterance. Blackwell. (武内道子・山崎英
一訳 1994 『ひとは発話をどう理解するか—関連性理論入門』ひつじ書房